



Cisco コラボレーション エンドポイント ソフト ウェア 9

リリースノート

D15373.41

2020 年 1 月

目次

目次	2
マニュアルの変更履歴	12
コラボレーション エンドポイント ソフトウェア 9 の概要	15
このソフトウェア バージョンに関する重要な注意と警告	15
コラボレーション エンドポイント ソフトウェア 9 にアップグレードする前の機器 および機能に関する考慮事項.....	15
CE9.10.0 : SNMP のデフォルト設定	16
CE9.9.1 / CE9.8.2 : ソフトウェアアップロードのファイルサイズに関する警告 の修正	16
Cisco Webex Room Kit Mini 用 CE9.6.0.....	16
CE9.6.1 : オーディオコンソール	17
CE9.4.0 - デフォルト値の HTTP + HTTPS が HTTPS に変更される	17
ブリーフィングルームが予期どおりに動作しない	17
CE9 で廃止された機能 : Cisco TelePresence Server を使用した MultiStream.....	18
Cisco Webex Room 70 用 CE9.2.0 および Room 70 デュアル.....	18
カメラ ファームウェア.....	19
カメラ サポート	23
提供を停止したソフトウェアのバージョン	24
ソフトウェアおよび提供停止のポリシー	24
CE9.9.1 を含む CE9.x の提供停止	24
バグ CSCvf27027 による CE9.0.1 の提供停止	25
バグ CSCve94476 による CE9.1.1 の提供停止	25
周辺機器のアップグレードに伴う潜在的な問題による CE9.1.2 の提供停止	25
WPA2 (KRACK) の脆弱性による CE9.1.3、CE9.1.4 の提供停止.....	25
CE9.1.3、CE9.1.4、CE9.1.5、CE9.2.1、CE9.2.2、CE9.2.3、CE9.2.4、CE9.3.0 の提供停止.....	25

CE9.10.0 の新機能	26
CE9.10.0 の新機能の説明	27
Webex Edge for Devices	27
Webex 参加ボタン	28
その他の変更	29
新しいデフォルトパスワードポリシー	29
SNMP のデフォルト設定	29
Codec Plus 用 SpeakerTrack 60 のサポートを追加.....	29
CE9.9.2 の新機能	30
CE9.9.1 の新機能	31
CE9.9.0 の新機能	32
CE9.9.0 の新機能の説明	33
有線タッチリダイレクト	33
Web エンジン (デジタルサイネージ、Web ビュー、Web アプリ)	34
証明書.....	34
デジタルサイネージ	34
API 駆動型の Web ビュー	35
Web アプリ	35
UI 拡張エディタの更新.....	36
ホワイトボード機能の追加	37
ホワイトボードおよび注釈での付箋の作成、編集、移動	37
使用可能な新しいペンサイズ.....	37
ホワイトボードと注釈のコピーの作成.....	37
ネットワーク設定のユーザーインターフェイスの変更.....	37
TLS 設定の変更.....	38
外部 URL からカスタム壁紙とブランディングを取得するための API.....	38

超音波設定の変更.....	39
CE9.8.3 の新機能.....	40
CE9.8.2 の新機能.....	41
CE9.8.1 の新機能.....	42
CE9.8.0 の新機能.....	43
CE9.8.0 の新機能の説明.....	44
Cisco Webex Board オンプレミス展開のサポート	44
Webex からオンプレミス展開への切り替え.....	44
無限ホワイトボード	47
ホワイトボードを電子メールに格納する	48
Touch 10 のサポート.....	48
既知の問題.....	48
事前インストールされている認証局 (CA) のリスト.....	48
HttpClient の GET/DELETE および PATCH 要求のサポート	49
応答の本文とヘッダーの追加されたサポート	49
デバイス UI からの CMS 会議への参加者の追加	49
WebSocket 経由の xAPI: 認証プロトコルヘッダーを使用した認証	50
Cisco Webex Room Kit Mini、Room Kit、および Room 55 の USB ヘッドセットのサポート	51
Webex デバイスアクティベーションに使用する xCommand	51
Web インターフェイスを介した Webex に対するデバイスアクティベーションのサポート.....	52
Room Kit Mini を使用した USB 体験の改善.....	52
CUCM 12.5 SU1 からの製品固有の設定のサポート	53
その他の変更	53
CE9.7.2 の新機能.....	54
CE9.7.1 の新機能.....	55

CE9.7.1 の新機能の説明	56
WebSocket 経由の xAPI (XoWS).....	56
プライバシーモード: 通話のビデオを無効または有効にする	56
ルーム分析: 環境雑音レポート	57
Room Kit Mini: USB カメラとして使用されている 1080p ビデオの サポート	57
OSD でのお気に入りの編集 (DX70 および DX80).....	57
複数の Sony カメラ (SRG/EVI) の接続のサポート.....	57
オーディオコンソール: グラフィカルイコライザ.....	58
CE9.6.4 の新機能	59
CE9.6.3 の新機能	60
CE9.6.2 の新機能	61
CE9.6.1 の新機能	62
CE9.6.1 の新機能の説明	63
Cisco Webex Room Kit Mini のサポート	63
xAPI とマクロを使用したカスタム HTTP POST および PUT.....	63
室内制御: サードパーティ製 USB 入力デバイス	65
デフォルトの GUI パネルボタンを非表示にする.....	66
Touch 10 からお気に入りを直接編集する	67
追加のルームデバイスでの HDCP のサポート	67
オーディオコンソールアップデート	68
MRA シナリオでの ICE のサポート	69
アクティブコントロール: CMS 会議で UI から録音を開始する機能	69
その他の変更	69
CE9.5.3 の新機能	70
CE9.5.2 の新機能	71

CE9.5.1 の新機能	72
CE9.5.0 の新機能	73
CE9.5.0 の新機能の説明	74
機能プレビュー: オーディオ コンソール.....	74
Cisco Webex Codec Plus の PresenterTrack サポート	74
プレゼンテーションソースの構成	75
新しい会議室モード: 教室.....	76
キーボードローカリゼーション (韓国語).....	76
Cisco TelePresence SX80 および SX20 画面ステータスのモニ タリング (CEC)	76
Web GUI および CLI のウェルカムバナー	76
Spark から Webex への再ブランディング.....	76
CE9.4.2 の新機能	77
CE9.4.1 の新機能	78
CE9.4.0 の新機能	79
CE9.4.0 の新機能の説明	80
Cisco Webex Room Kit Pro のサポート	80
GUI での Spark から Webex への再ブランディング.....	80
GUI でのタイムゾーンと言語の設定の再スタイル.....	80
Cisco Webex Room Series およびレガシー MXP デバイス間での コールで H.263 を使用したコンテンツ共有のサポート	80
Cisco Webex Room シリーズと同時にペアリングされた Cisco 近接ク ライアントの最大数	81
管理設定ロックダウン構成の CUCM プロビジョニング.....	81
Sony SRG-120DH および EVI-120DH のサポート	82
DX シリーズにおける GUI での手動逆光補正の有効化.....	83
デフォルトの HTTP モードを HTTP + HTTPS から HTTPS へ変更.....	83
CE9.3.3 の新機能	84

CE9.3.2 の新機能	85
CE9.3.1 の新機能	86
CE9.3.0 の新機能	87
CE9.3.0 の新機能の説明	88
設定とカスタム要素のバックアップ/復元	88
スタート ガイド	88
複数のルームデバイス間での復元またはプロビジョニング	88
TMS プロビジョニング.....	89
UCM カスタマイズプロビジョニング	89
チェックサム検証.....	90
その他の情報.....	90
室内制御の更新	91
ISDN リンクのサポート	92
ワンボタンプッシュ (OBTP) スヌーズ	92
SX10 画面ステータスのモニタリング (CEC).....	92
発信前のコールレートの調整.....	92
着信音の選択と着信音の音量の調整.....	92
その他の変更	93
延期されたアップグレードの再開	93
UI の機密情報を非表示にする.....	93
アクセシビリティ: 着信時のスクリーンの点滅.....	93
Cisco Webex DX シリーズでの自己表示のミラーリング	93
CE9.2.6 の新機能	94
CE9.2.5 の新機能	95
CE9.2.4 の新機能	96

CE9.2.3 の新機能	97
CE9.2.2 の新機能	98
CE9.2.1 の新機能	99
CE9.2.1 の新機能の説明	100
エンドポイントの動作をカスタマイズするためのマクロフレームワーク	100
室内制御との連携を設計する.....	100
サポートされるシステム (マクロ フレームワーク).....	100
Cisco Webex Room 55 の HDCP サポート	101
ブランディングとハーフウェイクのカスタマイズ	101
ハーフウェイク	101
スリープなし	102
サポートされているシステム (ブランディング)	102
ソース構成.....	103
サポートされるシステム.....	103
HTTP プロキシのサポート	103
Touch 10 および画面上の UI 機能.....	104
UI での管理者設定のロックダウン	104
ホワイトボードへのスナップ設定の復元	104
IEEE 802.1x 設定 UI.....	104
キーボードのローカリゼーション (ロシア語、アラビア語、ヘブライ語)	104
右から左に読む言語のサポート (アラビア語およびヘブライ語)	105
Cisco Webex Quad Camera がある Cisco TelePresence SX80 のサポート	105
xAPI 経由での証明書のアップロード	105
xAPI 経由でのカスタム入力プロンプトのトリガー.....	105
Cisco Webex Room Kit、Room Kit Plus、および Room 55 のための USB からシリアルポートへのサポート	105
CMS ホスト会議 (アクティブコントロール) でのリモート参加者のミュート.....	106

室内制御	106
ウィジェット	106
プレビュー モード	107
ブリーフィングルーム	107
その他の機能や変更	108
Intelligent Proximity インジケータと UI トグルの除去	108
UI からのデバイスアクティベーションの変更による一部のシステム設定のリセット	108
CE9.1.6 の新機能	109
CE9.1.5 の新機能	110
CE9.1.4 の新機能	111
CE9.1.4 の新機能の説明	112
Cisco Webex Room Kit Plus + Precision 60 のサポート	112
CE9.1.3 の新機能	113
CE9.1.2 の新機能	114
CE9.1.1 の新機能	115
CE9.1.1 の新機能の説明	116
Cisco Webex Room Kit Plus のサポート	116
Cisco Webex Quad Camera スピーカーのトラッキング	116
Cisco Webex Room Kit と同等の機能 (Feature parity)	116
CMS ベースのミーティング向けの新しいデュアル スクリーン エクス ペリエンス	117
アクティブ コントロール	117
サポートされるビデオ システム	117
新しいウェイクアップ エクス ペリエンス	118
Cisco Webex DX70 および DX80 の Bluetooth ヘッドセットの サポート	119
Bluetooth 制御	119

Wi-Fi: WPA-EAP	120
信頼できる CA 証明書	120
マイナー変更	121
ルーム分析の追加	121
Cisco Webex DX70 および DX80 のセカンダリネットワークポートを無効にする構成	121
CE9.0.1 の新機能	122
CE9.0.1 の新機能の説明	123
Cisco Webex Room Kit のサポート	123
スピーカー トラッキング	123
最適な全体表示	123
Wi-Fi 対応	124
ルーム分析	124
COP ファイルを使用したファームウェアアップグレードのサポート	124
更新された [アクティビティサークル] ユーザーインターフェイス	125
Touch 10 の更新	125
新しい電話帳と共有トレイ UI	126
Touch 10 および Cisco Webex DX70/DX80 のキーボードの改善	126
Touch 10 でのコール転送	126
モーション検知ウェイクアップ	126
室内制御エディタの改善	126
マイナー変更	127
HTTPS クライアント証明書のサポート	127
新しいブリーフィングルーム制御	127
Web インターフェイスのローカル連絡先からお気に入りへの名称変更	127
追加された言語: ポルトガル語	127
CE9 の未解決および解決済みの不具合	128
バグ検索ツールの使用	128

既知の制限事項とアドバイザリ	134
制限事項とアドバイザリ	134
相互運用性	147
H.323 ゲートキーパー/トラバーサル サーバ	147
SIP レジストラ/プロキシ	147
ゲートウェイの相互運用性	147
MCU の相互運用性.....	148
ストリーミング サーバ	148
管理サーバ.....	149
エンドポイントの相互運用性.....	149
カメラ.....	152
最適な相互運用性を実現するためのCisco の推奨画面	153
xAPI の変更.....	154
Cisco TelePresence systems のハードウェア依存	155
概要.....	155
周辺機器のハードウェアの依存関係.....	159
Cisco TelePresence Touch 10 用の新しいハードウェア リビジョン	159
Quad Camera の新しいハードウェアリビジョン	160
Precision 60 の新しいハードウェア改定	161
最新のソフトウェア ファイル名	162
ソフトウェア整合性の確認	163

マニュアルの変更履歴

改定	日付	説明
41	2020 年 1 月 22 日	CVE-2020-3143 によるソフトウェアの提供停止 マイナー修正
40	2020 年 1 月 9 日	Webex Edge for Devices の前提条件の小規模な修正 互換性表の更新
39	2019 年 1 月 8 日	コラボレーションエンドポイントソフトウェア CE9.10.0.50f5888d087 のリリース CE9.9.2.f2110f7eda7 のリリース、マイナー リリース CE9.8.3.0a0afc64cb のリリース、マイナー リリース
38	2019 年 12 月 6 日	CE9.8.2.8f7c71a6a75 のリリース、マイナー リリース CE9.9.1.47f2e107480 のリリース、マイナー リリース
37	2019 年 10 月 22 日	コラボレーションエンドポイントソフトウェア CE9.9.0.46f7ea38fda のリリース
36	2019 年 9 月 5 日	CE9.8.1.0f71ac008c3 のリリース、マイナーリリース
35	2019 年 7 月 3 日	コラボレーション エンドポイント ソフトウェア CE9.8.0.be9359915d0 のリリース
34	2019 年 6 月 5 日	CE9.6.4.ce8365c8325 リリース、マイナーリリース
33	2019 年 5 月 29 日	CE9.7.2.3f94b3cda3f のリリース、マイナー リリース
32	2019 年 4 月 25 日	DX70 および DX80 向け CE9.7.1.30bff6140aa 対応の Android
31	2019 年 4 月 15 日	「OSD でのお気に入りの編集」に関するマイナーな修正
30	2019 年 4 月 3 日	コラボレーションエンドポイントソフトウェア CE9.7.1. のリリース 30bff6140aa のリリース CE9.6.3.28ab720ff52 のリリース、マイナー リリース CE9.5.3.168d55f2cde のリリース、マイナーリリース
29	2019 年 2 月 11 日	CE9.6.2.5672d8aee2f のリリース、マイナーリリース

改定	日付	説明
28	2019年1月11日	リリースに含まれるカメラソフトウェアに関するマイナーな修正と、p60 camera の新しいハードウェアリビジョンを特定する方法に関する情報が更新されました。
27	2019年1月7日	コラボレーションエンドポイントソフトウェア CE9.6.1..4516ae5aaa1 のリリース
26	2018年11月29日	CE9.5.2.8fcb81fa38fのリリース、マイナーリリース
25	2018年11月7日	CE9.5.1.be5deaf82e6 リリースおよびマイナーリリース、ならびに CE9.4.2.870837998d8、マイナーリリース
24	2018年9月24日	コラボレーションエンドポイントソフトウェア CE9.5.0.fb56c25334b のリリース
23	2018年9月10日	CE9.3.3.655fc73f140 リリース、マイナーリリース、および Android to CE9.4.1.6ae80e1f2ee for DX70 and DX80 のリリース
22	2018年8月21日	CE9.4.1.6ae80e1f2ee のリリース、マイナーリリース
21	2018年6月28日	マイナー修正
20	2018年6月27日	コラボレーション エンドポイント ソフトウェア CE9.4.0.62bc0aa4505 のリリース
19	2018年6月8日	CE9.2.6.7fa942b のリリース、マイナーリリース
18	2018年6月5日	CE9.3.2.748b9742af6 のリリース、マイナーリリース
17	2018年5月24日	DX70 と DX80 向けに Android から CE9.1.6.50b2793 への変換ソフトウェアのリリース
16	2018年5月4日	CE9.1.6.50b2793、CE9.2.5.9c6d387 および CE9.3.1.61bfa3834f2 のリリース、マイナーリリースのリリース
15	2018年4月11日	コラボレーション エンドポイント ソフトウェア CE9.3.0.7394032fb9c のリリース
14	2018年2月28日	CE9.2.4.4d375bc のリリース、マイナーリリース
13	2018年1月17日	CE9.2.3.3ba381b のリリース、マイナーリリース
12	2017年12月21日	CE9.2.2.f7269d5 のリリース (マイナーリリース)

改定	日付	説明
11	2017年12月14日	DX70 と DX80 向けに Android から CE9.1.5.d1c67fb への変換ソフトウェアのリリース
10	2017年11月24日	CE9.1.5.d1c67fb のリリース (マイナーリリース)
09	2017年11月21日	コラボレーション エンドポイント ソフトウェア CE9.2.1.360d0bf のリリース
08	2017年10月12日	DX70 と DX80 向けに Android から CE9.1.4.5f64050 への変換ソフトウェアのリリース
07	2017年9月11日	CE9.1.4.3ae3106 にほかの機能説明の追加
06	2017年9月5日	CE9.1.4.3ae3106 のリリース (マイナーリリース)
05	2017年8月14日	CMS デュアル スクリーン エクスペリエンスに必要な CUCM および VCS の最小ソフトウェアのバージョンを更新。他の小規模な修正を含む
04	2017年7月19日	CE9.1.3.75ff735 のリリース (バグ修正を含むマイナーリリース)
03	2017年6月22日	CE9.1.2.454d186 のリリース (バグ修正を含むマイナーリリース)
02	2017年6月21日	コラボレーション エンドポイント ソフトウェア 9.1.1.9675283 のリリース
01	2017年4月10日	コラボレーション エンドポイント ソフトウェア 9.0.1.4c1e2ba のリリース

コラボレーション エンドポイント ソフトウェア

9 の概要

このリリースノートでは、Cisco Webex Room Kit、Room Kit Plus、Room Kit Pro、Room 55、Room 70、Room 70 Dual、Board 55/55S、Board 70/70S、Board 85S、Cisco TelePresence MX200 G2、MX300 G2、MX700、MX800、MX800 Dual、SX10、SX20、SX80、Cisco Webex DX80 および DX70 コラボレーションエンドポイントソフトウェアバージョン 9 に組み込まれている機能について説明します。コラボレーション エンドポイントソフトウェアは、前述のエンドポイントでのみサポートされます。

Collaboration Endpoint Software バージョン 9 は、<http://www.cisco.com> からダウンロードできます。

このソフトウェア バージョンに関する重要な注意と警告

重要な点として、TC ソフトウェアから コラボレーション エンドポイント ソフトウェアにアップグレードする前に、現在の環境が変更内容をサポートすることを確認してください。アップグレードする前に、リリースノートを十分にお読みになることをお勧めします。

コラボレーション エンドポイント ソフトウェア 9 にアップグレードする前の機器 および機能に関する考慮事項

古いバージョンから CE9 にアップグレードする前に、次のことを考慮してください。

- これまでに CE ソフトウェアをご使用でない場合は、アップグレード前に CE8 リリースノートのアップグレードの考慮事項を参照してください。
- アップグレード前に、Cisco TelePresence Server で MultiStream を使用していないことを確認します。この機能は CE9 で廃止されたので、デュアル スクリーン エクスペリエンスには CMS を使用してください。
- Touch 10 は、CE8 と CE9 とで機能に違いがあります。Touch 10 で利用できない機能の大半は、コーデックの Web インターフェイスから設定できます。詳細については、「CE9.0.1 の新機能の説明」の「Touch 10 の更新」セクションにある、機能差の一覧を参照してください。
- ブリーフィングルーム モードを使用している場合は、「ブリーフィングルーム」の既知の制限のセクションを参照してください。

- TMS を介して Cisco Webex Room デバイスをアップグレードする場合、COP ファイルを使用する必要があります。

アップグレード パスとダウングレード パス

- TC7.3.6 以降または CE8.x から CE9 への直接アップグレードがサポートされています。
- Cisco Webex Room シリーズは CE9 以降でサポートされます。このドキュメントに後述されているハードウェア依存関係のセクションを参照してください。
- CE9 から CE8.x または TC7.3.6 以降に直接ダウングレードできます。

CE9.10.0 : SNMP のデフォルト設定

CE9.10.0 で動作するデバイス（初期設定リセット状態）の SNMP デフォルト設定が変更され、デフォルトで SNMP がオフ、デフォルトの SNMP コミュニティ名が空白になっています。それ以前のバージョンですでに SNMP 設定を行っている状態からアップグレードする場合は、その設定が維持されます。CE9.10.0 以降を実行しているデバイスを初期設定にリセットすると、この新しいデフォルト設定が有効になることに注意してください。

CE9.9.1 / CE9.8.2 : ソフトウェアアップロードのファイルサイズに関する警告の修正

Cisco Webex Room デバイスを Web インターフェイスから COP ファイルを使用してアップグレードしようとする、ソフトウェアのアップロード制限が 1GB に設定されているというファイルサイズ制限の警告が表示されます。この警告メッセージが表示される場合は、まず、この問題が解決済みである CE 9.8.2 または CE 9.9.1 にアップグレードしてください。これは、たとえば CE9.9.0 から CE9.10.0 にアップグレードする場合に、このエラーメッセージが Web インターフェイスに表示される可能性があることを意味します。CUCM を使用する方法または Web インターフェイス以外の方法でアップグレードする場合は、影響ありません。この問題は、比較的新しい Cisco Webex Room Device ポートフォリオにのみ影響します。

Cisco Webex Room Kit Mini 用 CE9.6.0

Cisco Webex Room Kit Mini は CE9.6.0 以降でサポートされ、最初はこのソフトウェアのバージョンが同梱されています。CE9.6.0 は、これらのシステムのためにのみリリースされており、Cisco.com では公表されていません。Cisco.com で入手可能な最新バージョンのソフトウェアを使用することをお勧めします。

CE9.6.1 : オーディオコンソール

CE 9.5.x でオーディオコンソールを使用している場合は、CE 9.5.x から CE 9.6.1 以降にアップグレードすると、オーディオコンソール設定が消去されることに注意してください。アップグレードする前にオーディオコンソールの設定をメモしておきます。CE9.6.1 以降では、CE9.5.x からのオーディオコンソールバックアップを復元することはできません。セットアップは、1 つのデバイス上で手動で復元する必要があり、その後バックアップして他のデバイスに配布することができます。CE9.5.x でオーディオコンソールを使用していない場合は、この警告を無視できます。オーディオコンソールは、CE9.5.0 で機能プレビューとして導入され、CE9.6.1 から完全にサポートされていることに注意してください。

サポートされているデバイス: Cisco Webex Room Kit Pro、Cisco TelePresence SX80、Cisco TelePresence MX700、MX800 (D)、Cisco Webex Room 70G2

CE9.4.0 - デフォルト値の HTTP + HTTPS が HTTPS に変更される

NetworkServices HTTP モードのデフォルト値 CE9.4.0 が HTTP+HTTPS から変更されます。この変更によって、デフォルト構成でのルーム デバイスのセキュリティを強化します。以前のソフトウェアのバージョンからのアップグレードはデフォルト値を自動的に変更されず、現行の HTTP 実装の破損を回避するために HTTP + HTTPS が維持されます。この変更は CE9.4.0 以降で実行される新しいシステムか、デバイスが CE9.4.0 上で工場出荷時の設定にリセットされている場合に表示されます。その後、HTTP 要求は HTTPS に自動的にリダイレクトされ、最初の訪問時にデバイスは自己署名証明書を使用しているため、「非セキュアな接続の警告」が表示されます。Web インターフェイスへと進むには、ブラウザで例外を作成する必要があります。これは、これまでに訪問したことがない、異なるブラウザを使ってウェブ インターフェイスにアクセスした場合、またはデバイスが工場出荷時の設定にリセットされている場合を除き、1 回限りの操作となります。

ブリーフィンググループが予期どおりに動作しない

ブリーフィンググループに、CE9.0.x および CE9.1.x で有効にすると機能が予期どおりに動作しなくなるという複数の問題がありました。これらのソフトウェアのバージョンでブリーフィンググループを使用するユーザは、それを無効にするか、CE9.2.1 または最新の利用可能なバージョンにアップグレードすることをお勧めします。ブリーフィンググループはデフォルトでは無効になっており、特別ルームの設定は、Cisco TelePresence SX80、MX700、MX800、および MX800D でのみ有効です。この問題は、CE9.2.1 以降で修正されています。

CE9 で廃止された機能 : Cisco TelePresence Server を使用した MultiStream

TelePresence Server ベースで MultiStream を実装するためのサポートは、CE9 から廃止されます。CMS ベースの会議向けの新しいデュアルスクリーンエクスペリエンス (CE9.1.3 以降が必要) に対して集中的な取り組みが行われる予定です。TelePresence Server ベースの MultiStream のサポートが必要な場合は、CE8.3.x のままにすることをお勧めします。

Cisco Webex Room 70 用 CE9.2.0 および Room 70 デュアル

Cisco Webex Room 70 は CE9.2.0 以降でサポートされ、最初はこのソフトウェアのバージョンが同梱されています。CE9.2.0 は、これらのシステムのためにのみリリースされており、Cisco.com では公表されていません。入手可能な最新バージョンのソフトウェアを使用することをお勧めします。

他の制限事項とアドバイザリ

このドキュメントの既知の制限のセクションを参照してください。

カメラ ファームウェア

以下の表で、CE ソフトウェアリリースに含まれているカメラソフトウェアの概要を確認できます。
リストに掲載されているのは、新しいカメラ ソフトウェアのみです。このリストに掲載されていない場合、そのカメラ ソフトウェアは以前のリリースと同じままです。

リリース	ハードウェア名/ID	ソフトウェア名/ID	注記
CE9.10.0	Precision 60 55000000	HC9.10.0.50f5888d087	
CE9.9.2	Precision 60 55000000	HC9.9.2.f2110f7eda7	
CE9.9.1	Precision 60 55000000	HC9.9.1.47f2e107480	
CE9.9.0	Precision 60 55000000	HC9.9.0.46f7ea38fda	
CE9.8.3	Precision 60 55000000	HC9.8.3.0a0afc64cb	
CE9.8.2	Precision 60 55000000	HC9.8.1.8f7c71a6a75	
CE9.8.1	Precision 60 55000000	HC9.8.1.0f71ac008c3	
CE9.8.0	Precision 60 55000000	HC9.8.0.be9359915d0	
CE9.7.2	Precision 60 55000000	HC9.7.2.3f94b3cda3f	
CE9.7.1	Precision 60 55000000	HC9.7.1.30bff6140aa	
CE9.6.4	Precision 60 55000000	HC9.6.4.ce8365c8325	
CE9.6.3	Precision 60 55000000	HC9.6.3.28ab720ff52	
CE9.6.2	Precision 60 55000000	HC9.6.2.5672d8aee2f	

リリース	ハードウェア名/ID	ソフトウェア名/ID	注記
CE9.6.1	Precision 60 55000000	HC9.6.0.4516ae5aaa1	
CE9.5.3	Precision 60 55000000	HC9.5.3.168d55f2cde	
CE9.5.2	Precision 60 55000000	HC9.5.0.8fcb81fa38f	
CE9.5.1	Precision 60 55000000	HC9.5.0.be5deaf82e6	
CE9.5.0	Precision 60 55000000	HC9.5.0.fb56c25334b	
CE9.4.2	Precision 60 55000000	HC9.4.1.870837998d8	
CE9.4.1	Precision 60 55000000	HC9.4.1.6ae80e1f2ee	
CE9.4.0	Precision 60 55000000	HC9.4.0.62bc0aa4505	
CE9.3.3	Precision 60 55000000	HC9.3.3.655fc73f140	
CE9.3.2	Precision 60 55000000	HC9.3.2.748b9742af6	
CE9.3.1	Precision 60 55000000	HC9.3.1.61bfa3834f2	
CE9.3.0	Precision 60 55000000	HC9.3.0.7394032fb9c	
CE9.2.6	Precision 60 55000000	HC9.2.5.7fa942b	
CE9.2.5	Precision 60 55000000	HC9.2.5.9c6d387	
CE9.2.4	Precision 60 55000000	HC9.2.4.4de75bc	

リリース	ハードウェア名/ID	ソフトウェア名/ID	注記
CE9.2.3	Precision 60 55000000	HC9.2.3.3ba381b	
CE9.2.2	Precision 60 55000000	HC9.2.2.f7269d5	
CE9.2.1	Precision 60 55000000	HC9.2.1.360d0bf	
	PrecisionHD 1080p 4x S2 Precision 40 53000000	S01777-2.2 RC17 ID:20040	
CE9.1.6	Precision 60 55000000	HC9.1.6.50b2793	
CE9.1.5	Precision 60 55000000	HC9.1.5.d1c67fb	
CE9.1.4	Precision 60 55000000	HC9.1.4.3ae3106	
CE9.1.3	Precision 60 55000000	HC9.1.3.75ff735	
CE9.1.2	Precision 60 55000000	HC9.1.2.454d186	
CE9.1.1	Cisco Webex Quad Camera 0C000000	CE9.1.1.9675283	既知の制限を参照して くださいソフトウェア のバージョンが常にリ リース済みのソフトウ ェアと同じであると表 記される
	Precision 60 55000000	HC9.1.1.9675283	
	PrecisionHD 1080p 4x S2 Precision 40 53000000	S01777-2.2 RC15 ID:20038	

リリース	ハードウェア名/ID	ソフトウェア名/ID	注記
CE9.0.1	Precision 60 55000000	HC9.0.1.5c1e2ba	
	PrecisionHD 1080p 12x Precision 12x 5000000(1-5)	S01718-4.0 FINAL ID:40085	
	PrecisionHD 1080p 2.5x 54000000	S01777-2.2 RC14 ID:20037	
	PrecisionHD 1080p 4x S2 Precision 40 53000000	S01777-2.2 RC14 ID:20037	

カメラ サポート

コーデック	カメラ	サポートに関するコメント
Cisco Webex Room Kit Pro	Precision 60	フル サポート
	Cisco Webex Quad Camera	フル サポート
	SpeakerTrack 60	フル サポート
	Sony SRG-120DH Sony EVI-120DH	IP のペアリング、およびパン、チルト、ズーム機能がある基本的な使用方法はサポートされています。
Cisco Webex Room Kit Plus	Precision 60	CE9.1.4 からのフル サポート
	Sony SRG-120DH Sony EVI-120DH	IP のペアリング、およびパン、チルト、ズーム機能がある基本的な使用方法はサポートされています。
	Cisco Webex Quad Camera	フル サポート
	SpeakerTrack 60	フルサポート (CE9.10.0 以降)
SX20	PrecisionHD 1080p 2.5x	フル サポート
	PrecisionHD 1080p 4x S2 Precision 40	フル サポート
	PrecisionHD 1080p 12x	フル サポート
SX80	Cisco Webex Quad Camera	CE9.2.1 からのフル サポート
	Precision 60	フル サポート
	Sony SRG-120DH Sony EVI-120DH	IP のペアリング、およびパン、チルト、ズーム機能がある基本的な使用方法はサポートされています。
	SpeakerTrack 60	フル サポート
	PrecisionHD 1080p 4x S2 Precision 40	フル サポート
	PrecisionHD 1080p 12x	パン、ティルト、ズーム機能がある基本的な使用はサポートされます。 * このカメラのソフトウェアアップグレードは、このコーデックではネイティブにサポートされません。 * デイジーチェーン接続のカメラは動作する可能性がありますが、テストが不足しているため、SX80 でサポートされていません。

提供を停止したソフトウェアのバージョン

ソフトウェア内で重大な問題が発見された場合、そのソフトウェア バージョンは保留にされます。これは、問題の影響があるソフトウェアのバージョンをユーザがダウンロードしてインストールするのを防止するための措置です。ソフトウェア バージョンが保留にされる前に、交換用ソフトウェアが必ず用意されます。

ソフトウェアおよび提供停止のポリシー

セキュリティ上の修正後に脆弱性の恐れがあるソフトウェアの提供を回避するために、ダウンロードセクションでは定期的に古いソフトウェアバージョンが提供停止となります。一般的なルールとして、2020 年 1 月より、ダウンロードできるのは最新リリースおよびその 1 つ前のバージョンとなります。それよりも古いバージョンのソフトウェアは cisco.com から削除されます。

例：

If CE9.10.0 および CE9.10.1 がリリース済みのときに CE9.10.2 が提供開始されると、CE9.10.0 は削除されます。

さらに、一般的なルールとして、シスコは最新のマイナーリリース CE9.10.x とその前のマイナーリリース CE9.9.x をサポートします。

X.X.x = メジャー . マイナー . メンテナンス

この場合は、CE9.10.2 が提供開始されるまでは CE9.10.0 と CE9.10.1 をダウンロードできます。CE9.9.3 と CE9.9.4 の場合も同様に、CE9.9.5 が提供開始されると CE9.9.3 は削除されます。

サポートされているハードウェアまたは特定の機能の導入がメジャーリリースに依存している場合には、例外として扱われます。古いメンテナンスリリースの提供停止ルールはそのまま適用されます。

CE9.9.1 を含む CE9.x の提供停止

CE 9.9.1 を含むすべての CE9.x バージョンは、影響を受けるソフトウェアバージョンで脆弱性が見つかったため、提供停止となります。詳細については、提供停止の通知を参照してください。

<https://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/docs/telepresence/endpoint/software/ce9/release-notes/TC7-CE8-CE9-deferral-notice.pdf> [英語]

バグ CSCvf27027 による CE9.0.1 の提供停止

CE9.0.1 は、ソフトウェアのバグ CSCvf27027 が原因で提供が停止されました。詳細については、提供停止の通知をご参照してください。

https://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/docs/telepresence/endpoint/software/ce9/release-notes/cisco_ce901_deferral_notice.pdf [英語]

バグ CSCve94476 による CE9.1.1 の提供停止

CE9.1.1 は、Cisco Webex Quad Camera のアップグレードが失敗するソフトウェア バグ (CSCve94476) により、提供が停止されました。この障害は、Cisco Webex コーデックプラスと Cisco Webex Quad Camera がカメラを接続する前に工場出荷時にリセットされた場合に発生します。

<http://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/docs/telepresence/endpoint/software/ce9/release-notes/cisco-ce911-deferral-notice.pdf>

周辺機器のアップグレードに伴う潜在的な問題による CE9.1.2 の提供停止

CE9.1.2 を実行している周辺機器のアップグレード時の問題が特定されています。この問題により周辺機器のアップグレードが失敗し、何回かの起動が必要になる場合があります。この問題の修正を含む CE9.1.3 を使用してください。以下のリンクに従って、延期通知を参照してください。

<http://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/docs/telepresence/endpoint/software/ce9/release-notes/cisco-ce912-deferral-notice.pdf>

WPA2 (KRACK) の脆弱性による CE9.1.3、CE9.1.4 の提供停止

WPA2 (KRACK) に対してシステムを脆弱にする Wi-Fi をサポートするルームデバイスで問題が特定されています。Wi-Fi をサポートしているデバイスでは、ソフトウェアが遅延しています。以下のリンクに従って、遅延通知を参照してください。

<https://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/docs/telepresence/endpoint/software/ce9/release-notes/CE830-CE831-CE832-CE833-CE913-CE914-deferral-notice.pdf>

CE9.1.3、CE9.1.4、CE9.1.5、CE9.2.1、CE9.2.2、CE9.2.3、CE9.2.4、CE9.

3.0 の提供停止

詳細については、遅延通知を参照してください。

<https://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/docs/telepresence/endpoint/software/ce9/release-notes/CE913-CE914-CE915-CE921-CE922-CE923-CE924-CE930-deferral-notice.pdf>

CE9.10.0 の新機能

- Webex Edge for Devices
- Webex 参加ボタン
- DX70 および DX80 向けに Android から CE9.10.0 への変換ソフトウェアのリリース
(2020 年 1 月 17 日)
- その他の変更
 - デフォルトのパスフレーズポリシー
 - 「強力なセキュリティモード」をリプレース
 - SNMP のデフォルト設定
 - Codec Plus 用 SpeakerTrack 60 のサポートが追加されました。
 - CVE-2020-3143 に関連するセキュリティ上の問題を解決しました。
 - CSCvs67680
 - CSCvs45241

詳細については、公式のセキュリティアドバイザリを参照してください。

- <https://tools.cisco.com/security/center/content/CiscoSecurityAdvisory/cisco-sa-telepresence-path-tr-wdrnYEZZ> [英語]

影響を受ける古いバージョンのソフトウェアは削除され、ダウンロードできなくなっています。詳細については、ソフトウェアの提供停止に関する通知を参照してください。

- <https://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/docs/telepresence/endpoint/software/ce9/release-notes/TC7-CE8-CE9-deferral-notice.pdf> [英語]

CE9.10.0 の新機能の説明

Webex Edge for Devices

CE9.10.0 には、オンプレミスのデバイスを Webex クラウドにリンクできる Webex Edge for Devices のサポートが付属しています。デバイスをリンクすると、オプションのクラウド機能の一部が有効になりますが、デバイスの設定管理、登録、コール、メディアサービスはオンプレミスのままです。

利用には Cisco Webex デバイスコネクタツールが必要です。このツールは [Webex Control Hub] > [デバイス (Devices)] > [リソース (Resources)] からダウンロードできます。Webex デバイスコネクタアプリは 2020 年の早い時期のリリースを目指しており、CUCM、TMS デバイスエクスポート、または CSV ファイルを使用して、デバイスを一括でリンクできるようになります。

デバイスが Webex Edge for Devices に正常にリンクされると、クラウドに登録されている他のデバイスと共に Webex Control Hub に表示されます。リンクされたデバイスでは、現在、以下のクラウド機能を使用できます。

- クラウド xAPI
 - Webex Teams API 経由でデバイスの xAPI を使用できます。
 - さらに包括的な情報とマニュアルについては、<https://developer.webex.com> を参照してください。
- Webex Control Hub でのオンライン/オフラインおよび診断ステータス
 - オンライン/オフラインまたは診断ステータスが変更された場合に、Control Hub のアラート経由でのデバイスアラートの受信をサポート
- Webex Control Hub でデバイスの履歴分析を利用可能
- ハイブリッドカレンダーのサポート
- Webex Assistant

デバイスを Webex Edge for Devices にリンクする前に、まずデバイスのオンプレミスサービスを登録することを推奨します。

デバイスが Webex Edge for Devices にリンクされている場合は、そのデバイスをサポート対象外のソフトウェアバージョン (CE9.9.x 以前など) にダウングレードしないでください。Webex Edge for Devices をサポートしないソフトウェアバージョンにダウングレードする前に、まずデバイスを初期設定にリセットすることを推奨します。

デバイスをリンクする方法の詳細については、管理者ガイドの Webex ヘルプセンター (help.webex.com) を参照してください。

Webex Edge for Devices の前提条件

- ソフトウェアバージョン 9.10.0 以降
- CUCM 12.5su1 または 11.5.x が最新のデバイスパックと共にインストールされていること
- Webex Control Hub 管理者アクセス権
- Webex デバイスコネクタツール (Webex Control Hub からダウンロード可能)
- クラウドサービスライセンス (Cisco Collaboration Flex Plan)
 - Webex Edge for Devices にリンクされているデバイスでは、Flex Agreement または Enterprise Agreement を通じて提供される有効なデバイスサブスクリプションが必要になります。

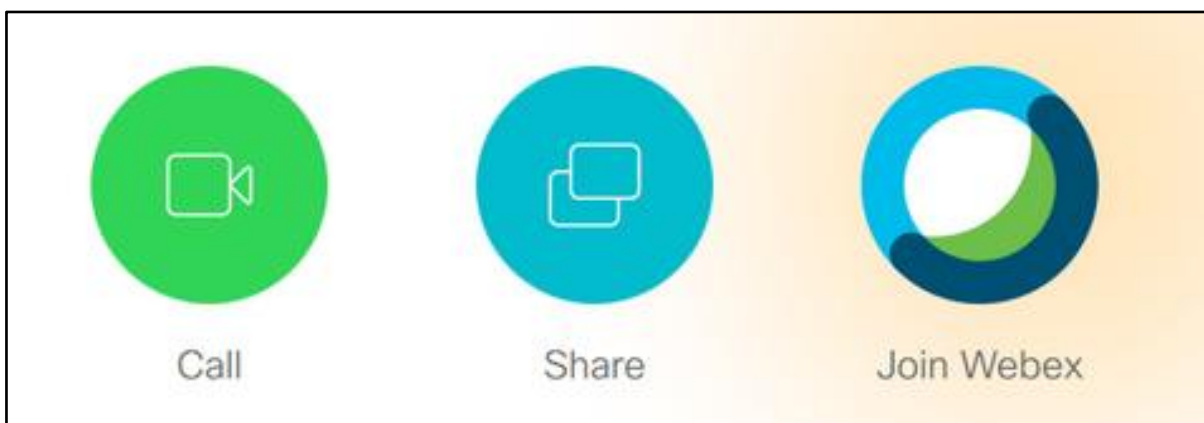
パートナーにご注文いただく必要がある Flex Agreement の PID は A-FLEX-DEVICE or A-FLEX です。または、Enterprise Agreement か Active Host Agreement を締結している必要があります。Active Host Agreement では、お使いのデバイスでの Webex Control Hub 使用権限が付与されます。

Webex 参加ボタン

Webex ミーティングへの参加を簡単にする新しいネイティブのボタンを追加しました。Webex ミーティングに参加するには、ミーティング番号を入力します。

このボタンはデフォルトでは有効になっていますが、Web インターフェイスまたは xAPI を使用してデバイス設定からいつでも無効にできます。

この機能を使用するには、インフラストラクチャが webex.com ドメインを正常にルーティングできる必要があります。



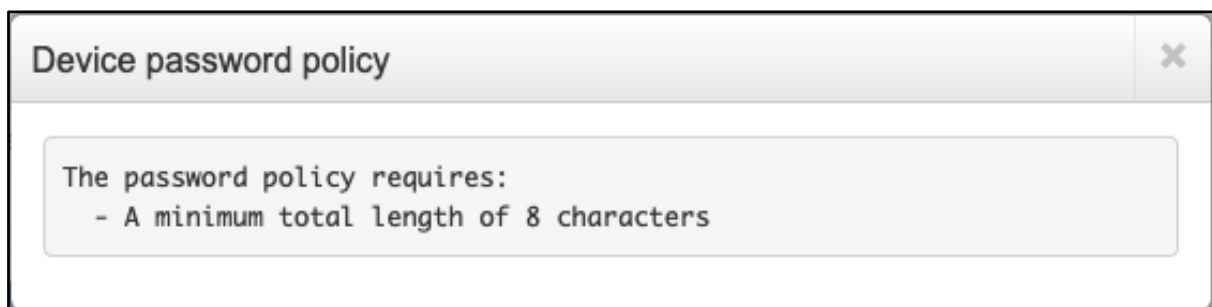
その他の変更

新しいデフォルトパスワードポリシー

導入環境にパスワードポリシーを容易に定義できるように、一連の新しい xConfigurations が追加されました。デバイスのデフォルトのパスワードは変更されていませんが、新しいパスワードに関するポリシーは、デフォルトで 8 文字以上を要求するように変更されています。

新しいパスワードポリシー xConfigurations の詳細については、管理者ガイドを参照してください。これらは、Web インターフェイスのデバイス設定で、[ユーザー管理 (UserManagement)] > [パスワードポリシー (PasswordPolicy)] を選択して変更することもできます。

ユーザー管理サイト ([セキュリティ (Security)] > [ユーザー (Users)]) に、現在のパスワードポリシーを表示するための [情報 (info)] アイコンが新しく追加されました。新しいパスワードがパスワードポリシーに従っていない場合、エラーが表示されます。



この新しいパスワードポリシー設定によって「強力なセキュリティモード」が置き換えられ、CE9.10.0 以降では使用できなくなりました。

SNMP のデフォルト設定

CE9.10.0 で、SNMP のデフォルト設定が変更されました。古いバージョンから CE9.10.0 にアップグレードする場合は、既存の設定が保持されます。ただし、デバイスを初期設定にリセットするか、CE9.10.0 以降を搭載した新しいデバイスを受け取る場合、デフォルトの設定では SNMP がオフに、デフォルトのコミュニティ名が未指定の状態になります。

Codec Plus 用 SpeakerTrack 60 のサポートを追加

CE9.10.0 より、Codec Plus に SpeakerTrack 60 のサポートが追加されました。

CE9.9.2 の新機能

- マイナーリリース (バグ修正を含む)
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。
 - CVE-2020-3143 に関連するセキュリティ上の問題を解決しました。
 - CSCvs67680
 - CSCvs45241

詳細については、PSIRT セキュリティアドバイザリを参照してください。

- <https://tools.cisco.com/security/center/content/CiscoSecurityAdvisory/cisco-sa-telepresence-path-tr-wdrnYEZZ> [英語]

影響を受ける古いバージョンのソフトウェアは削除され、ダウンロードできなくなっています。ソフトウェアの提供停止に関する通知を参照してください。

- <https://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/docs/telepresence/endpoint/software/ce9/release-notes/TC7-CE8-CE9-deferral-notice.pdf> [英語]

CE9.9.1 の新機能

- マイナーリリース (バグ修正を含む)
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。
 - Web インターフェイスから Cisco Webex Room シリーズデバイス上のサイズの大きい cop ファイルをアップロードする際の問題 (CSCvr90764) が修正されました。

CE9.9.0 の新機能

- 有線タッチリダイレクト
- Web エンジン (デジタルサイネージ、Web ビュー、Web アプリ)
 - デジタル サイネージ
 - API 駆動型の Web ビュー
- UI 拡張エディタの更新
 - 室内制御 (In-Room Control) は UI 拡張に名前が変更されました。
 - Web アプリ
- ホワイトボード機能の追加
 - ホワイトボード上の付箋や注釈の作成、編集、および移動
 - ホワイトボードペンの新しいサイズ
 - ホワイトボードと注釈のコピーの作成
- ネットワーク設定のユーザーインターフェイスの変更
- TLS 設定の変更
- 外部 URL からカスタム壁紙とブランディングを取得するための API
- 超音波設定の変更

CE9.9.0 の新機能の説明

有線タッチリダイレクト

有線タッチリダイレクトのサポートが提供され、Windows を実行している PC を、Webex Board の画面上のタッチインターフェイスを使用して制御できるようになりました。この機能は、第 2 世代のボード (Webex Board 55S、70S、および 85S) でのみ使用できます。

タッチリダイレクトを使用するには、HDMI ケーブル (有線共有) と、USB-C to USB-C ケーブルまたは USB-A to USB-C ケーブルを使用して Webex Board に PC を接続します。この機能はデフォルトでは有効になっており、コール中でないときに通常どおり画面を共有して開始することができます。

Webex Board でより簡単に PC を制御できるようにするには、PC をタブレットモードに切り替えます。これは通常、タスクバー上で時刻と日付の横に表示されているアクションセンターを選択することで実行できます。ここで、タブレットモードを選択できます。

注：インストールされているブラウザでのドラッグアンドドロップでタッチ転送を使用するには、通常はブラウザでこの設定を手動で有効にする必要があります。

たとえば、Microsoft Edge での設定は次のようになります。

「about: flags」ページで [タッチイベントを有効にする (Enable Touch Events)] を [常にオン (always on)] に設定します。

これらの設定はブラウザに固有のものであるため、ご使用のブラウザでこれらの設定を有効にする方法については、必要に応じてオンラインヘルプページを参照してください。

既知の制限事項については、このドキュメントの「既知の制限事項とアドバイザリ」の項を参照してください。

Web エンジン (デジタルサイネージ、Web ビュー、Web アプリ)

新しい Web エンジン機能を使用すると、画面上に表示される Web ページを開くことでデバイス上に Web ビューを作成できます。これは、デジタルサイネージ、Web アプリ、API 駆動 Web ビューを動作させる基本機能です。

ポートフォリオに含まれる新しいルームデバイスはすべて Web ビューをサポートしますが、画面上で Web ビューを操作できるインタラクティブモードをサポートするのは現時点では Webex Board のみです。

WebM や MPEG-4 など、標準のビデオコードがサポートされています。デコーディングはソフトウェアを使用して実行されます。解像度が 1080p を超えるとパフォーマンスが低下する可能性があるため、推奨しません。

オーディオもサポートされますが、デフォルトでは無効になっているため、設定で有効にする必要があります。音量はデバイスの音量レベルに従いますが、JavaScript オーディオフレームワークを使用して音量およびミュートの制御を適用することができます。

この機能と xAPI コマンドの詳細については、[管理者ガイド](#)を参照してください。

証明書

Web エンジンは、プレインストールされた既知の認証局の一覧を使用します。カスタムの認証局は現時点ではサポートされていません。

デジタルサイネージ

デジタルサイネージは、デバイスがハーフウェイク状態になったときに Web エンジンを使用して自動 Web ビューを作成する機能です。ハーフウェイク画面を表示する代わりに指定された URL を開き、デバイスがスタンバイモードになるまでの間、コンテンツを表示します。スタンバイタイマーを設定することで、スタンバイになるまでの間、より長い時間にわたって Web ページを画面に表示するように設定できます。

この機能は、現在使用されていない画面を再利用して、会社や今後のイベントの情報、あるいは単に画像を表示するのに有用です。この機能は、AppSpace などの統合機能と共に使用することも、マクロフレームワークを使用して動作をカスタマイズすることもできます。

Webex Board など、インタラクティブな Web ビューをサポートするデバイスを使用すると、デジタルサイネージがアクティブな状態で、表示されているコンテンツをユーザーが操作できます。

デジタルサイネージはデフォルトでは有効になっていないため、URL を指定して設定する必要があります。また、Web エンジンが有効になっている必要があります。

API 駆動型の Web ビュー

xAPI を使用して Web ビューを開くと、UI 拡張、マクロ、または外部の統合機能を使用してカスタムの動作を簡単に作成できます。

Web アプリ

UI 拡張エディタを使用して Web アプリを作成できます。詳細については、UI 拡張エディタ（旧称：室内制御エディタ）について説明する次の項を参照してください。

UI 拡張エディタの更新

室内制御は「UI 拡張」に名前が変更されました。Web インターフェイスでリンクをクリックすると、エディタに直接アクセスできるようになりました。起動前のページが削除され、エディタをローカルにダウンロードするためのリンクがエディタ自体のメニューに移動しました。

エディタの外観は同じですが、UI パネルの作成を簡素化し、作業効率を向上させるいくつかのアップデートが行われました。

- パネルリストに色が追加され、パネルとそれに割り当てられている色を識別しやすくなりました。
- ウィジェットをエディタウィンドウの下方に移動したため、ウィジェットとプロパティを切り替える必要がなくなりました。
- Web アプリケーションボタンが新しく追加されました。現時点では、すべての Webex Board モデルのみでサポートされています。UI 拡張エディタに、Web アプリケーションボタンを作成するためのオプションが表示されます。
 - Web アプリケーションボタンを使用するには、デバイスで Web エンジンが有効になっている必要があります。
 - このボタンを使用して画面上に Web ビューを開かせるのに、マクロは必要ありません。Web アプリケーションボタンを使用して画面上に開く有効な外部 URL を入力してください。
 - Web アプリケーションのアイコンは、サイトのアイコン（通常はサイトの favicon）に基づいて自動的に選択されます。Web アプリケーションのアイコン URL フィールドを使用して、ボタンのアイコンとして表示させる特定のアイコンに直接リンクすることもできます。
サポートされるアイコンの種類 : .ico、.png、.jpg、.svg、.gif
サイズ : 最小 60x60、最大 1200x1200（最適な結果を得るには正方形画像を使用）
 - 新しく作成した Web アプリケーションボタンをクリックすると、指定した URL が画面上で開きます。
 - この機能を使用すると、Jira、Miro、Office 365 などの Web アプリケーションを、ユーザーが Webex Board から直接開くことができます。
- さまざまな種類のボタン（拡張機能）が強調表示されます。まず、エディタでは、アクションボタン、パネル、または Web アプリケーションを作成するための選択肢が提供されます。
- コーデックにエクスポートするボタンが強調表示され、設定をコーデックにエクスポートする方法が分かりやすくなりました。

ホワイトボード機能の追加

ホワイトボードおよび注釈での付箋の作成、編集、移動

ホワイトボード機能で付箋を使用できるようになりました。さまざまな色の付箋を貼り付け、グループ化したり移動したりできます。付箋を作成するときに、オンスクリーン キーボードを使用してメモに一定量のテキストを追加できます。この機能は、サイネージボードや、インタラクティブなワークショップまたはブレインストーミングに最適です。付箋に描画することはできず、作成した順序で上に重なることに注意してください。

使用可能な新しいペンサイズ

ホワイトボードで描画するときにペンアイコンをクリックすると、3つのペンサイズから選択できます。細い、中、太い、から選択できます。本物のマーカーを使用して描画しているように感じられるように、線の挙動が調整されました。このため、描画の動きと速度に応じて線の太さが変わる可能性があります。

ホワイトボードと注釈のコピーの作成

現在のホワイトボードのコピーを作成することで、元の図面または注釈が上書きされないか気にすることなく、描画を続けることができます。図面または注釈のいずれかの部分について手早く指摘したい場合は、図面のコピーを作成し、終わってから元の図面に戻ることができます。ホワイトボードまたは注釈付きのスナップショットのコピーは、ホワイトボードメニューに保存されます。

コピーを作成するメニューは、コピーを電子メールに送信するメニューと同じ場所にあります。

ネットワーク設定のユーザーインターフェイスの変更

デバイスのユーザーインターフェイスの [ネットワーク接続 (Network connection)] ページが変更されました。まず、現在のネットワーク設定が表示され、設定を変更したい場合はイーサネットまたは Wi-Fi の設定を開くことができます。以前は GUI から使用できなかったいくつかの設定が追加されました。

TLS 設定の変更

セキュリティ上の理由から、HTTPS クライアント、syslog、および SIP 接続の TLS 設定にいくつかの変更が加えられました。

- 証明書チェックを実行しないようにする場合は、証明書の検証を明示的にオフにする必要があります。デフォルトでは、すべての TLS 接続で証明書がチェックされます。
- TLS の最小バージョンが、バージョン 1.0 から 1.1に上がりました（バージョン 1.0 を許可している CUCM と SIP を除く）。Webex クラウドでは TLS バージョン 1.2 を使用していることに注意してください。
- プロビジョニング、電話帳、およびその他の HTTP サーバーについて、証明書の検証を個別に設定できます。これらのすべてのサーバータイプを対象としていた以前の [ネットワークサービス HTTPS サーバー証明書検証 (NetworkServices HTTPS VerifyServerCertificate)] 設定は、[プロビジョニング TLS検証 (Provisioning TLSVerify)]、[電話帳 サーバー[1] Tls検証 (Phonebook Server[1] TlsVerify)]、および [HTTPFeedback Tls検証 (HTTPFeedback TlsVerify)] の 3 つの設定に置き換えられました。
- 外部ロギングの証明書の検証（監査ロギングと通常のロギングの両方）を設定できます。
- SIP の場合、証明書はカスタム CA リストに照らして検証されます。このリストは、Web インターフェイスまたは API を使用して手動でデバイスにアップロードします。その他の接続の場合、証明書は、デバイスにプレインストールされている CA リストまたはカスタム CA リストに照らして検証されます。

注：この変更は、TMS 導入環境をホストしているサーバー上で TLS1.1 または TLS1.2 を有効にしていない場合に、TMS 接続に影響する可能性があります。

外部 URL からカスタム壁紙とブランディングを取得するための API

ルームデバイスが外部 URL から画像をダウンロードしてブランディング画像またはカスタム壁紙として使用できるようにする xAPI コマンドパスが追加されました。このコマンドパスを使用すると、画像をアップロードしなくても簡単に画像の配信を自動化できますが、逆にデバイスにダウンロードしてもらう必要があります。この場合、デバイスがネットワークから画像の URL に接続できる必要があります。解像度に関する推奨事項に変更はありません。その他の推奨事項については、Web インターフェイスでパーソナル化の下にある項目を参照してください。

サポートされる画像形式は .png および .jpg です。

ブランディングおよびカスタム壁紙を外部 URL から取得する新しい xAPI コマンドについては、管理者ガイドを参照してください。

注 : Webex Board はカスタム壁紙をサポートしていません。

超音波設定の変更

すべての製品で、[オーディオ 超音波 最大音量 (Audio Ultrasound MaxVolume)] 設定に同じデフォルト値が使用されるようになりました。異なる製品間で音量範囲の調整も行われましたが、デバイスから再生されるサウンドレベルは変更されません。

CE9.8.3 の新機能

- マイナーリリース (バグ修正を含む)
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。
 - CVE-2020-3143 に関連するセキュリティ上の問題を解決しました。
 - CSCvs67680
 - CSCvs45241

詳細については、PSIRT セキュリティアドバイザリを参照してください。

- <https://tools.cisco.com/security/center/content/CiscoSecurityAdvisory/cisco-sa-telepresence-path-tr-wdrnYEZZ> [英語]

影響を受ける古いバージョンのソフトウェアは削除され、ダウンロードできなくなっています。ソフトウェアの提供停止に関する通知を参照してください。

- <https://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/docs/telepresence/endpoint/software/ce9/release-notes/TC7-CE8-CE9-deferral-notice.pdf> [英語]

CE9.8.2 の新機能

- マイナーリリース (バグ修正を含む)
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。
 - Web インターフェイスから Cisco Webex Room シリーズデバイス上のサイズの大きい cop ファイルをアップロードする際の問題 (CSCvr90764) が修正されました。

CE9.8.1 の新機能

- マイナーリリース (バグ修正を含む)
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。

CE9.8.0 の新機能

- Cisco Webex Board オンプレミス展開のサポート
 - 無限ホワイトボード
 - 電子メールにホワイトボードを保存するための SMTP サポート
 - Touch 10 のサポート
- 事前インストールされている認証局 (CA) のリスト
- HttpClient が GET/DELETE および PATCH 要求をサポートするようになりました。
 - 応答の本文とヘッダーの追加されたサポート
 - 次に、ルート認証局の事前インストールリストを使用して、リモートサーバ証明書の検証を試行します。
- 会議室デバイス UI からの CMS 会議への参加者の追加
- WebSocket 経由の xAPI
 - 認証プロトコルヘッダーを使用した認証のサポートが追加されました。
- Cisco Webex Room Kit Mini、Room Kit、および Room 55 の USB ヘッドセットのサポート
- Webex チームへのオンボードデバイスの API
 - Web インターフェイスでの Webex Teams へのデバイス登録のサポート
- Room Kit Mini を使用した USB 体験の改善
- CUCM 12.5 SU1 からの製品固有の設定のサポート
- その他の変更

CE9.8.0 の新機能の説明

Cisco Webex Board オンプレミス展開のサポート

CE9.8.0 リリースでは、このドキュメントで説明されている他の会議室デバイスと同じ方法で、Cisco Webex Board (55/55S、70/70S、85S) を CUCM、TMS、または VCS/Expressway に登録できるようになりました。Cisco Webex Board はスタンドアロン H323/SIP デバイスとして導入することもできます。また、デバイスがどこにも登録されていない場合でも、ローカルのホワイトボードとして機能します。

重要： Cisco Webex Board でオンプレミス展開をサポートするには、CE9.8.0 以降の特定のバージョン (cisco.com からダウンロード) がデバイスにインストールされている必要があります。Cisco TAC は、サポートされているソフトウェアのバージョンと有効なサービス契約がある場合にのみ、オンプレミス展開で Webex Board のサポートを提供します。注: オンプレミスの登録済み Webex Board には、Webex Teams クライアントとのペアリングや Webex Teams スペースのオープンなど、Webex の登録と同じ機能がありません。

Webex からオンプレミス展開への切り替え

Cisco.com に移動し、Cisco Webex Board モデルでサポートされているソフトウェアのバージョンをダウンロードします。最新バージョンが常に推奨されます。

デバイスがすでに Webex に登録されている場合は、最初に Cisco Webex Board を初期設定にリセットする必要があります。これは、Cisco Webex Control Hub またはデバイス自体を介してアクセスすることによって、デバイスの Web インターフェイスから行うことができます。デバイスの正面に立って、タッチスクリーンに 1 本の指を置き、ホームボタンを 3 回タップします。[テクニカルサポート (Technical support)] 画面で、左下隅にある [工場出荷時の初期設定へのリセット (Factory Reset)] ボタンを選択します。

デバイスがリセットされると、[ようこそ (Welcome)] 画面が表示されます。次に、<https://<device-IP>> の Web インターフェイスにアクセスします (<https://<device-IP>> をデバイスの実際の IP アドレスに置き換えます)。ユーザ名「admin」を使用してログインします。デフォルトでは、パスワードは空白になっています。

[メンテナンス (Maintenance)] → [ソフトウェアアップグレード (Software Upgrade)] に移動して、以前にダウンロードしたサポート対象ソフトウェアパッケージをアップロードします。アップグレード後に [ようこそ (Welcome)] 画面が再び表示されたら、画面の指示に従ってオンプレミス環境にデバイスを登録するか、または環境内の他のデバイスを登録するのと同じ手順を実行します。

CUCM または新しいバージョンの TMS に新しいデバイスパックが必要になる場合があることに注意してください。Cisco Webex Board をサポートしているバージョンについては、次の表を参照してください。

プロビジョニング	最小バージョン	注意
CUCM	10.5 以降	現在実行中のバージョンで Cisco Webex Board のサポートを提供する CUCM デバイスパックが必要になる場合があります。
VCS/Expressway	X8.6 以降	
TMS	15.9 以降	

Cisco Webex Board は、一部の例外を除き、コラボレーションエンドポイントソフトウェア 9.8.0 をサポートしている他のデバイスですでに利用可能な機能のほとんどをサポートしています。一部の機能は、Touch 10 を Cisco Webex Board にペアリングする場合にのみ使用できます。非常に関連性が高いと判断された機能のリストについては、以下のマトリックスを参照してください。

UI 機能	オンスクリーンコントロール	Touch 10	未サポート
ローカルマルチサイト (参加者の追加)		x*	
保留/保留解除		x	
通話を転送する		x	
共有ライン アピアランス		x	
ローカルレイアウトの選択			x
CMS レイアウトの選択		x	
ISDN ダイヤリング (ISDN リンク)		x	
ローカルお気に入りの保存/お気に入りの編集 (電話帳)		x	
お気に入りのリスト/最近のコール	x (検索のみ)	x	
サイレント		x	
呼出音 (3 つの呼出音)	X	x	
室内制御 (In-Room Control)	x**	x	

リモートプレゼンテーションの最小化			X
コール中のプレゼンテーションのローカルプレビュー			X
プレゼンテーションのリモート共有	X	X	
アドホック会議		X	
遠端カメラ制御		X	
セルフビュー	X***	X	
カスタム壁紙			X
スリープ状態のカスタムテキスト			X
ブランディング	X	X	
拡張入力ソース (仮想ソース)			X
USB 入力デバイス (キーボード)			X
ローカルのホワイトボードとコメント (関連付け先コール)	X		
関連付け先のホワイトボード			X****
無限ホワイトボードキャンバス	X		
ホワイトボードを電子メールに保存する (SMTP 設定が必要)	X		
基本的なコール機能	X		
高度なコール機能		X	

* マルチサイトオプションキーがインストールされている必要があります。Webex Board は、最大 3 つのリモート参加者をサポートします。

** 室内制御パネルは、Touch 10 が接続されていない場合にのみ、Cisco Webex Board 画面に表示されます。

*** 画面上の UI を使用してセルフビューを移動できますが、Touch 10 からのセルフビューのみを有効にすることができます。

**** 現在、通話中にホワイトボードを実行することはできません。

サポートされているオプションキー (別途購入可能) は次のとおりです。

MultiSite: デバイスが最大 3 つのリモート参加者とのコールをホストできるようにします。その上の追加の音声参加者がサポートされていないことに注意してください。

RemoteMonitoring: 管理者が入力デバイスのスナップショットをリモートでキャプチャできるようにします。

UI と設定の上に記載されているもの以外は、デバイスが Webex に登録されている場合と同じです。Cisco Webex Board はまた、マクロ、バックアップおよび復元(プロビジョニング)、xAPI アクセス (CLI 経由の CLI、XMLAPI、WebSocket、および Mic ルーティングを使用した USB A シリアルへのコンソールアクセス、および Cisco 近接) もサポートしています。

無限ホワイトボード

これは、大規模なホワイトボードキャンバスを可能にする機能です。ホワイトボードに 2 つ以上の指を置くことで、キャンバスを拡大してより大きな描画領域を得ることができます。「ピンチとズーム」を使用して、大きなキャンバス (canvas) を移動することができます。

ホワイトボードを電子メールに格納する

Cisco Webex Board はオンプレミスで登録されているため、ホワイトボードを Webex Teams スペースに保存する利点はありません。ホワイトボードを保存するには、デバイスを SMTP サーバに接続する必要があります。これは、企業独自の SMTP サービス、または Gmail や Office365 などのクラウドサービスである可能性があります。

Cisco Webex Board Web インターフェイス ([設定 (Setup)] → [電子メール設定 (Email Settings)]) で [電子メール設定 (Email Settings)] ウィザードを実行するか、xAPI を使用して設定してください。カスタム SMTP サービスを使用している場合は、有効な CA をアップロードする必要があることに注意してください。Gmail などのクラウドサービスは、証明書をアップロードする必要がなく、機能する必要があります。

Touch 10 のサポート

1 つの Touch 10 を Cisco Webex Board にリモートでペアリングできます。ネットワークペアリングのみがサポートされています。

Cisco Webex Board に Touch 10 を接続することにより、デバイスの機能をより詳細に制御できます。Touch 10 なしで Webex Board を使用すると、制限付きのコール制御および UI 機能が提供されます。上記の表を参照してください。

既知の問題

Cisco Webex Board 70S の CE9.8.0 では、タッチ感度の損失についていくつかの観察がありました。これは特に、スタイラスを使用する場合に認識できます。Webex Board では描画が困難です。この問題が発生した場合は、デバイスを再起動してください。この問題はめったに発生しません。これは、8 月上旬の CE9.8.1 で解決されます。バグリファレンス: CSCvq37645

事前インストールされている認証局 (CA) のリスト

Cisco Webex Board ホワイトボードを保存するために SMTP を設定する場合、または要求を送信するために httpclient を使用する場合、デバイスは事前にインストールされた認証局のリストを使用してリモートサーバ証明書の検証を試行します。このリストは、通常のブラウザで確認できるものと似ています。

このリストは、現在 SMTP 設定と HttpClient でのみ使用されています。その他のサービスまたはカスタム認証局については、これらを手動でコーデックにアップロードすることによって、通常の手順に従ってください。

HttpClient の GET/DELETE および PATCH 要求のサポート

CE9.8.0 には、既存の HttpClient 機能の更新が追加されており、さらに柔軟性が向上しています。GET/DELETE および PATCH 要求のサポートが追加されました。HttpClient は、事前にインストールされた認証局のリストを使用して、リモートサーバの証明書を自動的に検証しようとします。

応答の本文とヘッダーの追加されたサポート

新しい要求方式を追加するだけでなく、応答ヘッダーと本文がサポートされるようになりました。デバイスは、マクロフレームワークを介してアクセス可能な外部サーバに対して要求を発行するときに、最大 100KB (100,000 バイト) の応答データを受信できます。応答データは要求タイプに関係なく受信されますが、コンテンツ長がサポートされているデータ量を超えている場合はエラーが表示されます。

デバイス UI からの CMS 会議への参加者の追加

この機能を使用すると、進行中の CMS 会議に参加者をシームレスに追加できます。CMS 会議コール中に新しい参加者を追加すると、デバイスはアクティブコントロール メカニズムを使用して参加者にダイヤルするように CMS に指示します。CMS は、追加する参加者 (ルームデバイスの UI の [アドレス (address)] フィールドに入力した URI) に直接ダイヤルします。参加者がコールを受け入れると、参加者は同じ CMS 会議に追加されます。アクティブコントロールをデバイスで有効にする必要があります。

マルチポイントモードの設定に関係なく、参加者は CMS 会議に追加され、以前のリリースと同じようにカスケード会議が作成されることはありません。デフォルトでは、この機能はオンです。

この機能を動作させるには、CMS がバージョン 2.4 以上である必要があります。CMS は SIP でのみ動作し、アクティブコントロールは H.323 では使用できません。

注：追加ボタンの動作が、以前のバージョンから CE9.8.0/CE9.8.1 で若干変更されています。さまざまな会議シナリオでの追加ボタンの動作の概要については、管理者ガイドを参照してください。

	マルチポイントモード		
シナリオ	Auto	CUCMMRGL	マルチサイト
追加をサポートしている CMS 会議のコール	追加ボタンを使用すると、CMS 会議の参加者を表示して追加できます	協議追加 このシナリオで協議追加を実行すると、カスケード化された会議が作成されます。	追加ボタンは表示されません (CE9.8.x)。CE9.9.0以降では追加ボタンが再び表示されます。
追加をサポートしていない CMS 会議のコール	追加ボタンは表示されません	協議追加 このシナリオで協議追加を実行すると、カスケード化された会議が作成されます。	追加ボタンは表示されません
別のエンドポイントとの 1 対 1 のコール	追加ボタンは表示されません	協議追加 コールは参加者が 3 人の会議にエスカレートされます。同じ会議にさらに参加者を追加できます。	追加ボタンが表示され、そのエンドポイント自体がホストしているコールにデバイスの上限まで参加者を追加できます。

9.8.1 にアップグレードすると、最新のデバイスパックをインストールしない限り、SX10 および DX80 ではマルチポイントモードが自動的に「自動」に変更されることに注意してください。デバイスパックをインストールしていないと、UCM がこの設定を認識しないため、デバイスはデフォルト値（自動）に従います。これは、それまで利用可能だったシナリオで予期せず追加ボタンが表示されない原因になります。この問題が発生した場合、設定を変更するか、最新のデバイスパックを使用して UCM をアップデートしてください。

WebSocket 経由の xAPI: 認証プロトコルヘッダーを使用した認証

認証プロトコルヘッダーを使用した認証のサポートが追加されました。完全なヘッダーは次のようになります。

Sec-WebSocket-Protocol: auth-YWRtaW46cGFzc3dvcmQ

「YWRtaW46cGFzc3dvcmQ」は、admin の base64 表現で、パスワードです。ブラウザベースのクライアントはヘッダーを直接制御しないため、認証プロトコルヘッダーを使用することで、ブラウザから Javascript を使用して直接デバイスに対して認証することができます。

Javascript (WebSocket モジュール) の例:

```
webSocket = new WebSocket(webSocketURL, "auth-" + btoa(username + ":" + password).replace(/[\/+=]/g, function(c){return {'+': '-', '/' : '_', '=' : ''}[c]}));
```

Base64 でエンコードされたユーザ名とパスワードは「URL safe」である必要があることに注意してください。そのため、文字置換機能が使用されます。

Cisco Webex Room Kit Mini、Room Kit、および Room 55 の USB ヘッドセットのサポート

DX シリーズの場合と同じ USB ヘッドセットサポートが、Cisco Webex Room Kit Mini、Room Kit、および Room 55 で有効になりました。これは、USB ヘッドセットまたは USB Bluetooth ドングルをこれらのデバイスの USB A 入力に接続できることを意味します。上記のデバイスと連携して動作するテスト済みのヘッドセットとハンドセットのリストについては、以下のリンクを参照してください。

<https://help.webex.com/nkiifbo/>

Webex デバイスアクティベーションに使用する xCommand

以前のバージョンでは、Webex クラウドサービスにアクティブ化するには、デバイスの前に配置する必要がありました。新しい xCommand では、プログラム/リモート Webex の有効化が可能です。複数のデバイスがすでにオンプレミスで登録されている場合は、この API を使用してアクティベーションコードを発行できます。デバイスは自動的に Webex に切り替わります。

```
xCommand Webex Registration Start  
ActivationCode(r): <S: 16, 19>  
SecurityAction(r): <Harden, NoAction>
```

```
xCommand Webex Registration Start ActivationCode: 1234-1234-1234-1234  
SecurityAction: 強化
```

```
xCommand Webex Registration Start ActivationCode: 1234123412341234  
SecurityAction: 強化
```

注: SecurityAction が「強化」に設定されている場合、デバイスは Webex に登録したときと同様にロックダウンし、その他の設定に伴ってカスタマイズを削除します。NoAction を指定すると、ユーザが所有しているカスタマイズ (室内制御とマクロ) が保持され、デバイス上のローカルアカウントは削除されません。

このコマンドが工場出荷時リセット状態から発行された場合、デバイスが最初に設定されていないため、[ようこそ (Welcome)]画面は削除されません。ただし、デバイスがすでにアクティブ化されているため、「アクティベーション手順」はスキップされ、デバイスのタイムゾーンの設定およびその他の設定手順に進みます。

Web インターフェイスを介した Webex に対するデバイスアクティベーションのサポート

デバイスがどこにも登録されていない場合、web インターフェイスにログインすると、ランディングページでデバイスを Webex に登録するためのオプションが表示されます。アクティベーションコードを入力してデバイスを登録するオプションのみが表示されます。デバイスを登録するために Web インターフェイスを使用する場合は、デフォルトで「強化」が使用されることに注意してください。デバイスが正常にアクティブ化されると、現在の Web セッションが終了します。コントロールハブを介してアクティベーションを実行する必要がある場合は、Web インターフェイスにアクセスする必要があります。

H323

Status	Inactive
Gatekeeper	-
Number	-
ID	-

SIP

Status	Inactive
Proxy	-

This video system is not registered

In order to place calls with this video system, it needs to be registered to a call service.

[Click here to register to Webex](#)

Room Kit Mini を使用した USB 体験の改善

Room Kit Mini は、USB を介して接続されている間、通常どおりに使用できるようになりました。これは、コンピュータに接続されているときに、常に「応答不可」モードにならないことを意味します。Web カメラとしての使用を開始するとすぐに (デスクトップアプリケーションでカメラを起動)、デバイスはすでに通話中でない限り、以前のソフトウェアのバージョンと同様に「応答不可」モードになります。

これはデフォルトの動作であり、この設定に関連する設定は削除されています。

CUCM 12.5 SU1 からの製品固有の設定のサポート

CE9.8.0 を実行しているデバイスは、バージョン 12.5 SU1 以降の CUCM に登録されている場合、広範な製品固有の設定でプロビジョニングされるようになりました。詳細については、次のリリースノートを参照してください。 https://www.cisco.com/c/ja_ip/td/docs/voice_ip_comm/cucm/release_notes/12_5_1/SU1/cucm_b_release-notes-for-cucm-imp-1251su1/cucm_b_release-notes-for-cucm-imp-1251su1_chapter_01.html#reference_7E7941433CC7035A179DD556C1F2E9E9

その他の変更

アップロードされた証明書について受け付ける有効期限の長さが短くなりました。有効期限が 10 年よりも長い証明書はアップロードできません。この変更は、有効期間が 10 年を超える証明書を許可しない Cisco PSB（製品セキュリティベースライン）要件に準拠するために行われました。

CE9.7.2 の新機能

- マイナーリリース (バグ修正を含む)
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。

CE9.7.1 の新機能

- WebSocket 経由の xAPI (XoWS)
- プライバシーモード: 通話のビデオを無効または有効にする
- Room 分析: 周囲雑音レポート
- Room Kit Mini: USB カメラとして使用されている場合の1080p ビデオのサポート
- OSD のお気に入りの編集
- 複数の Sony カメラ (SRG/EVI) の接続のサポート
- オーディオコンソール: グラフィカルなイコライザ
- DX70 および DX80 向けの Android から CE9.7.1 への変換ソフトウェアのリリース
(2019 年 4 月 25 日)

CE9.7.1 の新機能の説明

WebSocket 経由の xAPI (XoWS)

WebSocket を使用した xAPI へのアクセスのサポートが追加されました。WebSocket は、クライアントとサーバ間の双方向の永続的な接続であり、情報がすべての要求に対して新しい TCP 接続または認証を開始するオーバーヘッドなしで、情報が流れてきます。

CE9.7.1 から、ルームデバイスは、データ転送として JSON RPC 2.0 を使用して xAPI に直接アクセスする WebSocket サーバとして機能します。ルームデバイスへの WebSocket 接続を確立したら、WebSocket 接続を介して JSON ドキュメントを送信することにより、フィードバックの登録、設定の実行、コマンドの実行、またはデバイスのステータスの取得を行うことができます。クライアントは、たとえば、登録されている場合は、フィードバックイベントなどの要求されていないデータもサーバから受信します。

この機能は主にターゲットとなるインテグレーターであり、たとえば、SSH や serial シリアルなどの xAPI にアクセスするための最新の方法です。

WebSocket を介して xAPI を開始する方法の詳細については、次で入手できる『WebSocket の公式 xAPI』を参照してください。

<https://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints/spark-room-kit-series/products-command-reference-list.html>

プライバシーモード: 通話のビデオを無効または有効にする

この機能により、Touch 10 またはオンスクリーン UI に新しいボタンが追加され、通話中にビデオを無効にすることができます。遠端の参加者には、デバイスでビデオが無効になっていることを示すプレーズホルダ画像のみが表示されます。ローカルエンドでは、現在ビデオを送信していないことを示すアイコンが画面に表示されます。

ルーム分析：環境雑音レポート

周囲ノイズレポートでは、デバイスのマイクを使用して、周囲/バックグラウンドノイズを推定します。値は、周囲雑音レベル (dBa) の重み付けされたデシベル値です。値はキャリブレーション音圧レベル (SPL) ではないため、室内の周囲の音響レベルの相対値として評価する必要があることに注意してください。

この機能はデフォルトで無効になっており、xAPI で環境雑音レポートを On に設定することで有効にできます。xConfiguration RoomAnalytics AmbientNoiseEstimation Mode: On

推定値は、xAPI で xStatus RoomAnalytics AmbientNoise Level コマンドを使用して取得できます。

Room Kit Mini: USB カメラとして使用されている 1080p ビデオのサポート

以前のバージョンでは、720p のビデオ解像度のみがサポートされていました。Room Kit Mini が USB カメラとして使用されている場合、1080p 解像度は CE9.7.1 からサポートされます。

OSD でのお気に入りの編集 (DX70 および DX80)

この機能を使用すると、CE9.6.1 の Touch10 で導入されたのと同じ方法で、ユーザが DX70 および DX80 の OSD インターフェイスから自分のローカルお気に入りの連絡先情報を編集できます。この機能は、TRC6 リモートコントロールを使用する場合は使用できないことに注意してください。

複数の Sony カメラ (SRG/EVI) の接続のサポート

複数の Sony SRG/EVI カメラを、カメラをサポートしているルームデバイスに接続します。カメラの数は、カメラを接続しているデバイスによって制限されます。たとえば、Cisco Webex Room Kit Pro は最大 7 台の接続されたカメラをサポートし、Cisco Webex Room Kit Plus は最大 3 台の接続されたカメラをサポートします。これらのカメラのサポートは CE9.4.0 に追加されました。詳細については、このドキュメントの「9.4.0」の項を参照してください。

オーディオコンソール: グラフィカルイコライザ

オーディオイコライザは、以前のソフトウェアバージョンでは、コマンドラインインターフェイス (xAPI) のみを使用してすでに使用可能です。CE9.7.1 から、使用と変更を簡素化するために、オーディオコンソールにグラフィカルなイコライザが追加されました。グラフィカルなイコライザセットアップは、ルームデバイスの Web インターフェイスのオーディオコンソールアプリで使用できます。

最大 8 つの異なるイコライザ設定を作成し、それらを出力またはマイクの入力に接続することができます。

たとえば、マイク入力の音声体験を調整する場合や、出力機器が低音または高音を大量に表現している場合に、イコライザが使用されます。グラフィックイコライザを使用すると、のアナログ回線での全体的な音声体験をユーザが簡単にカスタマイズできるようになります。

注: アナログ入力 (マイクまたは出力) には、イコライザのみを取り付けることができます。

CE9.6.4 の新機能

- マイナーリリース (バグ修正を含む)
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。

CE9.6.3 の新機能

- マイナーリリース (バグ修正を含む)
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。

CE9.6.2 の新機能

- マイナーリリース (バグ修正を含む)
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。

CE9.6.1 の新機能

- Cisco Webex Room Kit Mini のサポート
- xAPI とマクロを使用したカスタム HTTP POST および PUT
- 室内制御: サードパーティ製 USB 入力デバイス
- デフォルトの GUI パネルボタンを非表示にする
- Touch 10 からお気に入りを直接編集する
- 追加のルームデバイスでの HDCP のサポート
- オーディオコンソールアップデート
- MRA シナリオでの ICE のサポート
- アクティブコントロール: CMS 会議で UI から録音を開始する機能
- その他の変更
 - プレゼンテーション帯域幅の優先順位付けの設定を追加
 - スリープ状態のブランディングで true color を有効にする機能

CE9.6.1 の新機能の説明

Cisco Webex Room Kit Mini のサポート

Cisco Webex Room Kit Mini は、Webex Teams クラウドサービスまたは既存のオンプレミスインフラストラクチャを使用するために登録できる Cisco Webex Room シリーズの新しいルームデバイスです。UCM 登録するには、最新のデバイス パックがインストールされていることを確認します。

接続されたコンピュータで、1 つの USB ケーブルでビデオ、マイク、およびスピーカーを使用可能

Cisco Webex Room Kit Mini ハードウェアおよび技術仕様の詳細については、[製品データシート](#)を参照してください。

このシステムを CUCM からアップグレードするときには、ソフトウェアを「.pkg」ではなく「.loads」拡張子を使用して指定する必要があることに注意してください。

xAPI とマクロを使用したカスタム HTTP POST および PUT

xAPI とマクロを使用したカスタム HTTP POST および PUT 要求のサポートが追加されました。

この機能を使用すると、発信 HTTP POST を送信するか、またはカスタムペイロードを使用してオンデマンドの HTTP サーバに PUT することができます。

この統合機能は、データ収集の観点からより柔軟性を高めたり、統合セットアップの一部としてサードパーティ製デバイスを有効にしたりするように設計されています。HTTP POST または PUT 要求を既存のサービスに適応させます。

```
xConfiguration HttpClient Mode: Off / On
```

HTTP 要求は xAPI を使用して作成され、最大 10 のヘッダーをサポートし、マルチライン入力を使用してペイロードを構築できます。xAPI コマンドは、マクロとともに使用して、ダイナミックおよびイベントベースの要求を作成することもできます。

管理者は、xAPI を通じて設定可能な許可リストを使用して、デバイスが要求の送信を許可されるホスト (IP または FQDN) を制御することもできます。

この機能では、アウトバウンド HTTP PUT または POST を送信できます。GET 要求または着信 POST または PUT 応答ペイロードの処理はサポートされていませんが、配信を確認するための要求のステータスコードを確認することができます。

証明書の検証は、すべての発信 HTTPS 要求でデフォルトで実行されます。このためには、手動で CA 証明書をアップロードしてリモートホストを確認する必要があります。デフォルトでは、CA 証明書の標準リストは存在しません。証明書検証バイパスを有効にすることができます (非推奨)。

```
xConfiguration HttpClient AllowInsecureHTTPS: False / True
```

すべての要求はデフォルトで検証されますが、上記の設定が有効になっている場合は、特定の要求の検証を明示的にバイパスできます。

開発者向けの例については次のリンクを参照してください。

<https://developer.cisco.com/site/roomdevices/>

```
xCommand HttpClient Post Header: "Content-Type: application/json" Url: https://host  
AllowInsecureHTTPS: True
```

既知の制限事項については、この文書の「制限事項」と警告のセクションを参照してください。

室内制御: サードパーティ製 USB 入力デバイス

Usb Bluetooth ドングルに付属している usb キーボードやワイヤレスメディアリモコンなどのサードパーティ製 usb 入力デバイスを接続できるようになりました。接続されたデバイスは、コードブックによって汎用キーボードとして認識される必要があります。USB マウスなどのキーボード以外のデバイスを接続することはサポートされていません。

デフォルトでは、USB 入力デバイスを検出しないようにデバイスが設定されています。Web インターフェイスまたは xAPI を使用してを有効にします。

```
xConfiguration Peripherals InputDevice Mode: Off / On
```

この機能が有効になり、USB 入力デバイスが接続されると、各キーを押すと、どのボタンが押されたか、リリースされたかについて、xAPI でイベントが生成されます。生成されたイベントに基づいて、Touch 10 パネルの室内制御設計と同じ方法でアクションをトリガーします。たとえば、接続されたキーボードで文字「O」を押すと、次のイベントが生成されます。

```
*e UserInterface InputDevice Key アクション Key: KEY_O
*e UserInterface InputDevice Key アクション コード: 24
*e UserInterface InputDevice Key Action Type: 押された
** end
*e UserInterface InputDevice Key アクション Key: KEY_O
*e UserInterface InputDevice Key アクション コード: 24
```

この機能は、マクロまたはサードパーティ製の制御システムと組み合わせて使用するよう設計されています。

Cisco Webex Room シリーズデバイス、DX70、および DX80 でのみサポートされています。

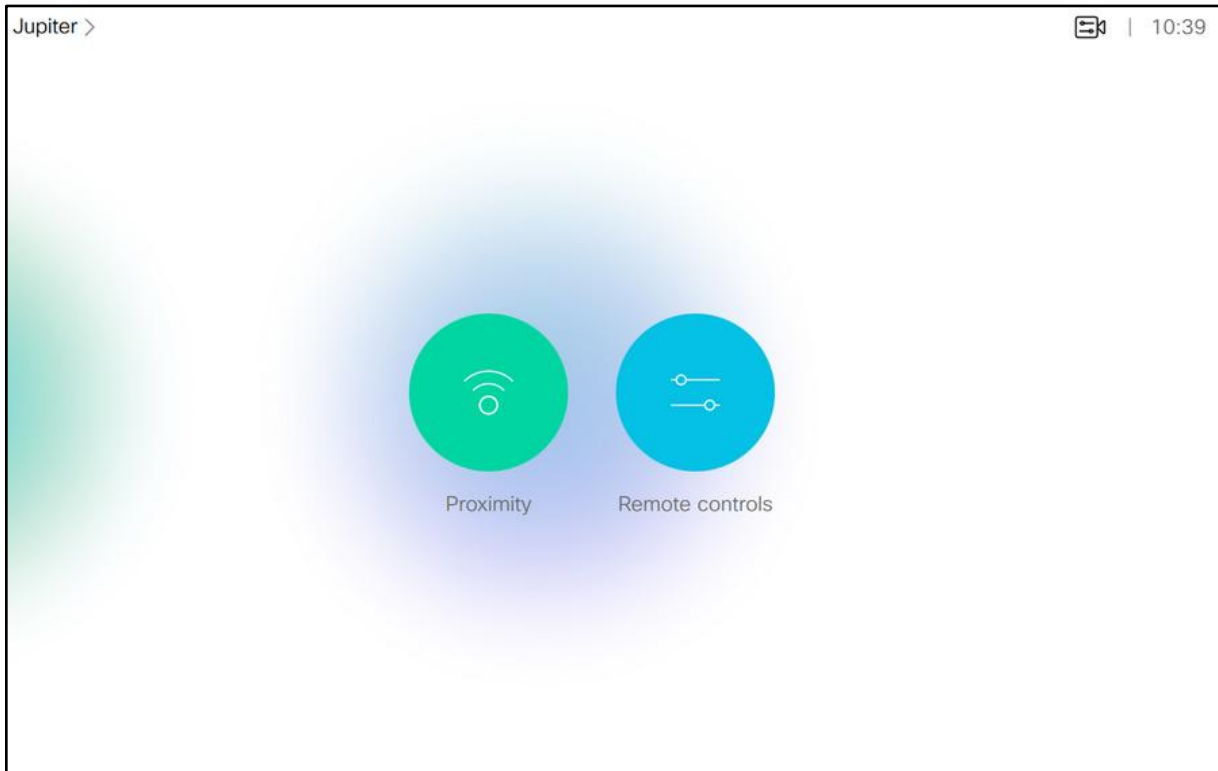
開発者向けの例については次のリンクを参照してください。

<https://developer.cisco.com/site/roomdevices/>

デフォルトの GUI パネルボタンを非表示にする

CE9.6.1 では、デフォルトの UI ボタンをカスタマイズできます。デフォルトのコール、共有、またはすべてのボタンを一度に非表示にします (会議とメッセージを含む)。すべてのデフォルトボタンが非表示になっている Touch 10 ビューの例については、以下を参照してください。室内制御ボタンなどのカスタムボタンは非表示になっていることに注意してください。

```
xConfiguration UserInterface Features HideAll: False / True
```



デフォルトのボタンを非表示にしても、共有またはコール機能は削除されません。近接クライアントをデバイスにペアリングしたり、同等の API コマンドを実行したりすると、コンテンツを共有したり、コールを発信したりできます。

コール、共有、通話中の制御、および [通話の終了 (End Call)] ボタンのみを非表示にすることができます。会議やメッセージ (ボイスメール) などのプロビジョニングされた機能に関連する他のボタンを非表示にするには、**すべてのボタンを非表示にするか**、これらの機能をデバイスにプロビジョニングしないようにする必要があります。室内制御のボタンは、室内制御エディタを使用して削除されます。

室内制御パネルを追加せずにすべてのボタンを非表示にすると、ユーザにはボタンを使用せずに空白のユーザインターフェイスが表示されます。

現在、[設定 (settings)] メニューを非表示にすることはできません。

注: 室内制御ボタンの順序は並べ替えることができますが、デフォルトのパネルボタンにはできません。

Touch 10 からお気に入りを直接編集する

お気に入りのリストで連絡先を選択すると、[その他 (More)] ボタンが表示されます。このボタンを押すと、連絡先エントリを編集するためのオプションが表示されます。連絡先のビデオアドレスと名前を変更できます。以前のバージョンでは、お気に入りのエントリはコーデックの Web インターフェイスからしか編集できませんでした。

追加のルームデバイスでの HDCP のサポート

Room 55 はすでに HDCP をサポートしています。CE9.6.1 は追加のデバイスに HDCP サポートを追加しました。次の表を参照してください。

デバイス	HDCP のサポート	I/O*	HDCP バージョン
Cisco Webex Room 55	あり	入力 3 出力 1	1.4
Cisco Webex Room 55 Dual	あり	入力 2 出力 1	1.4
Cisco Webex Room 70	あり	入力 2 出力 1	1.4
Cisco Webex Room 70 G2	あり	入力 5 出力 1 および 2	1.4
Cisco Webex Room Kit Pro (Codec Pro)	あり	入力 5 出力 1 および 2	1.4
Cisco Webex Room Kit Plus (コーデック Plus)	あり	入力 2 出力 1	1.4
Cisco Webex Room Kit	×	なし	なし

* ここでの入力番号は、HDCP を設定できる xAPI 入力番号を指します。物理入力コネクタ番号は xAPI 入力番号とは異なる場合があります。

出力に接続されている画面が HDCP に準拠しており、同じ制限が適用されている必要があります。

- コール中の HDCP 対応入力からコンテンツを共有することはできません。これは、接続しているもの (PC であっても) に関係ありません。これは、メインビデオまたはコンテンツストリームのソース合成 HDCP 対応入力にも適用されます。これにより、ブラックフレームになります。
- 1 つの出力のみ HDCP をサポートしているデュアルスクリーンデバイスで HDCP 対応の入力を使用してコンテンツを共有する場合は、1 画面上のコンテンツのみを表示できます。

詳細については、既知の制限のセクションを参照してください。

オーディオコンソールアップデート

オーディオコンソールは、プレビュー機能として CE9.5.0 で導入され、CE9.6.1 から完全にサポートされるようになりました。利便性を高めるためにいくつかの更新が適用されています。

重要な変更:

- **警告** : CE9.6.1 にアップグレードする前に、オーディオコンソールの設定をメモしてください。これは、CE9.5.x から CE9.6.1 へのアップグレード時にデフォルトにリセットされるためです。CE9.5.x でオーディオコンソールを使用していない場合は、この警告を無視できます。
- オーディオコンソールはデフォルトで無効になっており、有効にする必要があります。
アクセスしてこれを有効にする
- デフォルトでは、オーディオコンソールは自動セットアップであり、コーデックによって最適なオーディオレイアウトが決定されます (デフォルト)。オーディオコンソールを誤って設定した場合は、オーディオコンソールで [自動 (Switch to Automatic)] をクリックすることにより、自動セットアップを再び有効にしてデフォルトのオーディオレイアウトに戻すことができます。

詳細の変更:

- 接続の取得と削除を編集するための新しい UI
 - [接続 (Connection)] リンクを右クリックして、ゲインを編集するか、リンクを削除します。
- ドラッグアンドドロップの改善
 - グループ全体のコネクタをドロップできるようになりました。ドロップゾーンは、ドラッグ中や接続リンクをドロップできるときに明確に示されます。
- リモートグループのサポート
 - 「TC-コンソール」と合わせて、デバイスがアクティブにコール中になるまで、リモートグループとの接続を設定することはできません。
- スクロール動作の改善
 - サイドバーは、中央のエリアから独立してスクロールできるようになりました。これにより、オーディオコンソールがより小さい画面で使用しやすくなります。

不具合

- グループモードが [直接 (Direct)] に設定されている場合は、エコーのキャンセルとノイズリダクションを無効にします。
- オーディオコンソールタイトル領域の「ベータ」ラベルが削除されました。
- グループとコネクタのミュートと遅延の測定ステータスを表示します。
- 入力または出力コネクタのグループ全体を削除する前に、警告プロンプトを表示します。

サポートされているデバイス: Cisco Webex Room Kit Pro、Cisco TelePresence SX80、Cisco TelePresence MX700、MX800 (D)、Cisco Webex Room 70G2

MRA シナリオでの ICE のサポート

ICE 設定を UCM 経由でプロビジョニングできる MRA シナリオ で ICE を使用するためのサポートが追加されました。これらの設定を UCM で確認するには、新しいデバイスパックのインストールが必要になることがあります。

アクティブコントロール: CMS 会議で UI から録音を開始する機能

CMS がレコーダーを使用して正しく設定されていて、CMS とルームデバイス間でアクティブコントロールが正常にネゴシエートされている場合は、[録音 (recording)] ボタンが UI に表示されます。これにより、cms 会議で録音を開始できます。ルームデバイスでは、アクティブコントロールはデフォルトで有効になっていますが、この問題が発生した場合は、設定が [自動 (Auto)] に設定されていることを確認してください。

その他の変更

- コンテンツチャンネルの帯域幅に優先順位を付けるための設定が追加されました。これは、削除された前の「xConfiguration Conference VideoBandwidth MainChannel Weight」設定に類似しています。新しい構成は「xConfiguration ビデオ プレゼンテーションの優先順位: 等しいか高 (xConfiguration Video Presentation Priority: Equal or High)」です。両方の設定の帯域幅の分割については、以下を参照してください。
 - 同等: 50/50 と以前のリリースと同じ
 - 高: コンテンツチャンネルを優先する 25/75
 - 問題があるため、この設定は現在、Web インターフェイスを介してのみ設定できます。これは、以降のバージョンで解決されます。
- スリープ状態のブランディングで true color を有効にする機能。これが有効になっている場合、アップロードされたブランドイメージの色に対する視覚的な変更は行われません (スリープ状態のみ)。
 - xConfiguration UserInterface ブランディング AwakeBranding の色: Auto または Native

CE9.5.3 の新機能

- これはマイナーリリースで、バグ修正のみが含まれます。
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。

CE9.5.2 の新機能

- これはマイナーリリースで、バグ修正のみが含まれます (CSCvn35929)

CE9.5.1 の新機能

- これはマイナーリリースで、バグ修正のみが含まれます。
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。

CE9.5.0 の新機能

- 機能プレビュー: オーディオコンソール
- プレゼンテーションソースの構成
- Cisco Webex Codec Plus の PresenterTrack サポート
- 新しい会議室モード: 教室
- キーボードローカリゼーション (韓国語)
- Cisco TelePresence SX80 および SX20 画面ステータスのモニタリング(CEC)
- Web GUI および CLI のウェルカムバナー
- Spark から Webex への再ブランディング

CE9.5.0 の新機能の説明

機能プレビュー: オーディオ コンソール

Java ベースの CE コンソールアプリケーションは、今後は維持されず、新しい Web アプリケーション (オーディオコンソール) に置き換えられます。オーディオコンソールは、既存の CE コンソールに置き換わるもので、Cisco TelePresence SX80 および Cisco Webex Room Kit Pro の Web インターフェイスからは、CE9.5.0 でのみネイティブに使用できます。オーディオコンソールは、Web インターフェイスの *設定 - オーディオコンソール* にあります。

オーディオコンソールは機能プレビューとして CE9.5.0 で提供され、Web アプリケーションでそのようにラベルが付けられています。この理由は、ローカル補強と永続性モデルの設定に関するインタラクションモデルに関するフィードバックが必要なためです。

オーディオコンソールには、ドラッグアンドドロップインタラクションを使用した CE コンソールと同じ方法で、デバイス上の音声ルートを変更するための組み込み UI が用意されています。オーディオコンソールは設定された設定でマクロを生成します。これは、オーディオコンソールを使用しているときにマクロを実行する必要があることを意味します。これは、オーディオコンソールレイアウトを保存すると自動的に有効になります。

既知の制限事項については、この文書の「制限事項」と勧告のセクションを参照してください。

オーディオコンソールの使用を開始する方法の詳細については、『Customization Guide for CE9.5.0』を参照してください。

Cisco Webex Codec Plus の PresenterTrack サポート

PresenterTrack 機能は、Cisco Webex Codec Plus で使用できるようになりました。この機能には、Codec Plus に接続された Precision 60 カメラが必要で、Web インターフェイスを介して設定されています。設定する手順は、すでにこの機能をサポートしているルームデバイスとは異なります。PresenterTrack の設定の詳細については、管理者ガイドを参照してください。

プレゼンテーションソースの構成

CE9.2.1 では、メインビデオチャンネルで画像の構成を可能にする機能が導入されました。プレゼンテーションソースの合成を使用すると、プレゼンテーションチャンネルで同じ複合を実行できます。

ソース構成を使用すると、最大で 4 つの入力ソースを 1 つのイメージに構成できます (構成できる入力ソースの数は、コーデックで使用可能な物理入力ソースに応じて変わります)。

次に例を示します。

Cisco TelePresence SX80 / Cisco Webex Room Kit Pro : 4

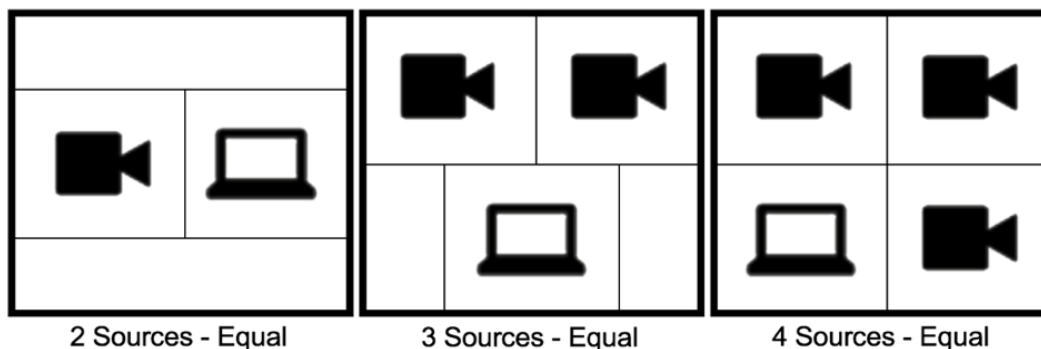
Cisco Webex Room Kit Plus : 3

Cisco Webex Room Kit / Cisco TelePresence SX20 : 2

このイメージは、プレゼンテーション

ビデオストリームでコールの遠端に送信されます。ソース構成は xAPI 経由でのみ有効にできるので、室内制御 UI をマクロと組み合わせて作成し、通話中にオンデマンドで構成を制御することをお勧めします。

サポートされているレイアウトについては、以下を参照してください (単一ソース共有は前と同じです)。



上の図は、イメージをどのようにステッチングするかを示しています。フレーム配置は、コマンドで入力ソースを発行した順序によって異なります。

xAPI 操作の詳細については、管理者ガイドを参照してください。

新しい会議室モード: 教室

教室は、PresenterTrack と SpeakerTrack を構築する会議室と同様の新しいルームモードです。有効にすると、プレゼンターを撮影するカメラとオーディエンスを撮影するカメラが自動的に切り替わります。役員室 (Briefing Room)とは異なり、特定の数の画面は必要ありません。また、ローカルレイアウトを自動的に切り替えることはありません。

このモードは、Cisco Webex Room Kit Pro、Codec Plus、Room Kit Plus、Room 70、および Cisco テレプレゼンス SX80 でサポートされています。

教室モードは、モニターロールとマクロを使用してカスタマイズできます。マクロと統合機能の詳細については、<https://developer.cisco.com/site/roomdevices/> [英語] を参照してください。

キーボードローカリゼーション (韓国語)

いくつかの言語でキーボードのローカライズをサポートします。韓国語を優先言語として選択すると、キーボードがローカライズされます。これは、Touch 10 に対してのみ有効で、リモート UI では有効ではありません。

Cisco TelePresence SX80 および SX20 画面ステータスのモニタリング (CEC)

CEC は SX10 ではデフォルトで無効になっており、Web インターフェイスを介して有効にする必要があります。SX10 には以前のリリースで CEC が実装されていました。これで、CEC の実装は Cisco Webex Room シリーズとのパリティになりました。新しい CEC xCommands を使用できます。詳細については、『CE9.5.0 管理ガイド』をご覧ください。

Web GUI および CLI のウェルカムバナー

デバイスのコマンドライン インターフェイス (xAPI) と Web GUI でウェルカムバナーを有効にします。デバイスの CLI または Web インターフェイスにログインすると、ウェルカムバナーが表示されます (設定されている場合)。現在、ウェルカムバナーは、次のコマンドを使用して xAPI を介してのみ設定できます。

```
xCommand SystemUnit WelcomeBanner Set
```

上記はマルチラインコマンドです。複数行コマンドとこの機能の使用方法の詳細については、『CE9.5.0 Administrator Guide』を参照してください。

Spark から Webex への再ブランディング

Spark から Webex 後続への要素のブランド変更。これで、Web インターフェイスの製品 ID が再ブランディングされました。

CE9.4.2 の新機能

- これはマイナーリリースで、バグ修正のみが含まれます。
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。

CE9.4.1 の新機能

- これはマイナーリリースで、バグ修正のみが含まれます。
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。
- DX70 と DX80 向けに Android から CE9.4.1 への変換ソフトウェアのリリース

CE9.4.0 の新機能

- Cisco Webex Room Kit Pro のサポート
- GUI での Spark から Webex への再ブランディング
- GUI でのタイムゾーンと言語の設定の再スタイル
- Cisco Webex Room Series およびレガシー MXP デバイス間でのコールで H263 を使用したコンテンツ共有のサポート
- Cisco Webex Room シリーズと同時にペアリングされた Cisco 近接クライアントの最大数
- 管理設定ロックダウン構成の CUCM プロビジョニング
- Sony SRG/EVI-120DH のサポート
- Cisco Webex DX シリーズの GUI での手動バックライト補正の有効化
- デフォルトの HTTP モードを HTTP + HTTPS から HTTPS へ変更

CE9.4.0 の新機能の説明

Cisco Webex Room Kit Pro のサポート

Cisco Webex Room Kit Mini は、Webex Teams クラウドサービスまたは既存のオンプレミス インフラストラクチャを使用するように登録できる Cisco Webex Room シリーズの強力な新しいルームデバイスです。UCM 登録するには、最新のデバイス パックがインストールされていることを確認します。

Cisco Webex Room Kit Pro のハードウェアおよび技術仕様の詳細については、製品データシートが入手可能になったときに参照してください。

このシステムを CUCM からアップグレードするときには、ソフトウェアを「.pkg」ではなく「.loads」拡張子を使用して指定する必要があることに注意してください。「.pkg」ファイルには Cisco Webex Quad Camera 用のソフトウェアは含まれていません。

GUI での Spark から Webex への再ブランディング

Spark と表示された GUI 要素が、Webexに変更されました。GUI アクティベーションフローでは、Cisco Spark ではなく Webex Teams を使用します。以前に Cisco Spark という名前のルームデバイスが Cisco Webex になりました。たとえば、Cisco Spark Room Series は Cisco Webex Room Series になりました。

GUI でのタイムゾーンと言語の設定の再スタイル

GUI のタイムゾーンと言語の設定に新しいルックがあり、設定フローが更新されました。

Cisco Webex Room Series およびレガシー MXP デバイス間でのコールで H.263 を使用したコンテンツ共有のサポート

Cisco Webex Room シリーズは、バージョン H.263 のサポートがないため、別のコンテンツチャネルでコンテンツを受信したり共有したりできない以前のソフトウェアのバージョンでは制限がありました。Cisco Webex Room Series デバイスから MXP デバイスへコンテンツを共有すると、以前のバージョンではプレゼンテーションがメインビデオストリームに合成されます。

MXP と Cisco Webex ルーム シリーズ間の H.263 コンテンツ共有のサポートが CE9.4.0 で利用可能になりました。テスト済みでサポートされるシナリオについては、以下を参照してください。ここでは、H.263 コンテンツ共有が期待どおりに動作します。

- Cisco Webex Room Series デバイスと MXP デバイス間の H.323 ダイレクト発信 (IP ダイアラ)。
- H323 上の VCS に登録された MXP および SIP または H.323 のいずれかにある同一 VCS 上に登録された Cisco Webex Room シリーズデバイス。VCS 上において H.323 で SIP 発信を行うには、インターワーキング オプション キーが VCS 上にインストールされている必要があることにご留意ください。

他のシナリオには制限事項があることに注意してください。

一般的な SIP またはその他の SIP シナリオでは、Cisco Webex Room Series デバイスが CUCM に登録されているか、またはそれ自体と MXP (IP ダイアラ) 間の直接 SIP コールを実行している場合は、この相互運用性機能の範囲でサポートされているシナリオとは見なされません。

上記の特定のシナリオでは、サポートはレガシー MXP デバイスへのコールに限定されます。たとえば、古い Polycom デバイスなど、コンテンツチャネルでの H.263 プロトコルをサポートしているレガシーサードパーティ製デバイスへのダイヤリングは機能する可能性があります、Cisco でサポートされているものとは見なされません。

MPX は、Cisco がいかなる方法でもサポートしなくなったレガシー製品です。このソフトウェア機能は、新しいデバイスが混在している環境で MXP デバイスを使用していて、古いデバイスが段階的にダウンするのを待機している場合に追加されます。

Cisco Webex Room シリーズと同時にペアリングされた Cisco 近接クライアントの最大数

プロクシミティサービスである ContentShare ToClients が無効である場合、Cisco Webex Room Series シリーズデバイスは最大 30 のペアリングクライアントを同時に設定できます。近接サービス「CallControl」と「ContentShare FromClients」を有効にして、ルームデバイスが最大30台のクライアントをペアリングできるようにすることができます。[ContentShare ToClients] が有効になっている場合、クライアントの制限は 7 に減少し、以前のソフトウェア リリースと同じになります。

管理設定ロックダウン構成の CUCM プロビジョニング

CE9.4.0 には、CE9.2.1 で導入された管理設定ロックダウン設定の CUCM プロビジョニングのサポートが追加されました (詳細については、このドキュメントの「CE9.2.1 機能の説明」を参照してください)。[設定 (settings)] メニューは、CUCM を介して一括設定を使用して、すべてのエンドポイントでロックダウンできるようになりました。

この構成に新たなフィールドを公開するには、CUCM にデバイスパッケージが必要となる場合があります。

Sony SRG-120DH および EVI-120DH のサポート

特定の Sony カメラモデル (SRG-120DH/EVI-120DH) のサポートが追加されました。EVI-120DH は、バンドルとして Cisco Webex Codec Plus とのみ一緒に販売されますが、Cisco Webex Room Kit Pro および Cisco TelePresence SX80 などのスタンドアロン Precision 60 カメラをサポートする他のデバイスでも動作します。

サポートされているシナリオ、サポートされていないシナリオの一部については、以下を参照してください。

コーデックカメラの機能	サポートの有無
パン、チルト、およびズーム (PTZ)	あり
プリセット	あり
位置リセットと xCommand camera コントロール	あり
xStatus と特定のカメラの詳細	あり (シリアル番号は表示されません)
PresenterTrack camera として使用	不可
ソフトウェア アップグレード	不可
他のカメラと一緒に使用 (Cisco Webex Quad Camera、Precision 60)	あり
FECC	あり
カメラフリップ (上下逆)	不可
ミラー	あり

カメラを IP 経由でデバイスにペアリングするには、カメラベースの下にある dip スイッチ1が、IP 通信の [オン (On)] に設定されている必要があります。Visca 制御を有効にするには、システム選択を position 7 (カメラ側面にある選択ホイール) に設定する必要があります。カメラをデバイスのローカルスイッチポートの 1 つに接続します (Precision 60 のペアリングと同じ手順)。カメラは自動的にルームデバイスとペアリングする必要があります。必要に応じて、カメラを接続するために、スイッチを接続してルームデバイスのスイッチポートを拡張してください。

注: カメラに付属している IR リモコンを使用しないでください。組み込みのカメラ制御はルームデバイスで使用してください。カメラのリモートコントロールを使用してカメラを制御すると、コーデックがカメラの現在の位置を失うことがあります。カメラのリモートコントロールを使用してカメラをオフにすると、カメラがスタンバイ状態になります。EVI-120DH カメラは、リモートコントロールなしで出荷されます。コーデックは、この状態からカメラを復帰させることができません。

DX シリーズにおける GUI での手動逆光補正の有効化

新しい設定は、バックライト補正を有効または無効にする DX のメインメニューで使用できるようになりました。これは、ユーザの背後の日光やその他の明るい光源を補正するために、センサーの明るさのレベルを上げる (オン) または下げる (オフ) 固定設定です。

逆光補正によってセンサーは固定レベルに設定され、逆光に合わせて自動調整されることはありません。

デフォルトの HTTP モードを HTTP + HTTPS から HTTPS へ変更

この変更の詳細については、「このソフトウェアのバージョンの重要な注意事項と警告」の項を参照してください。これにより、ルームを管理するための既存の HTTP 実装がある環境で、工場出荷時の初期状態または工場出荷時状態へのリセットが影響を受ける可能性があります。

CE9.3.3 の新機能

- これはマイナーリリースで、バグ修正のみが含まれます。
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。

CE9.3.2 の新機能

- これはマイナーリリースで、バグ修正のみ含まれます。
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。

CE9.3.1 の新機能

- これはマイナーリリースで、CSCvj32935 のバグ修正のみ含まれます。
 - このリリースの解決済みの不具合へのリンクについては、「未解決および解決済みの警告」の項を参照してください。

CE9.3.0 の新機能

- 設定とカスタム要素のバックアップ/復元
- 室内制御の更新
- ISDN リンクのサポート
- ワンボタン機能 (OBTP)
- SX10 画面ステータスのモニタリング (CEC)
- 発信前のコールレートの調整 (UI)
- 着信音の選択と着信音の音量の調整
- その他の変更
 - 延期されたアップグレードの再開 (UI)
 - 機密情報を非表示にする (UI)
 - アクセシビリティ: 着信時のスクリーンの点滅
 - Cisco Webex DX シリーズのミラーリングされたセルフビュー

CE9.3.0 の新機能の説明

設定とカスタム要素のバックアップ/復元

CE9.3.0 には、「バックアップと復元」の新しいバージョンと改善されたバージョンが含まれています。以前のバージョンでは、設定ファイルを保存することによって会議室デバイスをバックアップできましたが、ブランディング、マクロ、お気に入り (ローカル電話帳)、サインインバナー、室内制御パネルなどの他の要素を含むことができませんでした。

CE9.3.0 で実装されているソリューションを使用すると、バンドル内のこれらの機能をすべてバックアップおよび復元することができます。システム固有ではないバックアップバンドルをプロビジョニングすることによって、複数のルームデバイスを設定できます。これには、マクロ、ブランディングイメージ、および TMS、CUCM、またはサードパーティ統合を使用した、同じセットアップがあります。

スタート ガイド

この UI は、ルームデバイスの Web インターフェイスで [メンテナンス (Maintenance)] → [バックアップと復元 (Backup and Restore)] を選択することで使用できます。デフォルトでは、使用可能なすべての設定済み要素が含まれていますが、バックアップを作成する前に要素をオフにするだけです。このプロセスは、復元に必要なすべての情報とコンテンツを含む zip ファイルを生成します。

複数のルームデバイス間での復元またはプロビジョニング

バックアップファイルは、同じページ (システム固有の設定の場合) を使用して手動で復元するか、または既存の API インターフェイスを使用して UCM、TMS、またはサードパーティ統合による複数のルームデバイスとしてプロビジョニングすることを目的とするテンプレートとして汎用化することができます。

CE9.3.0 では、次のものをバックアップバンドルに含めることができます (設定されている場合)。

- お気に入り (ローカルの電話帳)
- サインインバナー
- ブランディングイメージ (ハーフスリープの背景、ハーフウェイクアップブランディング、ブランディング)
- マクロ (すべてを選択するか、バックアップする 1 つのマクロを選択します)
- 室内制御設計
- 設定ドキュメント (バックアップする設定を選択)

要件

バックアップバンドルは、UCM TFTP ファイルサービス、TMS、または HTTP か HTTPS 上のルームデバイスからアクセス可能なカスタム Web サーバでホストできます。

注: 現時点では、ルームデバイスは Web サービスからのバンドルの取得 (GT) のみをサポートしています。

重要: 複数のデバイスに分散することを目的としてルームデバイスをバックアップする場合は、設定ドキュメントからすべてのデバイス固有の設定を削除する必要があります。バックアップを作成するのと同じページに、これらの設定を削除できるボタンがあります。デバイス固有の設定 (ネットワーク情報を含む) を使用して複数のデバイスにバックアップバンドルをプロビジョニングする場合は、複数の到達不能なデバイスで終了する可能性があります。このようなシナリオを回避するために、UCM を使用したプロビジョニングでは、現在、設定ドキュメントが復元されることはありません。「UCM プロビジョニング」のセクションを参照してください。

TMS プロビジョニング

TMS は、バンドルがホストされている Web サービスからバックアップバンドルを取得するために、ルームデバイスが必要とするコマンドをプロビジョニングできます。次の XML 文字列を含むカスタム コマンドを使用して構成テンプレートを作成することによってこれを行います。

```
<Command><Provisioning><Service><Fetch>
<URL>https://host/backup.zip</URL>
<Checksum>c9d1feb...</Checksum>
<Origin>Other</Origin>
</Fetch></Service></Provisioning></Command>
```

URL の内容を、バックアップバンドルの web サーバパスと、この URL にあるバックアップバンドルの sha512 チェックサムに置き換えます。URL は、バックアップバンドルをホストする場所によって異なる場合があることに注意してください。元のフィールドはオプションであり、設定ファイルを復元する必要がある場合はデバイスに通知します。デフォルトは「その他 (Other)」で設定を復元しますが、「プロビジョニング」は設定を復元しません。

TMS のすべての新しいバージョンがこれをサポートしているため、このコマンドを発行するための TMS バージョンの要件はありません。不明な点がある場合は、CE9 会議室デバイスの TMS バージョン要件に従ってください。

設定テンプレートがルームデバイスに適用されると、ルームデバイスはバックアップバンドルを自動的にダウンロードして復元します。

UCM カスタマイズプロビジョニング

UCM プロビジョニングには、製品固有の設定レイアウトに一括カスタマイズセクションを追加する新しいデバイステンプレートが必要です。これらのフィールドでは、バックアップバンドルをダウンロードできる場所の URL、ハッシュタイプ (sha512) とハッシュ (チェックサム) をそれぞれ適用します。適用すると、ルームデバイスはバックアップバンドルを一度ダウンロードして復元します。バックアップバンドルを再プロビジョニングするには、デバイスを工場出荷時設定にリセットし、別のチェックサムを使用して新しいバックアップバンドルを再プロビジョニングまたはアップロードするか、UCM に従って設定を適用する必要があります。

UCM は、UCM OS Administration を介してバンドルを TFTP サービスにアップロードすることで、ファイルをホストできます。ファイルは HTTP (<http://ucmhost:6970/path/to/backup.zip>) で有効、UCM 11.5/12.x HTTPS (<https://ucmhost:6971/path/to/backup.zip>) から入手できます。チェックサムは、UCM を介したプロビジョニング時に HTTP か HTTPS に関係なく必要です。

制限：システム固有のネットワークおよびレジストラ情報の誤設定を回避するために、UCM を使用してプロビジョニングするときは、.txt は意図的に**無視**されます（「オリジン」で「プロビジョニング」を指定していない限り、TMS またはサードパーティのプロビジョニングには適用されません。前述の「TMS プロビジョニング」の項を参照してください）。バックアップバンドルの UCM プロビジョニングでは、現在、ブランディング、マクロ、サインインバナー、ローカル電話帳、室内制御設計のみを設定します（バックアップバンドルに含まれている場合）。

チェックサム検証

デバイスは、HTTP でバックアップバンドルをダウンロードするために e コマンドを受信すると、中間者攻撃の発生を回避するために、バックアップバンドルの sha512 チェックサムを要求に含める必要があります。HTTPS を使用する場合、UCM プロビジョニングを除き、チェックサムは必要ありませんが、推奨されます。

このドキュメントの最後には、ファイルの sha512 チェックサムを生成する方法が記載されています。

注：ルームデバイスの Web インターフェイスで [復元 (restore)] セクションを開き、新しく作成したバックアップバンドルを選択すると、選択したファイルの sha512 チェックサムをルームデバイスが生成して表示します。

その他の情報

復元されたバックアップにマクロが含まれている場合は、マクロランタイムが有効に設定され、再起動され、すべてのマクロが自動的にアクティブになります。

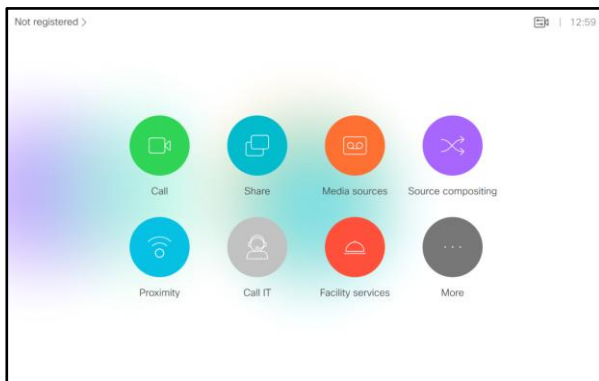
バックアップにブランディングイメージが含まれている場合、壁紙の設定は自動的に [自動 (Auto)] に設定されます。これにより、以前にカスタムの壁紙を使用していた場合に、ブランディングイメージが表示されるようになります。

注：HTTPS が使用され、sha512 チェックサムが指定されていない場合、ルームデバイスは常にサーバー証明書の検証を試みます。

室内制御の更新

強調表示された更新:

- 室内制御エディタおよびUI は、最大 20 台の室内制御パネルをサポートするように更新されました。
- エディタでは、いくつかの新しいアイコン (Cisco Webex、近接、および Webex ログ) を使用できます。
- エディタの色の選択から室内制御パネルの色を設定します。
- テキスト要素をダブルクリックして、エディタのデザインでテキストを直接編集します。
- 室内制御 XML ファイルをエディタにドラッグ アンド ドロップできます。
- スタンドアロンのトリガーボタンを作成するためのメカニズム
- グローバルエントリポイント (右上隅) が削除されました



すべてのパネルが [ホーム (home)]/[通話中 (in call)] 画面に表示されるようになりました。パネルの数が UI で使用可能な領域を超えた場合は、[その他... (More...)] ボタンが表示されます。室内制御パネルが上部メニューバーから削除されていることに注意してください。[その他... (More...)] を押して超過しているパ

ネルを含むスクロール可能なペインが表示されます。

「外部発信のみ」、「通話中のみ」、または「常時」の在籍状況の概念は、従来と同様に適用されます。

エディタに必要な数のパネルを作成できますが、優先順位に応じて合計 20 個のみがホーム画面で使用でき、通話中のシナリオでも使用できます。

[トリガー (trigger)] ボタン機能を使用すると、パネルボタンでパネルのデザインを開くか、パネルを開かずにイベントを直接トリガーするかを選択できます。これは、パネルのリンクされた設計を削除し、パネルにエディタ内の一意の ID を付けることによって行われます。その後、パネルボタンを押すと、xAPI でイベントがトリガーされます。

パネルボタンに適用できる室内制御エディタでは、色の選択が可能です。最大 20 個のパネルボタンを作成できるため、ボタンに異なる色を設定すると、識別しやすくなります。色を慎重に選択すると、同じ色が他の機能にも使用されるため、ユーザの混乱を避けることができます。室内制御エディタの色にマウスポインタを合わせると、その色が使用されているテーマが表示されます。

ISDN リンクのサポート

ソフトウェアのバージョン IL1.1.7 では ISDN リンクが、CE9.3.0 をサポートするすべてのビデオシステムでサポートされます。ISDN リンクは以前は CE8 でサポートされており、要件は CE9.3.0 と同じです。

ISDN リンクをペアリングするためには、ルームデバイスで IPv6 を有効にする必要があります。

ワンボタンプッシュ (OBTP) スヌーズ

これで、ミーティングのアラームにより、5分間のスヌーズオプションが提供されるようになりました。このアラームは、通常、通話中に、スケジュールされた会議が開始間近になると表示されます。会議が終了するまでは、表示されるたびにアラームを 5 分間スヌーズできます。

SX10 画面ステータスのモニタリング (CEC)

CEC は SX10 ではデフォルトで無効になっており、Web インターフェイスを介して有効にする必要があります。SX10 には以前のリリースで CEC が実装されていました。これで、CEC の実装は Cisco Webex Room シリーズとのパリティになりました。新しい CEC xCommands を使用できます。詳細については、SX10 API ガイドを参照してください。

発信前のコールレートの調整

CE9.3.0 から、画面上の UI または Touch 10 からコールを発信するときに、コールレートを調整できます。

着信音の選択と着信音の音量の調整

[設定 (settings)] メニューで、優先呼出音を選択して、システムボリュームとは別に呼出音の音量を調整できるようになりました。

その他の変更

延期されたアップグレードの再開

アップグレードが使用可能であることを示す通知が表示され、6 時間のアップグレードを延期することを選択した場合は、システムの使用が完了した時点でアップグレードを再開できます。手動でアップグレードを再開しない場合、アップグレードは 6 時間後に自動的に開始されます。

UI の機密情報を非表示にする

UserInterface 強力なセキュリティモードを有効にすることで、UI の機密情報を非表示にします。この機能により、システム IP 情報 (ルームデバイスの IP アドレス、Touch 10、レジストラー (UCM/VCS) など) が非表示になります。この機能は、管理者パスワードが空白でない場合、[設定 (settings)] メニューがロックされ、ユーザインターフェイスの強力なセキュリティモードが有効になっている場合にのみアクティブになります。

この機能がアクティブになっている間は、システムから Touch 10 を切断しても、システムの IP アドレスが画面に表示されないことに注意してください。

情報を表示するには、管理者パスワードを使用して認証する必要があります。

この機能は、JITC 準拠の一部として追加されますが、システムを完全に強力なセキュリティモードに設定することなく、個別の機能として有効にすることができます。

アクセシビリティ: 着信時のスクリーンの点滅

この機能は主に聴覚が不自由なユーザが着信コールに気づきやすくするようにしています。画面と Touch 10 は、約 1 秒ごとに赤/グレーで点滅します。この機能はデフォルトでは無効になっており、ルームデバイスの Web インターフェイスで有効にすることができます。CE9.3.0 をサポートするすべてのデバイスでサポートされます。

Cisco Webex DX シリーズでの自己表示のミラーリング

Cisco Webex DX80 または DX70 のセルフビューを反転して、ミラー効果を作成します。この機能は、Android ソフトウェアの Cisco Webex DX シリーズで利用可能になりました。これで、CE9.3.0 から入手できます。この機能はデフォルトで有効になっており、ルームデバイスの Web インターフェイスから無効にすることができます。

CE9.2.6 の新機能

- これはマイナーリリースで、バグ修正のみが含まれます。
 - このドキュメントの「未解決および解決済みの警告」セクションを参照してください。

CE9.2.5 の新機能

- これはマイナーリリースで、CSCvj32935 のバグ修正のみ含まれます。

CE9.2.4 の新機能

- これはマイナーリリースで、バグ修正のみが含まれます。
 - このドキュメントの「未解決および解決済みの警告」セクションを参照してください。

CE9.2.3 の新機能

- これはマイナーリリースで、バグ修正のみが含まれます。

CE9.2.2 の新機能

- これはマイナーリリースで、バグ修正のみが含まれます。

CE9.2.1 の新機能

- マクロフレームワーク
- Cisco Webex Room 55 の HDCP サポート
- ブランディングとハーフウェイクのカスタマイズ
- ソース構成
- HTTP プロキシのサポート
- Touch 10 および画面上の UI 機能
 - UI での管理者設定のロックダウン
 - ホワイトボードへのスナップ設定 UI
 - IEEE 802.1x 設定 UI
 - キーボードのローカリゼーション (ロシア語)
 - 右から左に読む言語のサポート (アラビア語およびヘブライ語)
- Cisco Webex Quad Camera がある Cisco TelePresence SX80 のサポート
- xAPI 経由での証明書のアップロード
- xAPI 経由でのカスタム入力プロンプトのトリガー
- Cisco Webex Room Kit と Room Kit Plus の USB からシリアルポートへのサポート
- CMS 会議 (アクティブ コントロール) でのリモート参加者のミュート
- 室内制御
 - ウィジェット
 - プレビュー モード
- ブリーフィングルーム モード
- その他の機能や変更
 - Cisco Proximity インジケータと UI トグルの削除
 - デバイス アクティベーションの変更によるビデオ システムの初期設定へのリセット

CE9.2.1 の新機能の説明

エンドポイントの動作をカスタマイズするためのマクロフレームワーク

CE9.2.1 は、新しい強力なマクロ開発フレームワークを導入しています。この機能により、ユーザとインテグレータは、シナリオを自動化し、個々の要件に合わせてエンドポイントの動作をカスタマイズするために、標準の JavaScript を使用して小規模なマクロスクリプトを作成できます。

状態の変更や xAPI イベントに基づいて特定のアクションをトリガーする、独自のカスタム機能を作成できます。たとえば、システムがスタンバイ状態になったら数分後にビデオ システムのすべての設定を自動的にリセットして、次のグループの人がルームを使用可能な状態にできます。

xAPI でアクションを実行できる場合、ほとんどのシナリオでマクロフレームワークを使用してそれを自動化できます。サポートされているシステム上では、最大 10 個のマクロスクリプトを作成できます。

マクロ開発エディタは、ビデオ システム Web インターフェイス上にあり、外観、キー バインド (Emacs または Vim)、構文チェック、オートコンプリート、デバッグ コンソールなどの機能があります。マクロはコーデックでネイティブに実行され、同じエディタから起動できます。

開始するには、マクロエディタに移動し、ヘルプ セクションと組み込みのチュートリアルを確認します。そこにはマクロの作成を開始するために必要なすべての情報とコード例が含まれています。

独自のマクロを作成する技量や知識をお持ちでなくても、ダウンロード可能な事前作成されたマクロのコレクションが <https://developer.cisco.com/site/roomdevices> に用意されています。

Cisco TelePresence サポートフォーラムを使用してアイデアを共有したり支援を受けたりしてください。

室内制御との連携を設計する

マクロスクリプトと室内制御を組み合わせると、サードパーティ製デバイスを接続しなくても、ローカルカスタム機能のための使いやすいグラフィカル ユーザインターフェイスを作成できます。

短縮ダイヤル、カスタム レイアウト コントロール、言語セレクト、Proximity トグル、コール品質調査などの関連動作がある独自のミニパネルを作成できます。外部ルームの周辺機器を制御したり、外部アクションを実行したりする必要がある場合にも、制御システムが必要です。

既知の制限事項については、この文書の「制限事項」と勧告のセクションを参照してください。

サポートされるシステム (マクロ フレームワーク)

CE9.2.1 をサポートするすべてのシステム (ただしプラットフォームの安定性の問題から Cisco TelePresence SX10 を除く)

マクロフレームワーク サポートの免責事項:

Cisco Technical Assistance Center (TAC) は、マクロランタイム フレームワークの問題またはエディタ自体の問題がある場合のサポート ケースのみを支援できます。TAC には、マクロコードまたは支援なしでは予期した動作をしないコードのデバッグについて支援する責任はありません。この機能を最大限に活用するには、標準的な JavaScript の作成に精通しているか、そうでなければ統合スクリプトやプログラミングに精通していることが前提となります。

現在アクティブなマクロがあるビデオ システムのサポートを提供するために、TAC はケースを進める前に、すべてのマクロを無効にすることを求める場合があります。アイデアおよびマクロのデバッグのヘルプについては、Cisco TelePresence コミュニティから、支援を目的としたCisco サポートフォーラムを探してください。

Cisco Webex Room 55 の HDCP サポート

Cisco Webex Room 55.上では、入力ソースの 1 つに対して HDCP (High-bandwidth Digital Copy Protection) サポートを有効にできます。HDCP を有効にすることで、AppleTV、HD TV-Decoder、またはゲーミングコンソールなどのコンシューマ グレード デバイスに接続して、会議コールに使用しない場合に統合 4K 画面の使用目的を変更できます。

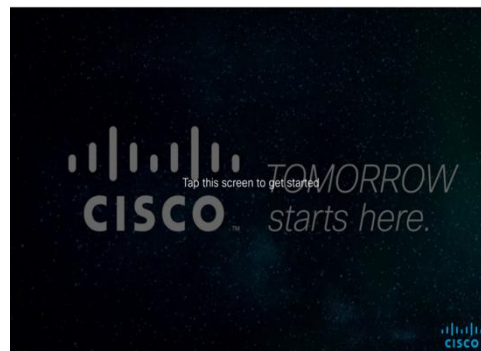
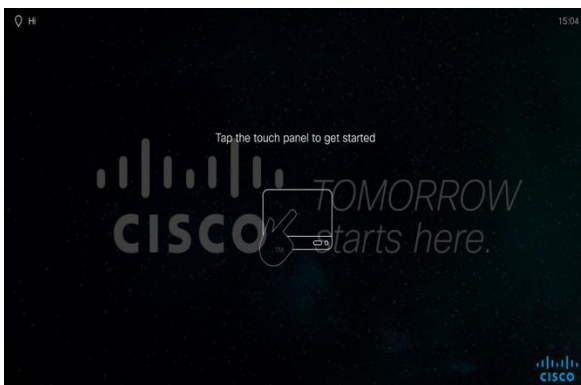
コンテンツは、HDCP 対応の入力ソースからローカルにしか表示できません。コール中には、HDCP 構成の入力からは何も共有できません。これには、ラップトップからのコンテンツが実際には HDCP 保護ではない場合や、HDCP 入力からメイン ビデオ ストリームへのビデオが作成されるのではない場合があります。この場合、遠端に送信されるブラック フレームのみが生成されます。

ブランディングとハーフウェイクのカスタマイズ

Touch 10 などの画面上の UI に配置する会社独自のブランド イメージをアップロードします。この機能により、ハーフウェイク状態の柔軟性を拡張し、その外観をカスタマイズできます。

ハーフウェイク

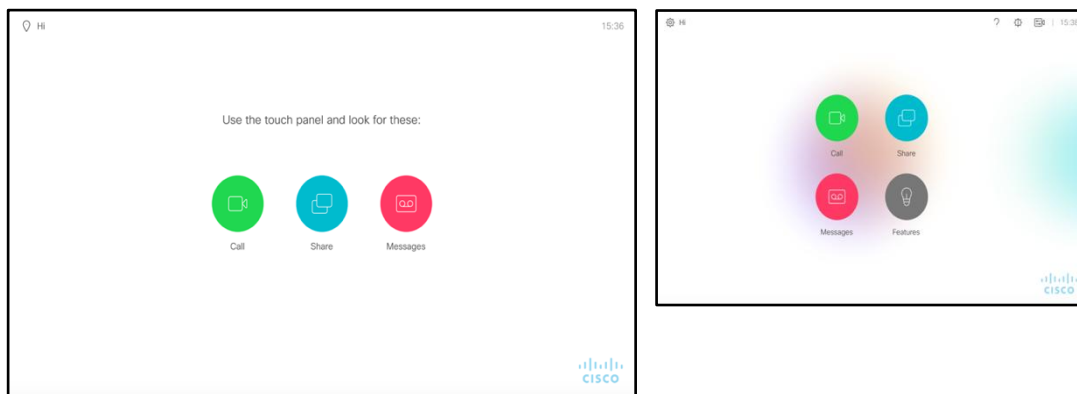
ハーフウェイク状態のデフォルトのアニメーション背景を置き換えるには、背景として使用するブランド画像をアップロードします。また、会社のロゴをアップロードして、ビデオ システムで独自のブランドを表示できます。



このスクリーンショットは、カスタムブランドイメージがあるハーフウェイクのシステムの例を示しています。左の図は画面上にどのように表示されるかを示し、右の図は Touch 10 です。サードパーティによる統合があれば、画面上に表示されるテキストはたとえば、「ステージ演台で Crestron タッチ パネルを使用する」というようにカスタマイズできます。ハーフウェイク テキストを変更することによって、Touch 10 パネルまたはテキストの下に表示される TRC6 リモートコントロールの図も削除されます。Touch 10 上の「この画面をタップして開始 (Tap this screen to get started)」というテキストは変更できません。

スリープなし

システムがスリープなしのときに画面の右下隅と Touch 10 に配置される独自のブランドイメージロゴをアップロードします。



上記のスクリーンショットは、右下隅にブランドロゴが表示されているスリープなしシステムの例を示しています。Web インターフェイスから左下隅にカスタム テキスト行を配置することもできます。すべての画像は、パーソナライゼーションの下のビデオ システム Web インターフェイス経由でアップロードできます。Web インターフェイスに表示されるわかりやすい指示に従ってください。アップロードするすべてのブランド イメージは、画面に表示されるとおりに、Web インターフェイスでプレビューされて表示されます。このページから、ハーフウェイクを手動でトリガーして、システム上で結果を即時に参照できます。

xAPI および XMLAPI 経由で Base64 エンコードのブランド イメージをアップロードします。詳細については、CE9.2.1 管理者ガイドを参照してください。

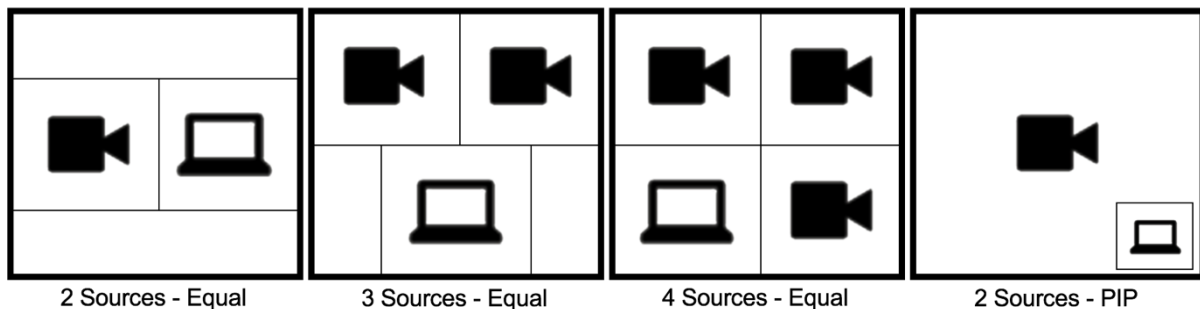
サポートされているシステム (ブランディング)

CE9.2.1 をサポートするすべてのシステム (ただしプラットフォームの安定性の問題から Cisco TelePresence SX10 を除く)。

ソース構成

この機能は、レガシー製品用に TC-Console で以前に提供されていたいくつかの機能に置き換わります。ソース構成を使用すると、最大で 4 つの入力ソースを 1 つのイメージとして構成できます (構成できる入力ソースの数は、コーデックで使用可能な物理入力ソースに応じて変わります)。このイメージは、メイン ビデオ ストリームでコールの遠端に送信されます。ソース構成は xAPI 経由でのみ有効にできるので、室内制御 UI をマクロと組み合わせて作成し、オンデマンドで構成を制御することをお勧めします。

ソース構成は TC-Console と同じような柔軟性は提供していないことに注意してください。ただし使用しやすさは向上しています。構成には、サイドバイサイドとピクチャインピクチャ (PIP) の 2 つのレイアウトがあります。サイドバイサイド レイアウトは最大で 4 つのソースをメイン ビデオに組み込むことができますが、PIP は 2 つのソースに制限されます。どのソースをどのフレームで表示するかは決定できますが、フレーム位置やサイズは、構成に使用するソースの数と選択するレイアウトにより決定されるので変更できません。サンプルのメイン ビデオ ソース構成については、以下を参照してください。



xAPI 操作の詳細については、管理者ガイドを参照してください。

サポートされるシステム

ハードウェアの制限により Cisco TelePresence SX10、DX80、DX70 を除き、CE9.2.1 をサポートするすべてのシステム。

HTTP プロキシのサポート

ビデオシステムを Cisco Spark に登録する場合、HTTP (S) 経由の通信用環境に必要であれば、HTTP プロキシを通過するシステムを構成できます。HTTP プロキシ機能は、Touch 10 を介して (Cisco Spark への登録時)、または Web インターフェイスを介して構成できます。メディアは引き続き直接であり、プロキシを経由しません。

プロキシ サーバで認証が必要な場合、ビデオ システムはダイジェスト認証のみをサポートすることに注意してください。

HTTPS インспекションは、有効な CA 証明書をシステムにアップロードすることでサポートされます。

Touch 10 および画面上の UI 機能

CE8 から CE9 への移行時になくなったいくつかの機能は、新しい UI で復元されました。

UI での管理者設定のロックダウン

Touch 10 または画面上の UI で管理者設定をロックできるようにします。この機能はデフォルトではロックされておらず、xAPI 経由または Web インターフェイス経由でロックできます。ビデオ システムに管理者パスワードが設定されており、SettingsMenu モードが「ロック (Locked)」になっている場合、ロック設定を構成するには管理者の資格情報を提示する必要があります。ロックされた設定は、Touch 10 または画面上の UI で南京錠のアイコンでマークされます。管理者パスワードが空白の場合は、SettingsMenu モードが「ロック (Locked)」の場合でも設定はオープンになります。設定するエンドポイント設定ページ上の Web インターフェイスから、「SettingsMenu」を検索します。

ホワイトボードへのスナップ設定の復元

SpeakerTrack を備えたビデオ システムがあれば、Touch 10 からホワイトボードへのスナップ機能を設定できます。SpeakerTrack ユニットが取り付けられている次のシステムが含まれます。

- Cisco TelePresence SX80 (SpeakerTrack 60 または Cisco Webex Quad Camera 付属)、MX700、MX800、および MX800 Dual
- Cisco Webex Room Kit、Room Kit Plus、および Room 55

システムに SpeakerTrack カメラがない場合、この機能は構成できないことに注意してください。

Touch 10 上の手順に従ってホワイトボードへのスナップを設定します。

IEEE 802.1x 設定 UI

Touch 10 のネットワーク設定から IEEE 802.1x を設定できます。認証に証明書が必要な場合は、引き続き Web インターフェイスまたは xAPI 経由でアップロードする必要があることに注意してください。

キーボードのローカリゼーション (ロシア語、アラビア語、ヘブライ語)

いくつかの言語でキーボードのローカライズをサポートします。ロシア語、アラビア語、ヘブライ語を優先言語として選択すると、キーボードがローカライズされます。

右から左に読む言語のサポート (アラビア語およびヘブライ語)

アラビア語またはヘブライ語を優先言語として選択すると、キーボードのローカリゼーションに加えて、ユーザインターフェイスも反転します (右から左)。

Cisco Webex Quad Camera がある Cisco TelePresence SX80 のサポート

Cisco Webex Quad Camera は、CE9.2.1 の SX80 と一緒に使用できます。Cisco Webex Quad Camera を使用することで、HDMI 入力を SpeakerTrack 60 と比べて 1 つ多く空き状態にすることができ、People Count 機能を取得できます。ただしこれには、コール中にのみ機能し、コール外では機能しない (Cisco Spark Room Kit Plus ではサポートされる) という制限があります。Cisco Webex Quad Camera は、PresenterTrack 用の Precision 60 カメラと共に、役員室 (Briefing Room) モードでも動作します。

xAPI 経由での証明書のアップロード

PEM 形式の証明書は、新しい複数行コマンドを使用して xAPI 経由で直接インストールすることも、または XMLAPI 経由でインストールすることもできます。xAPI コマンドの詳細については、CE9.2.1 管理者ガイドを参照してください。

xAPI 経由でのカスタム入力プロンプトのトリガー

オンデマンド カスタム入力プロンプトを UI で有効にします。プロンプトは xAPI 経由でのみ有効にできるので、その機能を、マクロフレームワークと室内制御 UI の組み合わせまたはイベント後の自動トリガーによって作成します。たとえば、終了したコールの後にフィードバックを残すようにユーザに求めることができます。入力プロンプトは、送信されると xAPI でイベントを生成します。xAPI コマンドの詳細については、CE9.2.1 管理者ガイドを参照してください。

Cisco Webex Room Kit、Room Kit Plus、および Room 55 のための USB からシリアルポートへのサポート

サードパーティ統合のため、USB (タイプA) をシリアル (D-sub 9) アダプタに接続して、たとえば Crestron パネルをサポートすることができます。USB からシリアルへのほとんどの接続は機能するはずですが、Cisco は最もテストされて安定したシリアル接続として、UC232R-10 USB から RS232 (FTDI) アダプタへの接続をお勧めします。

CMS ホスト会議（アクティブコントロール）でのリモート参加者のミュート

CMS (2.3) 会議ビデオでシステムがアクティブ コントロールに有効になっている場合、Touch 10 または画面上の UI で参加者リストからリモート参加者をミュートできます (CMS でも有効になっている必要があります)。リモート システムが CE9.2.1 の場合、ミュート状態は、CMS と、ローカルには Touch 10 およびマイクロフォン ミュート状態 LED に反映されます。

プライバシー上の理由からローカルにもミュートされている CE9.2.1 上のリモート参加者はミュート解除できません。ただし、要求があった場合には、リモート参加者がマイクロフォンのミュート解除を要求したことを伝えるメッセージがリモート システム上でポップアップします。リモート ユーザは、手動でミュートを解除する必要があります。

サードパーティの遠端の参加者と、ブリーフィングルームのソフトウェアを実行している参加者もミュートできますが、それはローカルには反映されず、CMS 側でのみミュートされます。

以下のリンクをたどって、CMS でこの機能を有効にする方法については、CMS API ドキュメンテーションを参照してください。

<https://www.cisco.com/c/en/us/support/conferencing/meeting-server/products-programming-reference-guides-list.html>

室内制御

室内制御に追加された新機能では、カスタム テキスト、ピン、またはパスワード入力プロンプトを xAPI から有効にできます。室内制御エディタには、仮想の Touch 10 も備えられました。これにより Web インターフェイスから機能を試すことができます。

ウィジェット

状態があるウィジェット (トグル ボタン、スライダー、およびグループ ボタン) は、ユーザによるトグル ボタンの切り替えやスライダーの移動などのアクションが実行されるとすぐに、xStatus でその状態が設定されるようになりました。以前には GUI はそれ自体を xStatus に反映したりコントローラに依存したりすることなく「オプティミスティック」に更新し、xStatus ウィジェット値を設定することによって変更を明示的に確認していました。この変更により、一部のわかりにくい GUI の動作が修正されました。状態を設定することを忘れると、GUI と xStatus の値が簡単に同期しなくなってしまう可能性があったからです。

これにより、コントローラから GUI の状態を時々オーバーライドできないという設計上のバグも解決されます。

コントローラ側で起きていること (たとえば壁のライト スイッチを使用してライトをオンにしたり、xAPI で設定を変更したりなど) を反映するために、引き続き以前と同じようにコントローラまたはマクロにウィジェット値を更新させる必要があります。

コーデックは UI イベントが発生する前に xStatus 値を更新するため、イベントによりコーデックとコントローラ間の競合状態が生じることはありません。そのため、コントローラがウィジェット値をオーバーライドすることを決定した場合、このコマンドは必ず、コーデックによって以前に実行された更新の後に着信します。

プレビュー モード

室内制御エディタには、新しいプレビュー モードがあります。仮想 Touch 10 パネルは、Touch 10 パネル上でデザインがどのように表示されるかを確認するために使用できます。UI はインタラクティブであり、同じページにあるコンソールで対話して機能をテストしたりウィジェット値を印刷したりできます。これにより室内制御機能を作成してオンデマンドで機能をテストすることがさらに容易になります。仮想 Touch 10 と対話すると、それはサード パーティ制御システムまたはマクロを使用して作成した機能をトリガーする、ビデオ システム上の実イベントも生成します。コンソールには、コントロール システムと室内制御 UI が同期していることを確認するための、すべてのコントロール システム フィードバック メッセージも表示されます。いくつかのウィジェットは、前の「ウィジェット」のセクションで述べたように、対話時に xStatus の値も更新するようになり、実際の GUI イベントの前にコンソール (「コントロール システム」の下) に表示されることに留意してください。これは予期されている動作です。

プレビュー モードにアクセスするには、室内制御エディタで「目」のアイコンをクリックします。

ブリーフィングルーム

ブリーフィングルーム モードは新機能ではなく、CE9.2.1 からサポート対象として復元されました。ブリーフィングルーム (Briefing Room) モードは、Cisco Webex Quad Camera に接続されている Cisco TelePresence SX80 でもサポートされるようになりました。ブリーフィングルーム モードのすべての要件は引き続き適用されます。詳細については、管理者ガイドをお読みください。

注：ブリーフィングルームのレイアウトは室内制御によって管理され、ビデオシステムの既存の [室内制御 (In-Room Control)] パネルよりも優先されます。ブリーフィングルーム モードを有効にする前に、室内制御のデザインを必ずバックアップしてください。これらは、ブリーフィングルーム モードを有効にした後に室内制御の設定に追加できます。

ブリーフィングルーム モードは、3 画面、SpeakerTrack 60、または Quad Camera (SX80) と PresenterTrack 用の追加の Precision 60 カメラを備えた、Cisco TelePresence SX80、MX700、および MX800 Dual 上でのみサポートされます。

注: Intelligent Proximity サービスであるクライアントとのコンテンツ共有は、ブリーフィングルーム モードが有効である場合には、他のユース ケースに影響を与える可能性がある高負荷シナリオを避けるために無効にされます。

その他の機能や変更

Intelligent Proximity インジケータと UI トグルの除去

ビデオシステムは、有効になると画面の上部左隅にプロキシミティ (Proximity) アイコンが表示されることはなくなりました。Proximity サービスのオンとオフを切り替えるボタンも除去されました。

Proximity は引き続き xAPI および Web インターフェイスから構成可能です。クライアントがビデオシステムとペアリングされると、画面右側に Proximity アイコンが表示され、1 つ以上のクライアントが Cisco Proximity があるシステムとペアリングされたことが示されます。

ヒント: Cisco Proximity 制御が必要な場合、他の多くのシナリオと同様、たとえば室内制御と新しいマクロフレームワークで解決できます。このようなシナリオのダウンロード可能な事前作成されたマクロのコレクションは、間もなく入手可能になります。

UI からのデバイスアクティベーションの変更による一部のシステム設定のリセット

CE9.2.1 での動作の変更として、デバイス アクティベーション方式を変更する前に (たとえば VCS から UCM アクティベーション)、すべての設定が正しいことを確認するために、システムはすべてのコール サービス設定を消去して再起動するようになりました。これにより、新しいサービス向けにビデオ システムをプロビジョニングするときに設定の競合が回避されます。

これによりすべての連絡先と通話履歴も消去されることに注意してください。それらのバックアップを、デバイス アクティベーションを変更する前に必ず実行してください。

CE9.1.6 の新機能

- これはマイナーリリースで、CSCvj32935 のバグ修正のみ含まれます。
- DX70 と DX80 向けに Android から CE9.1.6 への変換ソフトウェアのリリース

CE9.1.5 の新機能

- マイナーリリース (バグ修正を含む)
- WPA2 関連の脆弱性 (KRACK) : CSCvf71761 を修正する
- DX70 と DX80 向けに Android から CE9.1.5 への変換ソフトウェアのリリース

CE9.1.4 の新機能

- マイナーリリース (バグ修正を含む)
- Cisco Webex Room Kit Plus + Precision 60 のサポート
- DX70 と DX80 向けに Android から CE9.1.4 への変換ソフトウェアのリリース

CE9.1.4 の新機能の説明

Cisco Webex Room Kit Plus + Precision 60 のサポート

Cisco Webex Room Kit Plus は Cisco Webex Quadc Cameraと組み合わせた Cisco Webex Codec Plusです。

Cisco Webex Codec Plus への Precision 60 カメラの接続サポートは、リリース CE9.1.4 で利用できます。Precision 60 カメラは、Cisco Webex Quad Camera への追加または置き換えとして使用できます (カメラは合計で最大 2 台まで)。

複数のカメラを Cisco Webex Room Kit Plus に接続するには、外部スイッチをカメラ制御ポートに接続する必要があることに注意してください。

CE9.1.3 の新機能

- マイナーリリース (ほとんどがバグ修正)
- Cisco Webex Room 55 のソフトウェアサポート
- G.729 コーデックで音声明瞭度を高めるためのフィルタが適用されました。

CE9.1.2 の新機能

- CE9.1.2 に導入された新しい機能はありません。
 - バグ CSCve94476 の修正を含みます。

CE9.1.1 の新機能

- Cisco Webex Room Kit Plus のサポート
 - Cisco Webex Quad Camera スピーカーのトラッキング
 - Cisco Webex Room Kit と同等の機能 (Feature parity)
- CMS ベースのミーティング向けの新しいデュアル スクリーン エクスペリエンス
 - アクティブ コントロール
 - サポートされるビデオ システム
- 新しいウェイクアップ エクスペリエンス
- DX70 および DX80 の Bluetooth ヘッドセットのサポート
 - Bluetooth 制御
- Wi-Fi: WPA-EAP
 - 信頼できる CA 証明書
- マイナー変更
 - ルーム分析の追加

CE9.1.1 の新機能の説明

Cisco Webex Room Kit Plus のサポート

Cisco Webex Room Kit Plus は、Webex Teams クラウド サービスまたは既存のオンプレミス インフラストラクチャを使用するように登録できる、Cisco Webex ルーム シリーズの新しいルーム デバイスです。UCM 登録するには、最新のデバイス パックがインストールされていることを確認します。

Cisco Webex Room Kit Plus のハードウェア仕様や技術仕様の詳細については、次の製品データシートを参照してください。

http://www.cisco.com/c/ja_ip/products/collateral/collaboration-endpoints/spark-room-kit-series/datasheet-c78-738752.html

このシステムを CUCM からアップグレードするときには、ソフトウェアを「.pkg」ではなく「.loads」拡張子を使用して指定する必要があることに注意してください。「.pkg」ファイルには Cisco Webex Quad Camera 用のソフトウェアは含まれていません。

Cisco Webex Quad Camera スピーカーのトラッキング

Cisco Webex Room Kit Plus には、外部カメラモジュールが付属しており、このカメラは Speaker Track エクスペリエンスを強化する、統合されたラウドスピーカーと 4 つの 5K レンズを備えています。

Touch 10 パネルで直接、SpeakerTrack 診断モードを有効にして動作を確認できます。このモードでは、イメージがどのようにトリミングされ、現在何人が会議室内で検出され、どのレンズが現在使用中かを容易に確認できます。

Cisco Webex Room Kit と同等の機能 (Feature parity)

Cisco Webex Room Kit と同様に、Cisco Webex Room Kit Plus では次の機能がサポートされています。

- スピーカー トラッキング
- 最適な全体表示
- Wi-Fi
- ルーム分析
- COP ファイルを使用したファームウェアアップグレードのサポート
- 最適な 4K エクスペリエンスを実現するCisco の推奨画面

CMS ベースのミーティング向けの新しいデュアル スクリーン エクスペリエンス

デュアル スクリーンのビデオ システムでは、最適なミーティング エクスペリエンスのために、両方の画面を CMS ベースのミーティングに利用できるようになりました。ビデオ システムは、2 つのトランスコードされたビデオ ストリームを受信し、1 つのコンテンツ ストリームは CMS からのもので、両方の画面を使用してストリームをレンダリングします。

アクティブ コントロール

ビデオ システムで、アクティブ コントロールを有効にすると、最適なミーティング エクスペリエンスを得ることができます。これには、すべての参加者と参加者の現在の活動状況 (各参加者のミュート、共有、および通話中のスピーカーの表示) を表示する参加者リストが含まれます。

使い慣れたレイアウト 選択パネルを使用して、Touch 10 パネルからレイアウトをシームレスに変更できます (DTMF トーンは不要)。

サポートされるビデオ システム

この機能を有効にするには、CMS 2.2 以降、CUCM 11.5 / VCS X8.7 以降、およびデュアル スクリーンのビデオ システムが必要です。

以下のサポート情報を参照してください。

サポートされるビデオ システム	サポートされないビデオ システム
Cisco TelePresence SX80	Cisco TelePresence MX200 G2 および MX300 G2
Cisco TelePresence MX800、MX800D、 および MX700	Cisco TelePresence SX10 および SX20 Quick Set
Cisco Webex Room Kit	
Cisco Webex Room Kit Plus	
Cisco Webex Room 55	
Cisco Webex Room 70	

サポートされているルーム デバイスは、2 画面のセットアップになっており、[会議マルチストリーム (Conference MultiStream)] 構成が [自動 (Auto)] になっている必要があります。この設定のデフォルト値は [自動 (Auto)] です。

注: システムが 3 画面セットアップの場合 (Cisco TelePresence SX80、MX700、または MX800 など)、3 番目の画面はデュアル画面コール中にはコンテンツ用に予約されます。

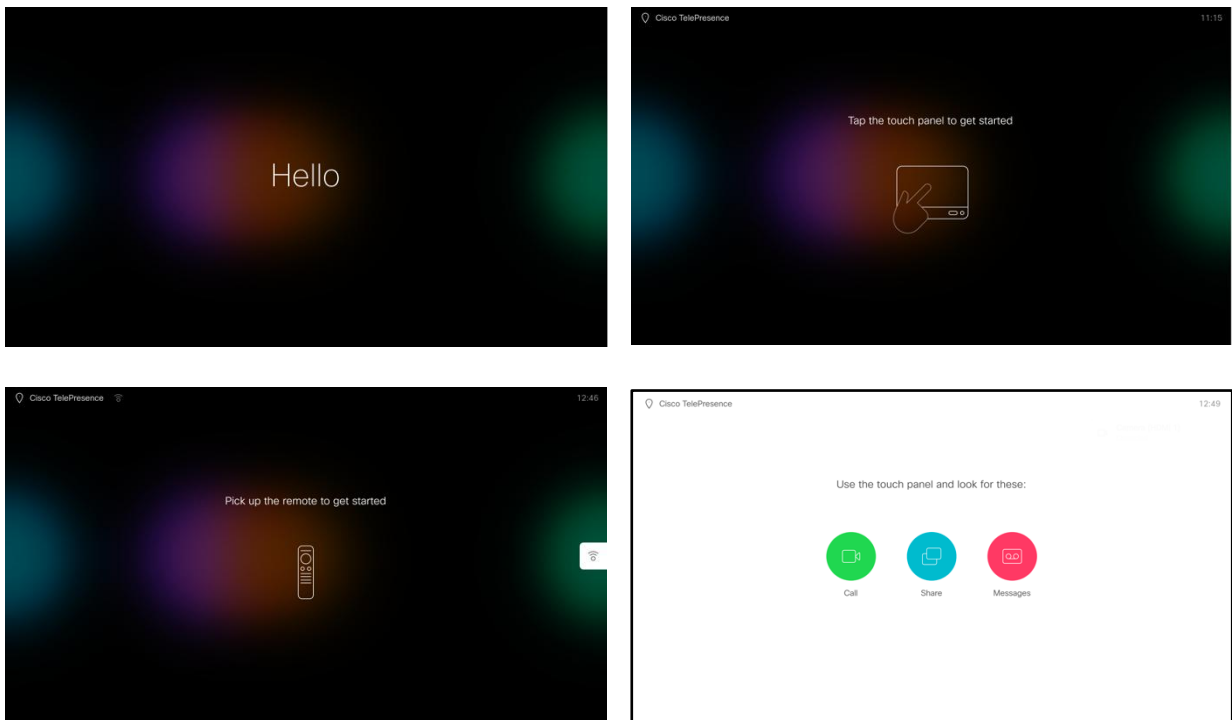
CMS のこの機能を有効にする方法について、CMS 導入ガイドを参照してください。

新しいウェイクアップ エクスペリエンス

CE9.1.1 で、新しい復帰方法としてハーフウェイク状態が導入されました。これにより、システムが緩やかに復帰し、使用開始する方法に関する適切なガイダンスをユーザーに提示できます。この機能は、CE9.0.1 で導入されたモーション検知機能の起動に基づいて構築されています。

モーション検知が有効になっている場合 (DX70 および SX10 では利用不可)、人が部屋に入ってきたときに、システムは自動的に起動してハーフウェイク状態になります。また、ユーザが Cisco Proximity クライアントをシステム (すべてのシステム) に対してペアリングした場合にも、システムはこの状態まで起動します。

ビデオ システムは、起動してグリーティング を表示してから、開始方法の簡単なガイダンスを表示して「ハーフウェイク」状態になります。



システムによって、TRC6 リモート コントロールで制御されている場合でも Touch 10 パネルで制御されている場合でも、ガイダンスのテキストは、現在の構成に自動的に適用されます。Touch 10 パネルを接続している状態でタッチスクリーンをタップしてシステムを復帰させた場合、以前のソフトウェアバージョンで表示されていた大きい時計の代わりに、さらにガイダンスが画面に表示されます。

WakeUpOnMotionDetection 機能を使用するために、Proximity モードを有効にする必要があることに注意してください。その他の Proximity サービスを有効にする必要はありません。既知の制限については、このマニュアルの制限のセクションを参照してください。

Cisco Webex DX70 および DX80 の Bluetooth ヘッドセットのサポート

ビデオ システムは、組み込みの Bluetooth モジュールを備えています。ユーザは、画面の UI から設定メニューで Bluetooth を有効にしてビデオ システムをペアリング モードにすることができます。ヘッドセットをペアリング モードに設定する方法について、取り扱いマニュアルを教えてください。ペアリングを開始するためにヘッドセットが検出された場合は、ビデオ システムの一覧からヘッドセットを選択します。ヘッドセットのステータスが「接続中」として表示されている場合、使用することができます。

- ホーム画面のセルフビュー アイコンの隣にある右上隅のアイコンを押すことで、ハンドセット、Bluetooth ヘッドセット、USB ヘッドセット、およびスピーカーを選択できます。
- ペアリング リストに保存される、ペアリングされた複数のヘッドセットを保持できますが、1 度に接続できるのは 1 つだけです。すでに異なるヘッドセットを使用している間に、新しいヘッドセットをペアリングしたり接続したりすると、新しいヘッドセットがアクティブなヘッドセットとして置き換わります。
- サポート対象となるには、ヘッドセットが HFP (Hands Free Protocol) と A2DP をサポートしている必要があります。これは、ヘッドセットに付属していたドキュメントで確認できます。一部のヘッドセットでは、HFP および A2DP の実装に相違がある可能性があるため、注意してください。これによって、ペアリングまたはオーディオ再生が失敗することがあるため、これらのプロトコルが機能する市販のすべてのヘッドセットを保証することはできません。
- DX70 および DX80 は、現在ナローバンド音声のみをサポートしています。広帯域オーディオについては、ビデオシステムに Bluetooth ドングルを接続することをお勧めします。これにより、ヘッドセットは USB ヘッドセットとして検出されます。これは、今後のソフトウェア リリースで修正される予定です。

Bluetooth 制御

一部のヘッドセットには、音量調節、通話応答/切断、およびミュート用の追加のコントロールがあります。これらのコントロールのヘッドセットの実装によって、ビデオ システムは次のものをサポートします。

- 音量アップ、音量ダウン、コールへの応答、コールの切断、ミュート

既知の制限については、このマニュアルの制限のセクションを参照してください。

Wi-Fi: WPA-EAP

これは、現在 Wi-Fi サポート、Cisco Webex DX70、Cisco Webex DX80、Cisco Webex Room Kit、Cisco Webex Room Kit Plus、Cisco Webex Room 55 があるビデオシステムに適用されます。

次の方法の WPA-EAP フレームワークのサポートが追加されました。

サポートされる WPA-EAP 方式	サポートされる内部方式
PEAP	EAP-MSCHAPv2
EAP-TLS	EAP-GTC
EAP-TTLS	
EAP-FAST	

信頼できる CA 証明書

信頼できる CA 証明書は、WPA-EAP 対応の Wi-Fi ネットワークへの接続に必要なことがあります。中間者攻撃のシナリオを避けるため、検証用に CA 証明書を使用することをお勧めします。CA 証明書は、ビデオシステムの Web インターフェイスからアップロードできます。証明書をアップロードするには、システムが有線ネットワークまたは WPA-PSK Wi-Fi ネットワークのいずれかに接続してから、信頼できる証明書を必要とする WPA-EAP 対応ネットワークに接続する必要があります。ビデオ システムへの CA 証明書の大量配布は現在サポートされていませんが、将来のソフトウェアのバージョンで使用可能になる可能性があります。

WPA-EAP 対応 Wi-Fi ネットワークに接続するために CA 証明書を要求するようにビデオ システムを構成できます。GUI で Wi-Fi 構成を選択している場合、ビデオ システムにインストールされている CA 証明書がないと、警告が表示されます。デフォルトでこの設定は無効です。

マイナー変更

ルーム分析の追加

CE9.1.1 のルーム分析機能では、2 つの追加機能が利用可能になりました。

室内の人の存在を検知

ビデオシステムは、人が室内にいるかどうかを検知する機能を備えています。室内に人がいるかどうかを検知し、ステータスを変更するには最低 2 分かかります。この機能は、超音波に基づいています。室内にいた人物の記録を保持することはなく、部屋が使用中であるかどうかだけを検知します。

この機能は、超音波をサポートするすべてのシステムに対してサポートされています (モーション検知時の起動をサポートしないという同じ理由で、Cisco TelePresence SX10 QuickSet および Cisco TelePresence DX70 を除く)。この機能は、ビデオシステムの Web インターフェイスから有効化できます。

人数のカウント

新しい Cisco Webex Room シリーズでは、CE9.0.1 で人数のカウント機能が導入され、ビデオシステムがコール中であるか、またはセルフビューの画像を表示したときにだけ室内に存在する人の数をカウントできるようになりました。CE9.1.1 では、この機能は、システムがスタンバイでない限り、システムが通話中でない場合も室内に存在する人の数をカウントすることができるようになりました。室内にいた人物の記録を保持することはなく、顔の数だけを検知します。

Cisco Webex DX70 および DX80 のセカンダリネットワークポートを無効にする構成

Cisco Webex DX70 および Cisco Webex DX80 のセカンダリネットワークポートは、次の設定で無効にできます。x 構成ネットワークポート 2 モード: <オン、オフ>

CE9.0.1 の新機能

- Cisco Webex Room Kit のサポート
 - スピーカー トラッキング
 - 最適な全体表示
 - Wi-Fi 対応
 - ルーム分析
 - COP ファイルを使用したファームウェアアップグレードのサポート
- 更新された [アクティビティサークル] ユーザインターフェイス
 - Touch 10 の更新
 - 新しい電話帳と共有トレイ UI
 - Touch 10 および Cisco Webex DX70/DX80 のキーボードの改善
 - Touch 10 でのコール転送
- モーション検知ウェイクアップ
- 室内制御エディタの更新
- マイナー変更
 - HTTPS クライアント証明書のサポート
 - 新しいブリーフィングルーム制御
 - Web インターフェイスのローカル連絡先からお気に入りへの名称変更
 - 追加された言語: ポルトガル語

CE9.0.1 の新機能の説明

Cisco Webex Room Kit のサポート

Cisco Webex Room Kit (Room Kit) は、Webex Teams クラウド サービスまたは既存のオンプレミス インフラストラクチャを使用するように登録できる、Cisco Webex ルーム シリーズの新しいルーム システムです。UCM 登録するには、最新のデバイス パックがインストールされていることを確認します。

Room Kit のハードウェア仕様や技術仕様の詳細については、次の製品データシートを参照してください。

http://www.cisco.com/c/ja_jp/products/collateral/collaboration-endpoints/spark-room-kit-series/datasheet-c78-738729.html

スピーカートラッキング

スピーカートラッキングは、これまでしばらくの間、SX80、MX700、MX800、および MX800 Dual のみ利用可能だった機能です。

Cisco Webex Room Kit には、デジタル スピーカートラッキング機能を備えた非可動の統合型カメラが付属しており、統合型マイクを使用することにより、ルームで通話中のスピーカーを見つけてフォーミングできます。

最適な全体表示

Cisco Webex Room Kit は、デジタル顔検出機能を使用して、会議室内の個人またはグループを最適に自動表示します。この機能は、会議室内での参加者の移動や新たな参加者の入室に合わせて、画面にすべてのユーザが含まれるように自動的に調整します。この機能は、スピーカートラッキングと連動して、最適な会議エクスペリエンスを提供します。

Wi-Fi 対応

Cisco Webex Room Kit は Wi-Fi 接続をサポートしています。Wi-Fi を設定するには、Touch 10 を Cisco Webex Room Kit に直接ペアリングする必要があります。

サポートされている IEEE 標準規格	サポートされるセキュリティ プロトコル
IEEE802.11ac、IEEE802.11n、IEEE802.11a、IEEE802.11g、IEEE802.11b	WPA-PSK (AES)、WPA2-PSK (AES)

他のエンタープライズ セキュリティ プロトコルも、今後の コラボレーション エンドポイント ソフトウェア リリースでサポートされる予定です。詳細については、製品データ シートを参照してください。

Touch 10 のパネルからネットワーク設定にアクセスし、ワイヤレスネットワークに接続します。Wi-Fi を使用するには、イーサネット ケーブルを取り外す必要があります (接続されている場合)。イーサネット ケーブルが接続されていて、設定を続行するためにイーサネット ケーブルを取り外す必要があることをシステムが検知すると、通知が表示されます。

イーサネット接続が存在する場合は、常にこの接続が Wi-Fi よりも優先されます。

サポートされていないネットワークに接続すると、システムがそのネットワークをサポートしていないことを示す通知が Touch 10 のパネルに表示されます。

ルーム分析

ルーム分析とは、顔検出機能を使用して、ビデオ コール中の会議出席者の平均人数を数えるメカニズムです。このデータを使用して会議室の使用状況レポートを生成できます。ルーム システムは、システム API や通話履歴から取得可能なデータを、サードパーティの統合製品を使用して手動または自動で収集します。

COP ファイルを使用したファームウェアアップグレードのサポート

Cisco Webex Room Series は、COP ファイルを使用して、Web インターフェイスから直接アップグレードできます。Cisco Webex Room Series の場合、これがリリースされている唯一のパッケージフォーマットです。

更新された [アクティビティサークル] ユーザインターフェイス

アクティビティサークルは、ルーム OS UI や他の Webex Teams プラットフォーム (Cisco Webex Board など) を含むコラボレーションポートフォリオ全体でユーザインターフェイスを調整するために CE9.0.0 でリリースされた新しい UI の名前です。

この UI アップデートには、デフォルトの背景イメージ、新しいアイコン、およびビジュアルデザインの変更が含まれています。

Touch 10 の更新

Cisco Touch 10 は、Webex Teams に登録されているエンドポイント用の Touch 10 UI と同じ新しいユーザインターフェイスを備えており、これは Collaboration Endpoint Software 9 を実行している Cisco Webex DX70 または Cisco Webex DX80 のオンスクリーン (on-screen) のユーザインターフェイスとも似ています。

現在、Touch 10 パネルには CE8 の UI にある一部の機能が含まれていません。これらの機能は、今後のリリースで追加される予定です。新しい UI の Touch 10 パネルに現時点で不足している機能の一覧については、以下を参照してください。

機能差

機能	CE8	CE9
設定サブセットのパスワード保護 (初期設定へのリセット、ネットワーク、Touch 10 のペアリング解除、プロビジョニング)	あり	CE9.2.1 から
ローカライズされたキーボード	あり	CE9.2.1 から (ロシア語、ヘブライ語、アラビア語)
電話帳の通話料金調整	あり	CE9.3.0 以降
ホワイトボードへのスナップ設定	あり	CE9.2.1 以降 (SpeakerTrack 対応システムが必要)
アラビア語とヘブライ語 (UI およびテキスト配置の逆方向化)	あり	CE9.2.1 から
手動クロック調整、デュプレックス設定、ネットワーク DNS ドメイン、自動応答、デフォルト通話料、カメラホワイトバランス、露出とバックライト補正、DVI 出力モード、メインソース選択、スピーカートラック調整 (トラッキングモード)、マルチポイントモード設定、呼出音変更、キートンのオン/オフ。	あり	コーデック Web インターフェイスから設定可能 最新のソフトウェアはこちらから入手できます。

新しい電話帳と共有トレイ UI

新しい UI 更新プログラムの一部として、電話帳と共有トレイが更新されました。電話帳と共有トレイは、全画面表示されるようになり、外観も刷新されました。

Touch 10 および Cisco Webex DX70/DX80 のキーボードの改善

Touch 10 キーボードが更新されて大きくなり、ダイヤルパッドボタンも追加されました。特殊文字の追加ページも追加されました。

Touch 10 でのコール転送

Touch 10 でコール転送を設定し、アクティブな間はすべてのコールが転送されていることを示す通知を表示することができます。UCM では、この機能を使用する必要があります。

モーション検知ウェイクアップ

モーション検知ウェイクアップは、会議室に誰かが入室した際に、オーディオ技術を使用してそのことを感知する機能です。システムは自動的にウェイクアップします。この機能はデフォルトでオフに設定されています。有効にした場合、システムを手動でスタンバイモードにすることはできません。

室内制御エディタの改善

室内制御エディタが更新されて外観が新しくなり、ロジックと使い勝手が改善された、より効率的なコントロール インターフェイスになりました。また、新たに方向パッド ウィジェットが追加されました。

室内制御とサードパーティ製の装置を併用することで実現できる機能の一部を例示する、室内制御シミュレータも追加されました。この仮想シミュレーション ルームには一般的な装置が数多く用意されています。仮想の Touch 10 パネルを使用してそれらの装置を制御することもできますし、実際の Touch 10 に直接エクスポートしてそこから仮想会議室を制御することもできます。この機能は、デモンストレーションとインスピレーションを目的としたものです。

シミュレータは、コーデックの Web インターフェイスで [統合 (Integrations)] → [室内制御 (In-Room Control)] を選択することで利用できます。

マイナー変更

HTTPS クライアント証明書サポート

HTTPS クライアント証明書の検証を有効にした場合、ユーザがコーデックのログイン ページにアクセスしようとする、システムはクライアント証明書をユーザに要求します。CA 証明書は必須であり、コーデックにアップロードする必要があります。

LDAP 認証が使用される場合、LDAP ユーザを確認するためにこのクライアント証明書が自動的に使用されます。ユーザ DN は、クライアント証明書と一致するように、ローカル ユーザに対して手動で設定することもできます。

新しいブリーフィングルーム制御

新しい UI では、ブリーフィングルーム モードで [室内制御 (In-Room Control)] パネルを有効にして、ブリーフィングルームのレイアウトを制御できるようになりました。ブリーフィングルームは、CE9 へのアップグレード後に有効化する必要があります。ブリーフィングルームが有効な状態でアップグレードした場合、制御を有効にするには、一旦機能を無効化してからもう一度有効化する必要があります。詳細については、既知の制限のセクションを参照してください。

Web インターフェイスのローカル連絡先からお気に入りへの名称変更

ローカル保存されている連絡先に関する Touch 10 と Web インターフェイスの命名規則を揃えるため、Web インターフェイスの [ローカル連絡先 (Local Contacts)] が [お気に入り (Favorites)] へと名称変更されました。機能面の変更はありません。

追加された言語: ポルトガル語

ローカル保存されている連絡先に関する Touch 10 と Web インターフェイスの命名規則を揃えるため、Web インターフェイスの [ローカル連絡先 (Local Contacts)] が [お気に入り (Favorites)] へと名称変更されました。機能面の変更はありません。

CE9 の未解決および解決済みの不具合

バグ検索ツールの使用

バグ検索ツールを使用すると、このリリースの警告事項（バグ）に関する情報（問題の説明と実行可能な回避策など）を検索できます。バグ検索ツールには、未解決の不具合と解決済みの不具合の両方が表示されます。リリースノートには、**未解決または解決済みのバグのサブセットは記載されません**。定義済みリンクにより、すべての未解決または解決済みのバグの正確なリストが提供されます。定義済み検索にリスト表示されるシリーズ/モデルは汎用のものであり、コラボレーション エンドポイント ソフトウェアを実行するすべての製品に関連するすべての関連バグがリスト表示されます。

バグ検索ツールを使用するには、以下のステップに従います。

ステップ 1 <http://www.cisco.com/cisco/psn/bssprt/bss>に移動して、バグ検索ツールにアクセスします。

ステップ 2 Cisco.com ユーザ ID とパスワードでログインします。

ステップ 3 特定の問題に関する情報を検索するには、[バグID検索（Search for bug ID）] フィールドにバグの ID 番号を入力し、[移動（Go）] をクリックします。

特定のソフトウェア リリースの未解決および解決済みの不具合のリストにアクセスするには、次のリンクを使用します。

ソフトウェアのバージョン	解決済みの不具合	未解決の不具合
CE9.10.0	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.10.0&sb=fr&sts=fd&bt=custV	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9&sb=anfr&sts=open&svr=3nH&scs=hSc&bt=custV
CE9.9.2	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.9.2&sb=fr&sts=fd&bt=custV	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.9.2&sb=anfr&sts=open&svr=3nH&scs=hSc&bt=custV

CE9.9.1	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.9.1&sb=fr&sts=fd&bt=custV	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.9.1&sb=anfr&sts=open&svr=3nH&scs=hSc&bt=custV
CE9.9.0	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.9.0&sb=fr&sts=fd&bt=custV	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.9.0&sb=anfr&sts=open&svr=3nH&scs=hSc&bt=custV
CE9.8.3	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.8.3&sb=fr&sts=fd&bt=custV	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.8.3&sb=anfr&sts=open&svr=3nH&scs=hSc&bt=custV
CE9.8.2	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.8.2&sb=fr&sts=fd&bt=custV	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.8.2&sb=anfr&sts=open&svr=3nH&scs=hSc&bt=custV
CE9.8.1	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.8.1&sb=fr&sts=fd&bt=custV	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.8.1&sb=anfr&sts=open&svr=3nH&scs=hSc&bt=custV
CE9.8.0	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.8.0&sb=fr&sts=fd&bt=custV	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.8.0&sb=anfr&sts=open&svr=3nH&scs=hSc&bt=custV
CE9.7.2	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.7.2&sb=fr&sts=fd&bt=custV	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.7.2&sb=anfr&sts=open&svr=3nH&scs=hSc&bt=custV
CE9.7.1	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.7.0.9.7.1&sb=fr&sts=fd&bt=custV	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.7.1&sb=anfr&sts=open&svr=3nH&scs=hSc&bt=custV

CE9.6.4	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.6.4&sb=fr&sts=fd&bt=custV	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.6.4&sb=anfr&sts=open&svr=3nH&scs=hSc&bt=custV
CE9.6.3	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.6.3&sb=fr&sts=fd&bt=custV	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.6.3&sb=anfr&sts=open&svr=3nH&scs=hSc&bt=custV
CE9.6.2	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.6.2&sb=fr&sts=fd&bt=custV	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.6.2&sb=anfr&sts=open&svr=3nH&scs=hSc&bt=custV
CE9.6.1	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.6.1&sb=fr&sts=fd&bt=custV	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.6.1&sb=anfr&sts=open&svr=3nH&scs=hSc&bt=custV
CE9.5.3	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.5.3&sb=fr&sts=fd&bt=custV	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.5.3&sb=anfr&sts=open&svr=3nH&scs=hSc&bt=custV
CE9.5.2	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.5.2&sb=fr&sts=fd&bt=custV	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.5.2&sb=anfr&sts=open&svr=3nH&scs=hSc&bt=custV
CE9.5.1	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.5.1&sb=fr&sts=fd&bt=custV	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.5.1&sb=anfr&sts=open&svr=3nH&scs=hSc&bt=custV
CE9.5.0	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.5.0&sb=fr&sts=fd&bt=custV	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.5.0&sb=anfr&sts=open&svr=3nH&scs=hSc&bt=custV

CE9.4.2	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.4.2&sb=fr&sts=fd&bt=custV	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.4.2&sb=anfr&sts=open&svr=3nH&scs=hSc&bt=custV
CE9.4.1	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.4.1&sb=fr&sts=fd&bt=custV	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.4.1&sb=anfr&sts=open&svr=3nH&scs=hSc&bt=custV
CE9.4.0	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.4.0&sb=fr&sts=fd&bt=custV	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.4.0&sb=anfr&sts=open&svr=3nH&scs=hSc&bt=custV
CE9.3.3	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.3.3&sb=fr&sts=fd&bt=custV	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.3.3&sb=anfr&sts=open&svr=3nH&scs=hSc&bt=custV
CE9.3.2	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.3.2&sb=fr&sts=fd&bt=custV	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.3.2&sb=anfr&sts=open&svr=3nH&scs=hSc&bt=custV
CE9.3.1	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.3.1&sb=fr&sts=fd&bt=custV	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.3.1&sb=anfr&sts=open&svr=3nH&scs=hSc&bt=custV
CE9.3.0	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.3.0&sb=fr&sts=fd&bt=custV	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.3.0&sb=anfr&sts=open&svr=3nH&scs=hSc&bt=custV
CE9.2.6	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.2.6&sb=fr&sts=fd&bt=custV	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.2.6&sb=anfr&sts=open&svr=3nH&scs=hSc&bt=custV

CE9.2.5	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.2.5&sb=fr&sts=fd&bt=custV	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.2.5&sb=anfr&sts=open&svr=3nH&scs=hSc&bt=custV
CE9.2.4	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.2.4&sb=fr&sts=fd&bt=custV	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.2.4&sb=anfr&sts=open&svr=3nH&scs=hSc&bt=custV
CE9.2.3	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.2.3&sb=fr&sts=fd&bt=custV	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.2.3&sb=anfr&sts=open&svr=3nH&scs=hSc&bt=custV
CE9.2.2	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.2.2&sb=fr&sts=fd&bt=custV	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.2.2&sb=anfr&sts=open&svr=3nH&scs=hSc&bt=custV
CE9.2.1	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.2.1&sb=fr&sts=fd&bt=custV	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.2.1&sb=anfr&sts=open&svr=3nH&scs=hSc&bt=custV
CE9.1.6	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.1.6&sb=fr&sts=fd&bt=custV	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.1.6&sb=anfr&sts=open&svr=3nH&scs=hSc&bt=custV
CE9.1.5	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.1.5&sb=fr&sts=fd&bt=custV	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.1.5&sb=anfr&sts=open&svr=3nH&scs=hSc&bt=custV
CE9.1.4	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.1.4&sb=fr&sts=fd&bt=custV	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.1.4&sb=anfr&sts=open&svr=3nH&scs=hSc&bt=custV

CE9.1.3	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.1.3&sb=fr&sts=fd&bt=custV	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.1.3&sb=anfr&sts=open&svr=3nH&scs=hSc&bt=custV
CE9.1.2	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.1.2&sb=fr&sts=fd&bt=custV	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.1.2&sb=anfr&sts=open&svr=3nH&scs=hSc&bt=custV
CE9.1.1	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.1.1&sb=fr&sts=fd&bt=custV	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.1.1&sb=anfr&sts=open&svr=3nH&scs=hSc&bt=custV
CE9.0.1	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.0.1&sb=fr&sts=fd&bt=custV	https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283661039&rls=9.0.1&sb=anfr&sts=open&svr=3nH&scs=hSc&bt=custV

既知の制限事項とアドバイザリ

制限事項とアドバイザリ

ネットワーク輻輳時のシステム動作

ネットワーク パフォーマンスを低下させるすべての要因によって、Cisco TelePresence の音声およびビデオ品質に影響を与える可能性があり、場合によっては通話が切断されることもあります。ネットワーク パフォーマンスの低下は、次のような原因が考えられます。

内部ポートスキャンやセキュリティスキャンなどの管理タスク

サービス拒否攻撃など、ネットワーク上で発生した攻撃

TelePresence 会議への悪影響を軽減したり排除したりするには、Cisco TelePresence システムが使用されていない時間帯に管理ネットワーク タスクをスケジュールするか、またはテストから TelePresence システムを除外します。

機器/機能	要約
Webex Teams のアクティベーション	<p>LAN でペアリングされた Touch 10 パネルを使用して Webex チームでシステムをアクティブにするには、Webex チームでシステムをアクティブ化する前に Touch 10 をペアリングする必要があります。</p> <p>Webex Teams でデバイスをアクティブ化する前に、使用可能な最新の CE バージョンにアップグレードすることをお勧めします。</p>
CUCM	<p>CUCM でプロビジョニングする場合の H.323 および SIP に関する考慮事項</p> <p>CUCM プロビジョニングを使用する場合、エンドポイントを VCS (SIP または H.323) に同時に登録することはできません。ユースケースはサポートされていません。CUCM プロビジョニングがアクティブのとき、H.323 モードは無効です。TelePresence カスタマーは H.323 から SIP</p>

	<p>に移行されることを推奨します。</p> <p>プロビジョニング モードを [CUCM] に設定せずに CUCM に登録するシナリオは、サポートされていません。</p> <p>NTP</p> <p>コラボレーション エンドポイント は、CUCM からのブロードキャスト NTP サーバをサポートしていません。サポート対象はユニキャストのみです。</p>
<p>モバイル Remote Access</p>	<p>クラスタ化された CUCM のフェールオーバーが VCS X8.10 CE ソフトウェアおよび MRA で予期どおりに機能しません</p> <p>クラスタ化された CUCM ノード間でのフェールオーバーは、すべての現在の CE バージョン (CE9.1.2 以前) で機能しません。これは、CE9.1.3 で修正されました。</p> <p>バックアップバンドルのプロビジョニングは、現在 MRA ではサポートされない</p>
<p>Cisco TelePresence DX70 および DX80</p>	<p>TMS でのスケジュールされた会議</p> <p>CE9.1 以降、帯域幅の値スペースは 6000 から 3072 に変更され、これにより DX システム コールは、TMS (15.6 以下) が 6000Kbps をデフォルトのハードコード値として使用するために失敗します。これは TMS からの会議で帯域幅を変更することによって回避できます。または DX システムのダイヤルインではなく、ブリッジからシステムにダイヤルすることで回避できます。</p>
<p>Cisco TelePresence SX10 クイックセット</p>	<p>機能の制約事項</p> <p>プラットフォームの安定性の問題により、いくつかの機能は SX10 ではサポートされない可能性があります。CE9.2.1 では、ブランディングとマクロフレームワーク機能は現在サポートされていませんが、今後追加される可能性があります。</p>
<p>Cisco TelePresence SX20 クイックセット</p>	<p>マイクミュートボタン</p> <p>PID 番号 CTS-SX20CODEC の SX20 Quick Set のマイクミュートボタンが、システムがコール中でないときにも点灯 (赤色または緑色) することは、既知の問題です。この問</p>

	<p>題は、CE9 を実行する PID 番号 CTS-SX20N-CODEC の SX20 Quick Set の新しいハードウェアリビジョンでは解決されています。PPID 番号は、コーデックの底面に記載されています。</p>
<p>Cisco TelePresence SX80、MX700、MX800、MX800D</p>	<p>帯域幅の制限</p> <p>これらのシステムで使用できる最大帯域幅は、エンドポイントの高負荷に関連した制限により、6000 Kbps (以前は 10000 kbps) に制限されます。これに対する修正が今後のリリースで計画されています。</p>
<p>SIP</p>	<p>SIP リッスンポート診断警告</p> <p>SIP プロキシに登録する際に SIP リッスンポートが有効になっていると、Web インターフェイスに「SIPListenPortAndRegistration」という診断警告が表示されます。SIP プロキシに登録する際は、SIP リッスンポートをオフにすることをお勧めします。</p>
<p>H.265</p>	<p>H.265 は SIP でのみ機能します</p> <p>H.265 プロトコルは SIP でのみ機能し、現在、SX80/MX700/MX800/MX800D および Cisco Webex Room シリーズ (p2p) でのみサポートされています。</p>
<p>Cisco TelePresence Server を使用したマルチストリーム</p>	<p>この機能は廃止され、CE9.0.0 以降ではサポートされません。</p>
<p>Cisco Intelligent Proximity</p>	<p>質問とサポートについては、Cisco サポート フォーラムを参照してください</p> <p>http://www.cisco.com/web/go/proximity-support</p> <p>トラブルシューティング ガイド</p> <p>https://supportforums.cisco.com/document/12159326/troubleshooting-guide-cisco-proximity</p> <p>強力なセキュリティ モード (JITC)</p> <p>強力なセキュリティ モードを有効にすると、Proximity のトラフィックは コラボレーション エンドポイント から意図的にブロックされます。システムの強力なセキュリティ モードが有効な場合は、Proximity をオフにする必要があります。</p> <p>ミーティング中の Proximity を使用した共有および 1440x900</p>

	<p>の解像度の送信は、コーデックのクラッシュを引き起こす可能性があります。この問題は、CE9.1.3 で解決される予定です。回避策は、お使いの PC または MAC で異なる解像度を設定することです。</p> <p>高負荷の問題のために SX80/MX700/MX800 がブリーフィング ルーム モードであるときには、クライアントとのコンテンツ共有は無効になります。</p>
<p>Touch 10</p>	<p>バグ ID: CSCum67440</p> <p>パネルの起動時にエリアに触れると、Touch 10 コントローラの画面上でそのエリアが動かなくなる場合があります。起動フェーズで、タッチ校正処理が行われるためです。このときに何かタッチパネルに触れると、そのエリアは Touch 10 が再起動されるまで機能を失う可能性があります。これを避けるため、ブート中にはタッチパネルに触れないでください。</p> <p>TC から CE へのアップグレード後には、Touch 10 を再起動する必要があります。</p> <p>ソフトウェアの制限により、リモートでペアリングされた Touch 10 は、TC から CE へのアップグレード後にハングする可能性があります。この問題を解決するため、Touch 10 の電源を切断して再接続すると Touch 10 は再起動します。</p> <p>ファシリティ サービス</p> <p>ファシリティ サービスは Touch 10 でのみサポートされます。</p>
<p>Web インターフェイス</p>	<p>バグ ID: CSCul35568</p> <p>Windows XP で実行中の IE8 の暗号スイートのサポートがないために、Cisco のセキュリティ要件による HTTPS アクセスができません。Chrome、Firefox、Opera ブラウザは問題なく動作します。これらのブラウザには、必要な暗号スイートのサポートがあります。IE8 は、Windows Vista、Windows 7、Windows 8 では正常に動作します。</p> <p>TLS 1.0 のサポート廃止</p> <p>TLS 1.1 以上をサポートするブラウザを使用してください。</p> <p>HTTPS モード (CE9.4.0 では HTTP+HTTPS から HTTPS に変更)</p> <p>この変更が影響を受ける可能性の詳細については、「このソフトウ</p>

	<p>エアのバージョンの重要な注意事項と警告」のセクションを参照してください。</p> <p>IE11 が CE9.7.1 で Web インターフェイスをレンダリングする際に問題が発生する (CE9.7.2 で修正)</p> <p>オーディオコンソールでは、IE11 と今後のソフトウェアリリースで問題が発生する可能性があることに注意してください。また、更新がブラウザで正しく処理されないため、マクロエディタも使用できません。別のブラウザを使用してください。</p> <p>Web インターフェイスから cop ファイルをアップロードすると、ファイルサイズが大きすぎると警告が表示されます。</p> <p>これは、1 GB より大きい最新の cop ファイルで発生する問題です。Web インターフェイスには 1 GB のアップロード制限があります。この問題は、CE9.8.2、CE9.9.1 以降で解決されています。この問題が発生した場合は、CE9.10.0 などにアップグレードする前に、解決済みのいずれかのバージョンにアップグレードしてください。この問題は、Web インターフェイスから cop ファイルを使用してアップグレードする場合に、Cisco Webex Room シリーズデバイスにのみ影響します。UCM または他の方法によるアップグレードでは、この問題による影響はありません。</p>
SNMP	<p>バグ ID: CSCtq44757</p> <p>コラボレーション エンドポイント ソフトウェアは、デフォルトの SNMP コミュニティ スtring により設定されます。これは、「プラグ アンド プレイ」機能に必要です。SNMP コミュニティ スtring はクレデンシャルとして処理する必要があり、したがって、初期設定後に変更する必要があります。</p> <p>SNMPv1 は CE9 でサポートされない</p> <p>SNMPv1 が CE9 ではサポートされていないため、他のバージョンの SNMP を使用することをお勧めします。</p>
セキュリティ	<p>バグ ID: CSCtr32420</p> <p>コラボレーション エンドポイント ソフトウェアとともに出荷されるコーデックは、Cisco の標準パスフレーズ ポリシーに適合しません。システムが侵害されるのを避けるため、インストール時にユーザがシステムのパスフレーズを設定することを推奨します。</p>

暗号化	<p>バグ ID: CSCvd33159</p> <p>AES-256 暗号化アルゴリズム (CE8.3.0 からの SIP でサポートされる) により、このサポートがないエンドポイント (E20 など) との相互運用性の問題が発生することがあります。CE8.3.3 と CE9.1.3 からは、このアルゴリズムをコーデック キャップ セット フィルタに追加して除去することで、問題を回避できます。</p>
IPv6	<p>バグ ID: CSCuo94615</p> <p>DHCPv6 のオプション 242 は、コラボレーション エンドポイント ソフトウェアを実行しているエンドポイントでサポートされません。</p>
管理	<p>CE8.1.0 以降を実行するエンドポイントで、HTTPS に対する TLS 1.0 がサポートされません。</p> <p>CE8.1.0 以降 (CE9.x を含む) へのアップグレード後、TMS に HTTPS 応答が表示されない場合は、TMS サーバで TLS1.1 または TLS1.2 が有効になっているかを確認してください。</p>
カメラ プリセット	<p>バグ ID: CSCux71105</p> <p>TC ソフトウェアから CE ソフトウェアにアップグレードすると、すべてのカメラ プリセットが失われます。これは、ハードウェアの制限であり、ソフトウェアでは解決されません。</p>
PresenterTrack	<p>PresenterTrack が MultiSite コールで無効である</p> <p>MultiSite コールでは、PresenterTrack 機能を使用できません。</p> <p>PresenterTrack は、CE9 以降の CMS を使用したデュアル スクリーンの通話で動作します。</p> <p>トリガー ゾーンの設定</p> <p>Web インターフェイスでトリガーゾーンを設定する場合は、既知の制限があります。([保存 (save)] ボタンを押すかどうかに関わらず) 青い四角を移動または配置すると常に、トリガーゾーンが保存されます。エンドポイントのセルフビューに表示される青い四角は、設定を Web から手動で保存するか、または Touch 10 から PresenterTrack のプリセットをアクティブ化するまで消えません。</p>

ブリーフィングルーム	<p>CE9.0.x と CE9.1.x でブリーフィングルームが正常に動作しません</p> <p>前述のソフトウェアで、ブリーフィングルームの機能が予期どおりに動作しなくなる複数の問題があります。これらのソフトウェアのバージョンでブリーフィングルームを使用するユーザは、無効にするか、最新の利用可能な CE8.3.x バージョンにダウングレードすることをお勧めします。これは、CE9.2.1 で解決されます。</p> <p>バグ ID: CSCvd83107</p> <p>CE8.x 以前から CE9.x にアップグレードする際、アップグレードの実行前にブリーフィングルーム モードが有効になっていた場合は、コントロールが表示されるようにするために、一旦ブリーフィングルーム モードを無効化してからもう一度有効化する必要があります。</p> <p>また、既存の室内制御設定がある場合は、その設定のバックアップを取ってください。この操作を実行すると、ホーム画面や着信コールに設定されている既存のパネルはすべて上書きされます。ブリーフィングルームは、レイアウトを制御するために室内制御を使用しています。新たな室内制御はすべて、既存のブリーフィングルーム コントロール パネルに追加する必要があります。</p> <p>CE9 で室内制御が有効になっている状態で CE8 にダウングレードすると、CE9 で有効化されていたコントロールがそのまま表示されますが、それらのコントロールは機能していないので室内制御エディタで削除して構いません。</p> <p>CE9.2.1 から、ブリーフィングルーム モードでは MX700 および MX800 でのエコ キャンセリングはモノに変更されています。</p>
スタートアップ ウィザード	<p>スタートアップ ウィザードがアクティブな間、システムによって [応答不可 (Do Not Disturb)] モードが意図的に有効化されます。</p> <p>スタートアップ ウィザードがアクティブな間、DND モードはオフにできません。スタートアップ ウィザードを削除するには、手順に従ってスタートアップ ウィザードを正常に終了するか、</p> <p>「RunStartupWizard」の値を [False (False)] に設定してオフにします。スタートアップ ウィザードがアクティブな場合、Web インターフェイスで診断メッセージがアクティブになり、ウィザードをオフにできるように設定へのリンクが表示されます。この操作は、システムを手動で設定する必要のある上級ユーザ以外は行わないでください。</p>

プレゼンテーション	<p>バグ ID: CSCuh68226</p> <p>MacBook Air で VGA ドングルに MiniDisplay ポートを使用すると、ビデオをコンテンツとして表示して共有することができません。MacBook Pro では、問題なくコンテンツはビデオとして表示されます。これは Apple の問題であると考えられます。</p>
カスタム壁紙 カスタムブランディング	<p>バグ ID: CSCvb67596</p> <p>カスタム壁紙を使用したシステムでは、カスタムブランディング、時計、[今日の予約 (today's bookings)]、[ワンボタンでプッシュ (One Button to Push)] などの画面上の要素が表示されません。この制限は、カスタマイズされた壁紙にこれらの要素がどのように表示されるかが確かではないため、意図的に設けられたものです。Touch 10 により操作されるシステムと比べて、Cisco TelePresence SX10、SX20、DX70、および DX80 のようなオンスクリーンで操作されるシステムはこの制限事項の影響が大きくなります。これは、これらのシステムに OBTP 参加機能がないためです。</p> <p>以前のリリースでこの回避策が導入されました。この回避策により、会議の開始時 (事前アラームはサポート外) にミーティングアラームが画面に表示され、カスタム壁紙が設定されたオンスクリーンで操作されるシステムでも OBTP を使用して会議に参加できるようになりました。注: このアラームを無視した場合、会議には手動で参加する必要があります。</p>

<p>新しいウェイクアップ エクスペリエンス モーション検知ウェイクアップ</p>	<p>Proximity モードをイネーブルにする必要があります</p> <p>現在、WakeUpOnMotionDetection が機能するには、Proximity モードが有効に設定されている必要があります。エンドポイントは、Proximity がオフになっている場合、超音波を出しません。Proximity サービスが有効になっている必要はなく、Proximity モードのみが必要です。</p> <p><i>この制限は CE9.6.1 で解決され、近接モードの「オン(On)」は必要なくなりました。</i></p> <p>WakeUpOnMotionDetection が、Cisco TelePresence SX10 QuickSet または Cisco Webex DX70 でサポートされていません</p> <p>ハードウェアの制限により、SX10 と DX70 は、WakeUpOnMotionDetection 機能をサポートしません。この構成は引き続き利用可能であり有効にできますが、予期どおりに機能しない場合があります。この機能は、これらのシステムに対して将来サポートされる可能性があります。</p> <p>DX80</p> <p>WakeUpOnMotionDetection はサポートされていますが、デフォルトでオフになっています。</p>
<p>DX の Bluetooth</p>	<p>ヘッドセットが装着された場合に有効化されるスマートセンサーなど、一部の機能は、ビデオ システムとうまく連携しません。Cisco Webex DX70 および DX80 と一緒に使用する場合は、これらの機能をオフにしてください。</p>
<p>HTTP プロキシ</p>	<p>自動設定</p> <p>場合によっては、自動構成ではすぐに Webex チームに登録できません。ソフトウェアが更新され、登録することが必要になるまで数分待機してください。それでも問題が解決されない場合は、手動プロキシ設定を使用します。この問題に対する修正は、今後のリリースに組み込まれる予定です。</p>

マクロフレームワーク	<p>マクロフレームワークはコーデックでコードをローカルに実行し、現在では xAPI に分離されています。マクロフレームワークを使用してリモートネットワーク接続を受信することはできませんが、CE9.6.1 から、マクロを使用して発信 HTTP POST または PUT を送信できます。</p> <p>サポートされているビデオ システム上では最大 10 個のマクロ スクリプトを作成できます。</p> <p>サポートについては、Cisco TelePresence Support フォーラム にアクセスしてください。</p> <p>学習のために以下にアクセスしてください: https://developer.cisco.com/site/roomdevices</p>
HttpClient	<p>着信応答ペイロードまたはヘッダーの読み取りはサポートされない</p> <p>HttpClient 機能は、要求が行われた後にステータスコードまたはエラーの説明を返しますが、要求の応答ペイロードを読み取ることはできません。</p> <p>HTTPS 要求を送信するには、CA 証明書が必要です</p> <p>デフォルトでは、コーデックはサーバ証明書の検証を試行します。リモートホストの証明書を確認できる CA が存在しない場合、要求は失敗します。有効な CA 証明書をアップロードするか (推奨)、安全でない HTTPS 要求を許可するようにデバイスを設定します (非推奨)。</p>

<p>Wi-Fi</p>	<p>WPA-EAP</p> <p>現在、期限切れ証明書に対する診断メッセージがありません。</p> <p>CA 証明書</p> <p>CA 証明書は、エンドポイントごとにアップロードする必要があります。CE9.2.1 より前のソフトウェアのバージョンを実行している複数のエンドポイントに証明書を一括配布する方法は、現在のところありません。エンドポイントは、CA 証明書を必要とする WPA-EAP 対応ネットワークに接続しようとする前に、証明書をアップロードするために有線ネットワークまたは WPA2-PSK 無線ネットワークのいずれかに接続する必要があります。</p> <p>ビデオシステムが Wi-Fi で接続されているときに、ネットワークがペアリングされた Touch 10 がサポートされません</p> <p>この接続が機能したとしても、Wi-Fi パスワードが変更されるなど、何らかの理由で Wi-Fi 接続が失われてしまうと、面倒なシナリオに陥ります。Wi-Fi 接続を再構成するには、Touch 10 を再接続する前に、ビデオシステムと Touch 10 の間で直接のペアリングを設定する必要があります。ビデオ システムが Wi-Fi 接続を使用している場合、Touch 10 とビデオ システムを直接ペアリングすることをお勧めします。</p>
<p>Cisco Webex Quad Camera</p>	<p>Cisco Webex Room Kit Plus カメラのアップグレードの問題</p> <p>Cisco Webex Room Kit Plus の脆弱性が発見されました。Cisco Webex Codec Plus で初期設定へのリセットが実行されると、ソフトウェアがすでに同期されていない場合、カメラソフトウェアへのリンクが削除され、コーデックは Cisco Webex Quad Camera にアップグレードできないままとなります。回避策は CE9.1.1 を再インストールすることでしたが、このリリースは提供停止となりました。問題は、CE9.1.2 以降で解決されています。</p>
<p>ISDN リンク</p>	<p>ISDN リンクでは、コーデックおよび CE、CE9.3.0 以降で IPv6 を有効にする必要があります。</p>

<p>Cisco Webex Room シリーズ</p>	<p>CUCM を使用したアップグレード</p> <p>Cisco Webex Room シリーズをアップグレードするときは、「.pkg」ではなく必ず「.loads」拡張子を使用してください。</p> <p>H263 コンテンツチャネルのサポート (CE9.4.0)</p> <ul style="list-style-type: none"> - メインビデオチャネルでは H263 はサポートされていません。
<p>オーディオ コンソール</p>	<p>オーディオコンソール UI でイコライザ間で選択できるだけで、作成することはできないため、xAPI を介してイコライザを作成する必要があります。</p> <p>「非アクティブビデオでミュート (Mute on inactive video)」が設定されている HDMI 入力コネクタを追加すると、最初に追加されていないように見えます。そして 2 回目に追加する必要があります。</p> <p>オーディオコンソールを設定すると、設定はライブで更新されますが、保存されるまでマクロには保存されません。オーディオコンソールの設定を保存しない場合、デバイスを再起動すると失われます。</p>
<p>HDCP</p>	<p>デバイスがスタンバイに入っていません</p> <p>たとえば、Google Chromecast を接続した場合、スタンバイアクティビティによって Chromecast がコーデックに「アクティブ」信号を送信し、再起動を強制するため、デバイスはスタンバイに入ることができません。</p> <p>すべてのコンテンツは、有効になっている場合は HDCP と見なされます。</p> <p>HDCP をサポートするように入力設定されている場合、この入力に接続されているものは、そうでない場合でも、HDCP コンテンツと見なされます。これにより、コール中にこのポートからコンテンツを共有することができなくなります。以前と同じ方法で、何かをローカルに共有することができますが、デュアルスクリーンデバイスでは、1</p> <p>画面でのみコンテンツを表示できることに注意してください。会議室デバイスが 1 つまたは 2 つの HDCP 出力をサポートしているかどうかを確認します。</p>

<p>CMS 会議への参加者の追加</p>	<p>SIP でのみ機能し、H323 では機能しない CMS 2.4 が必要</p>
<p>TRC6 リモート制御</p>	<p>CSCvm79929 CE9.3.0 以降では、TRC6 リモートコントロールを使用して文字を入力することはできていません。文字入力にオンスクリーンキーボードを使用してください。</p>
<p>タッチリダイレクト</p>	<p>コール中でないときにのみタッチ転送を使用可能</p> <p>これは既知の制限であり、タッチリダイレクトモードでは、注釈を開始したり、プレゼンテーションを停止したりすることはできません。これは、タッチオーバーレイが画面全体をカバーしているためです。プレゼンテーションを停止するには、USB-C ケーブルと HDMI ケーブルを取り外します。</p> <p>Webex Board に Touch 10 コントローラが接続されている場合、USB-C ケーブルが接続されている間はセルフビュー画像を動かすことはできません。</p> <p>タッチリダイレクトを使用しているときに着信コールを受け付けると、接続は自動的にオフになります。コールが終了した後でタッチリダイレクトを再確立するには、ケーブルを接続し直す必要があります。</p> <p>タッチリダイレクト機能では、Windows 10 以降を実行しているラップトップのみがサポートされます。シナリオによって、また、他の OS で特定のタッチドライバーを使用している場合も、動作する可能性はありますが、TAC では Windows 10 以外の OS での問題についてはサポートしないことに注意してください。</p>
<p>Webex Edge for Devices</p>	<p>現在 Webex Edge for Devices にリンクされているデバイスを、CE9.9.x などのサポート対象外のバージョンにダウングレードすると、デバイスはクラウドに登録されているものと認識するため、特定の機能が使用できなくなります。この問題を解決するには、デバイスをサポート対象外のバージョンにダウングレードする前に、デバイスを初期設定にリセットします。</p>

相互運用性

相互運用性のセクションでは、このリリースで相互運用性がテストされた機器とソフトウェア
リビジョンについて説明します。注: このセクションに記載のないデバイスやリビジョンは、
相互運用性がないというわけではありません。

H.323 ゲートキーパー/トラバーサル サーバ

機器	ソフトウェアのバージョン	説明
Cisco TelePresence System Video Communication Serve (VCS)	X8.x	Assent と H.460.18/.19 トラバーサルの両テクノロジーがサポートされる

SIP レジストラ/プロキシ

機器	ソフトウェアのバージョン	説明
CUCM	9.1(2)、10.5、11.0、11.5、 12.0	常に最新のデバイス パックを使用するようにお勧 めします。
Cisco TelePresence System Video Communication Serve (VCS)	X8.x	

ゲートウェイの相互運用性

機器	ソフトウェアのバージョン	説明
Cisco ISDN Link	IL1.1.7、IL1.1.8、IL1.1.9	CE9.3.0 以降
Cisco ISDN GW 3241	2.2	

MCU の相互運用性

機器	ソフトウェアのバージョン	説明
Cisco Meeting Server (CMS)	2.x	
Cisco Telepresence Server 7010	4.3(x.x)	
Virtual TelePresence Server	4.3(x.x)	
Cisco Telepresence Server MSE 8710	4.3(x.x)	
Cisco MCU 53xx	4.5(x.x)	
Cisco MCU 42xx	4.5(x.x)	
Cisco MCU 45xx	4.4, 4.5(x.x)	
Cisco CTMS	未サポート	CTMS は、コラボレーション エンドポイント ソフトウェアを実行しているエンドポイントでサポートされません。

ストリーミング サーバ

機器	ソフトウェアリビジョン	説明
Cisco TelePresence System Content Server	TCS7.x	

管理サーバ

機器	ソフトウェアリビジョン	説明
CTS マネージャ	未サポート	CTS マネージャは、コラボレーション エンドポイント ソフトウェアを実行しているエンドポイントでサポートされません。
TelePresence Management Suite	15.10	最新の製品の管理をサポートするためには、最新バージョンの TMS を推奨します。

エンドポイントの相互運用性

一般情報	既知の影響を受けるエンドポイント		説明
H.265 の相互運用性	Polycom Lifesize Vidyo		<p>シスコでは、H.265 エンドポイント (SX80、MX700、MX800、MX800D、および Cisco Webex Room シリーズ) とサードパーティのエンドポイントとの相互運用性の問題を確認していません。症状としては、一方または両方の方向からのビデオが着信されません。</p> <p>一部のケースでは、この問題を解決できる回避策は、上記の Cisco エンドポイントで H.265 を無効にすることです。Web インターフェイスより、[システム設定 (System Configuration)] で「H265」を検索し、[実験用会議 1 ビデオプロトコル H265 無効化 (Experimental Conference 1 VideoProtocol DisableH265)] を [オン (On)] に設定してください。</p>
Cisco	ソフトウェアのバージョン	プロトコル	説明
Cisco TelePresence System 500 シリーズ	1.10.7 (Ten Bears)	SIP	最大解像度 720p30 ポイントツーポイント

3x00 シリーズ 1x00 シリーズ TX9000 TX9200 TX1310			
Cisco TelePresence System CTS500-32 TX1300 TX9000 TX9200	TX6.0.2 (Lago)	SIP	Lago 1G コーデックで 1080p30/60 のサポート
Cisco TelePresence MX G1 シリーズ	TC6.x、TC7.x	SIP/H.323	
Cisco TelePresence EX シリーズ	TC6.x、TC7.x	SIP/H.323	
Cisco TelePresence C シリーズ	TC6.x、TC7.x	SIP/H.323	
Cisco IP Video Phone E20	TE4.1.x	SIP/H.323	
Sony	ソフトウェアのバージョン	プロトコル	説明
Sony PCS-1		H.323/SIP	デュアル ストリームは 1 FPS に制限されます。 メイン ビデオのフレーム レートは 15 FPS を超えることはありません。
Sony PCS-XG80		H.323/SIP	SIP 遠端カメラ制御が機能しません。 SIP 暗号化コールが機能しません。 SIP/H.323 転送が機能しません。 Sony はプレゼンテーション (BFCP) を開始できません。

Lync	ソフトウェアのバージョン	プロトコル	説明
Microsoft Lync	2013	VCS x8 からの VCS トラ ンク経由で の SIP	2013 年 9 月にリリースされた VCS X8 が必要です。
Polycom	ソフトウェアのバージョン	プロトコル	説明
Polycom VSX 7000		H.323/SIP	ビデオ レートが低く、メイン ビデオがシャープネスに設定されている場合、VSX にビデオは表示されません。 SIP/H.323 転送が機能しません。 H.264 は低帯域幅でのみ使用されます。
Polycom Real Presence Group 500		H.323/SIP	FECC 制御が着信コールで動作しません。 H.323 無人転送が着信/発信コールで失敗します。 発信コールでの CE から CE への SIP 無人転送にビデオが含まれません。
Polycom Real Presence Group 300		H.323/SIP	FECC 制御が発信/着信コールで使用できません。 H.323 無人転送が発信コールのすべてのコールを 切断します。 発信コールでの CE から CE への SIP 無人転送にビ デオが含まれません。 H.323 無人転送は成功しますが、着信コールの 両端でビデオが失われます。
Polycom HDX 9000		H.323/SIP	
Polycom HDX 8000 HD		H.323/SIP	CE エンドポイントへの発信コールの SIP にビデ オが含まれません。

カメラ

機器	ソフトウェアリビジョン	説明
Sony SRG-120DH Sony EVI-120DH	該当なし	パン、ティルト、ズーム機能はサポートされます。 スタンドアロンのプレシジョン 60 もサポートしているデバイスでも動作します。 例: Cisco Webex Codec Plus、Room Kit Pro、Cisco TelePresence SX80
サードパーティのカメラ	該当なし	Cisco のコーデックをサードパーティのカメラにより使用することが可能ですが、テストされていないため、機能は保証できません。TAC サポートは拒否または制限される場合があります。

最適な相互運用性を実現するためのCisco の推奨画面

Cisco では、最高のビジュアルエクスペリエンスと検証済みの CEC 2.0 互換性を実現するため、次の LG および Samsung デジタルサイネージ画面を Cisco Webex ルームシリーズやその他のルームデバイスと併用することを推奨します。

モデル	LG グローバルウェブサイト リンク
49" UHD (49UH5C)	http://www.lg.com/global/business/information-display/digital-signage/lg-49UH5C
55" UHD (55UH5C)	http://www.lg.com/global/business/information-display/digital-signage/lg-55UH5C
65" UHD (65UH5C)	http://www.lg.com/global/business/information-display/digital-signage/lg-65UH5C
75" UHD (75UH5C)	http://www.lg.com/global/business/information-display/digital-signage/lg-75UH5C
86" UHD (86UH5C)	http://www.lg.com/global/business/information-display/digital-signage/lg-86UH5C
98" UHD (98UH5C)	http://www.lg.com/global/business/information-display/digital-signage/lg-98LS95D

モデル	LG グローバルウェブサイト リンク
QMN シリーズ (43"、49"、55"、 65"、75")	https://displaysolutions.samsung.com/digital-signage/detail/1269/QM43N
QMH シリーズ (49"、55"、65")	https://displaysolutions.samsung.com/digital-signage/detail/1144/QM49H
QBN シリーズ (43"、49"、55"、 65"、75")	https://displaysolutions.samsung.com/digital-signage/detail/1274/QB43N
QBH シリーズ (65"、75")	https://displaysolutions.samsung.com/digital-signage/detail/1205/QB65H

- ❑ 高品質な HDMI 2.0 対応ケーブルの使用を推奨します。低品質なケーブルでも動作する場合がありますが、画質に影響を及ぼす可能性があります。問題が発生し、高品質ケーブルにアクセス権がない場合、短い HDMI ケーブルを使用してみてください。

xAPI の変更

エンドポイントの設定は、xAPI コマンドラインからでなく Web インターフェイスから行うことを推奨します。

xAPI からの場合、管理ユーザは関連のコマンドと設定のサブセットにしかアクセスできません。Web インターフェイスでは、管理ユーザはすべての設定を使用でき、システムを完全に管理できます。リモートサポート ユーザは、使用している場合、xAPI コマンドの完全なリストにアクセスできます (TAC 契約が必要)。

特定の xAPI の変更はリリースノートに公開されません。インテグレート製品の Cisco API のリファレンス ガイドは、以下のリンクより参照してください。

DX70 および DX80 : <http://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints/desktop-collaboration-experience-dx600-series/products-command-reference-list.html> **[英語]**

MX シリーズ : http://www.cisco.com/c/ja_jp/support/collaboration-endpoints/telepresence-mx-series/products-command-reference-list.html

SX シリーズ : http://www.cisco.com/c/ja_jp/support/collaboration-endpoints/telepresence-quick-set-series/products-command-reference-list.html

Cisco Webex Room シリーズ : http://www.cisco.com/c/ja_jp/support/collaboration-endpoints/spark-room-kit-series/products-command-reference-list.html

Cisco Webex Board : https://www.cisco.com/c/ja_jp/support/collaboration-endpoints/spark-board/products-command-reference-list.html

Cisco TelePresence systems のハードウェア依存

概要

ハードウェア コンポーネントの更新に伴い、新たに製造されたエンドポイントで古いソフトウェアを実行する場合の制約が生じることがあります。エンドポイントの互換性レベルを確認するには、エンドポイントの Web インターフェイスにアクセスし、[設定(Configuration)] > [システム ステータス (System Status)] > [システム ユニット (SystemUnit)] の順にクリックします。このページで、[互換性レベル (Compatibility level)] までスクロールします。次の表を使用して、エンドポイントの互換性レベルに基づいてソフトウェアの制約を判別することができます。

サポートされないソフトウェアのバージョンにダウングレードすると、障害が発生します。

最新のソフトウェアリリースは、以前のハードウェア リビジョンと後方互換性があります。

SX10

互換性レベル	適用可能なシステム	説明	最小ソフトウェアのバージョン	
			CE8	CE9
0	SX10	該当なし	すべて	すべて
1	SX10	該当なし	すべて	すべて
2	SX10	該当なし	すべて	すべて
3	SX10	該当なし	すべて	すべて

SX80、MX700、MX800、MX800 Dual

互換性レベル	適用可能なシステム	説明	最小ソフトウェアのバージョン	
			CE8	CE9
0	SX80	該当なし	すべて	すべて
0	MX700/MX800/MX800D	該当なし	すべて	すべて

SX20、MX200 G2 および MX300 G2

互換性レベル	適用可能なシステム	説明	最小ソフトウェアのバージョン	
			CE8	CE9
2	SX20	該当なし	すべて	すべて
3	SX20	該当なし	すべて	すべて
4	SX20	該当なし	すべて	すべて
5	SX20	該当なし	すべて	すべて
0	MX200 G2	該当なし	すべて	すべて
1	MX200 G2	該当なし	すべて	すべて
2	MX200 G2	該当なし	すべて	すべて
0	MX300 G2	該当なし	すべて	すべて
1	MX300 G2	該当なし	すべて	すべて
2	MX300 G2	該当なし	すべて	すべて

DX シリーズ

互換性レベル	適用可能なシステム	説明	最小ソフトウェアのバージョン	
			CE8	CE9
0	DX70	該当なし	8.2.0	すべて
0	DX80	該当なし	8.2.0	すべて

Cisco Webex Room シリーズ

互換性レベル	適用可能なシステム	説明	最小ソフトウェアのバージョン	
			CE8	CE9
0	Cisco Webex Room Kit	なし	なし	すべて
1	Cisco Webex Room Kit	なし	なし	9.4.1
2	Cisco Webex Room Kit	なし	なし	9.4.2、 9.5.1
2	Cisco Webex Room Kit Plus	なし	なし	9.4.2、 9.5.1
0	Cisco Webex Room Kit Plus	なし	なし	9.1.1
0	Cisco Webex Room 55	なし	なし	9.1.3
1	Cisco Webex Room 55	なし	なし	9.4.1
2	Cisco Webex Room 55	なし	なし	9.4.2、 9.5.1
2	Cisco Webex Room 55 Dual	なし	なし	9.4.2、 9.5.1
0	Cisco Webex Room 55 Dual	なし	なし	9.4.0
0	Cisco Webex Room 70/70D	なし	なし	9.2.0
0	Cisco Webex Room Kit Pro	なし	なし	9.4.0
0	Cisco Webex Room 70/70D G2	なし	なし	9.4.0
0	Cisco Webex Room Kit Mini	なし	なし	9.6.0

Cisco Webex Board

互換性レベル	適用可能なシステム	説明	最小ソフトウェアのバージョン
			CE9
0	Cisco Webex Board 55	該当なし	9.8.0
0	Cisco Webex Board 70	該当なし	9.8.0
0	Cisco Webex Board 55S	該当なし	9.8.0
0	Cisco Webex Board 70S	該当なし	9.8.0
0	Cisco Webex Board 85S	該当なし	9.8.0

周辺機器のハードウェアの依存関係

Cisco TelePresence Touch 10 用の新しいハードウェア リビジョン

Touch 10 をサポートするシステムは、Cisco Webex Room シリーズ、SX10(N)、SX20(N)、SX80、MX200 G2、MX300 G2、MX700、MX800 および MX800D です。

タッチ コントローラでは、ハードウェア リビジョン番号は、起動時にタッチ スクリーンの右下に表示されます。現在のソフトウェアと互換性がないソフトウェアに関する Touch 10 画面にエラーが表示された場合は、ルームデバイスソフトウェアを最新の利用可能なバージョンにアップグレードしてください。

ハードウェア リビジョン	適用可能なシステム	説明	最小ソフトウェアのバージョン	
			CE8	CE9
102300-3 102310-0 102310-1	すべて	該当なし	サポートされるコーデックソフトウェアのバージョンはすべて、互換性がある	
101282-0	すべて	該当なし	8.3.3	9.1.1

Quad Camera の新しいハードウェアリビジョン

Quad Camera をサポートするシステムは、SX80、Room Kit Plus、Room Kit Pro、Codec Plus、Room 70/Room 70 G2 です。

Quad Camera のハードウェアリビジョンは、xStatus を使用して識別できます。

例 xStatus: 周辺機器接続デバイス XXXX ハードウェア情報: 『73-100746-1』。

ハードウェア情報	適用可能なシステム	説明	最小ソフトウェアのバージョン
			CE9
73-100746-0	すべて	該当なし	9.1.1 以降
73-100746-1	すべて	該当なし	9.3.3、9.4.1、9.5.0 以降

Precision 60 の新しいハードウェア改定

Precision 60 をサポートするシステムは、SX80、MX700、MX800 および MX800D、Room kit Plus、Room kit Pro、Codec Plus、および Room 70 です。

Precision 60 カメラの新しいハードウェアリビジョンは、ベースの下にあるステッカーに印刷された実稼働日によって識別されます。ステッカーが存在せず、現在のソフトウェアのバージョンと互換性がないカメラに関するエラーメッセージが画面に表示されている場合は、ルームデバイスを最新のソフトウェアにアップグレードしてください。

製造日	適用可能なシステム	説明	最小ソフトウェアのバージョン
			CE9
2018 年 7 月 以前	すべて	該当なし	サポートされるコーデックソフトウェアのバージョンはすべて、互換性がある
2018 年 8 月 以降	すべて	該当なし	9.3.3、9.4.1、9.5.x、9.6.x 以降

次の表には、このマニュアルで参照されるドキュメントおよび Web サイトを示します。すべての製品ドキュメントはシスコの Web サイトにあります。

名前	参照ドキュメント
Cisco の Web サイト	http://www.cisco.com
Cisco Software のダウンロード	http://www.cisco.com/cisco/software/navigator.html?i=!ch
Cisco TelePresence User Documentation	http://www.cisco.com/go/TelePresence/docs

最新のソフトウェア ファイル名

次の表に、リリース済みのソフトウェア ファイル名を示します。

Cisco コラボ レーション エンドポイント	暗号化および暗号化なし* : CUCM 用	暗号化および暗号 化なし*	暗号化および暗号化なし* バンドル** : CUCM 用
SX10	cmterm-s52030ce9_10_0- 50f5888d087.k3.cop.sgn	s52030ce9_10_0- 50f5888d087.pkg	cmterm-ce9_10_0- 50f5888d087.k3.cop.sgn
SX20	cmterm-s52010ce9_10_0- 50f5888d087.cop.sgn cmterm-s52011cenc9_10_0- 50f5888d087.k3.cop.sgn	s52010ce9_10_0- 50f5888d087.pkg s52011cenc9_10_0- 50f5888d087.pkg	cmterm-ce9_10_0- 50f5888d087.k3.cop.sgn ***
SX80、MX700、 MX800、MX800 Dual	cmterm-s52020ce9_10_0- 50f5888d087.k3.cop.sgn	s52020ce9_10_0- 50f5888d087.pkg	cmterm-ce9_10_0- 50f5888d087.k3.cop.sgn
MX200 G2、 MX300 G2	cmterm-s52010ce9_10_0- 50f5888d087.k3.cop.sgn	s52010ce9_10_0- 50f5888d087.pkg	cmterm-ce9_10_0- 50f5888d087.k3.cop.sgn
DX80、DX70 変換の負荷	cmterm-s52040ce9_10_0- 50f5888d087.k3.cop.sgn cmterm-synergy- ce9_7_1_no_defaults.cop.sgn	s52040ce9_10_0- 50f5888d087.pkg	cmterm-ce9_10_0- 50f5888d087.k3.cop.sgn
Cisco Webex Room シリーズ Board シリーズ Room 55/70	cmterm-s53200ce9_10_0- 50f5888d087.k3.cop.sgn	なし	cmterm-ce9_10_0- 50f5888d087.k3.cop.sgn
Cisco Webex Room Kit Pro Room 70 G2	cmterm-s53300ce9_10_0- 50f5888d087.k3.cop.sgn	なし	cmterm-ce9_10_0- 50f5888d087.k3.cop.sgn

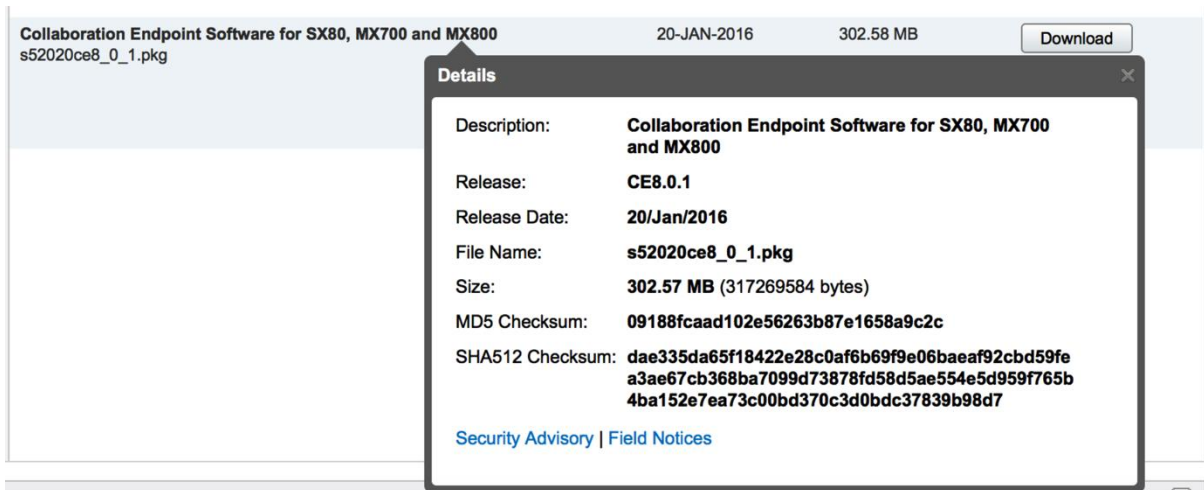
* SX20 は非暗号化に別個のソフトウェアイメージが必要な唯一の製品です。他のすべての製品 (Cisco Webex Room Series、DX70、および DX80 を除く) では、無料の暗号化オプションキーにより制御されています。

** この Cisco Options Package では、すべての CE プラットフォームのソフトウェアパッケージが 1 つのファイル内に含まれています。

*** COP バンドルには、SX20 用の非暗号化パッケージは含まれません。

ソフトウェア整合性の確認

cisco.com からダウンロードしたソフトウェア イメージの整合性を確認するには、SHA512 チェックサムを計算し、それがソフトウェアのダウンロード ページに記載されているものと一致するかを確認します。チェックサムを検索するには、ダウンロードしたソフトウェア イメージにマウス ポインタを移動します。



下部に SHA512 チェックサムが表示されます。チェックサムの一部しか表示されない場合は、末尾の「...」を押すと、展開することができます。

ローカルデスクトップで SHA512 チェックサムを計算する場合は、次の表を参照してください。

オペレーティングシステム	SHA512 チェックサム の計算コマンド例
Microsoft Windows	コマンドラインウィンドウを開き、次のコマンドを入力する <pre>> certutil.exe -hashfile s52020ce9_10_0-50f5888d087.pkg SHA512</pre>
Apple MAC	ターミナルウィンドウを開き、次のコマンドを入力する <pre>\$ shasum -a 512 s52020ce9_10_0-50f5888d087.pkg</pre>
Linux	ターミナルウィンドウを開き、次のコマンドを入力する <pre>\$ sha512sum s52020ce9_10_0-50f5888d087.pkg</pre> または <pre>\$ shasum -a 512 s52020ce9_10_0-50f5888d087.pkg</pre>

SHA512 チェックサムが一致すれば、ソフトウェア イメージが改竄されておらず、ダウンロード中にイメージが破損されていない確実性は高くなります。

SHA512 チェックサムが一致しない場合、いかなるシステムもこの破損したソフトウェア イメージでアップグレードしないことをお勧めします。ソフトウェアを再度ダウンロードし、SHA512 チェックサムを再度確認してください。何度も不一致になる場合は、Cisco Technical Assistance Center に状況を報告してください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任となります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

Cisco が採用している TCP ヘッダー圧縮機能は、UNIX オペレーティング システムの UCB (University of California, Berkeley) のパブリック ドメイン バージョンとして、UCB が開発したプログラムを採用したものです。All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよび上記代理店は、商品性、特定目的適合、および非侵害の保証、もしくは取り引き、使用、または商慣行から発生する保証を含み、これらに限定することなく、明示または黙示のすべての保証を放棄します。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアルの中の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジー図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際の IP アドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

印刷版と複製ソフトは公式版とみなされません。最新版はオンライン版を参照してください。

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。各オフィスの住所、電話番号、FAX 番号は当社の Web サイト (www.cisco.com/go/offices/ [英語]) をご覧ください。

Cisco および Cisco のロゴは、米国およびその他の国における Cisco およびその関連会社の商標を示します。Cisco の商標の一覧については、<http://www.cisco.com/go/trademarks> をご覧ください。Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. 「パートナー」という用語の使用は Cisco と他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1110R)